

浅川扇状地遺跡群

天神木遺跡
樋爪遺跡
権現堂遺跡

——長野市稲田南土地区画整理事業地点——

2004・3

長野市教育委員会

序

善光寺平は、東縁に上信越国立公園山系より延びる火山性の東部山地、西縁を海底等の隆起による堆積性の犀川丘陵山地に囲まれ、南北に長い盆地が形成されています。

そして盆地の内部では、千曲川によってもたらされた沖積地とそこに注ぎ込む大小の河川による扇状地が発達しております。

このような複雑多岐にわたる地形の上に、現在の長野市が成り立っていて、そこにはそれぞれの地形や立地に応じて様々な生活や生産活動が見られ、古代から営々と続いてきた人々の英知の集合を見ることができます。

当遺跡は、飯縄山を水源とする浅川が形成した広大な扇状地上に立地し、通称「浅川扇状地遺跡群」と呼ばれる長野市北部を代表する遺跡群で、扇端の北側に位置しています。

ここに「長野市の埋蔵文化財」第104集として刊行致します本書には、この度の発掘調査によって得られた成果が詳しく掲載されております。連綿と綴られてきた人々の歴史の中のほんの一部にしかすぎませんが、地域史解明の一助としてお役立て頂ければこのうえない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際しまして多大なご尽力を賜りました関係諸氏、発掘作業に携わって頂きました作業員の皆様、また報告書刊行にいたるまでご指導頂きました関係機関・諸氏各位に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 陸秀

例言・凡例

- 1 本書は、長野市稲田南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長野市稲田南土地区画整理組合理事長 原 重利と長野市長 塚田 佐（～H12）・鷲澤正一との委託契約書に基づき、長野市教育委員会埋蔵文化財センターが直轄事業として実施した。
- 3 調査地は、長野市稲田字天神木・樋爪・権現堂他に所在する。
- 4 調査は、地下埋設施設等で遺跡破壊が懸念される道路部分を対象にしたが、かざぐるま保育園建設地も基礎工事等で破壊の恐れがでてきたため発掘調査対象に加え、保護対象総面積は約24,500m²におよぶ。
- 5 本書は、発掘調査によって検出された遺構・遺物を中心にその基本資料を提示することに重点をおいた。
- 6 遺構測量は、平面直角座標第Ⅷ系（東経138°30′00″、北緯36°00′00″）の座標値と日本水準原点の標高を基準として、コーデックシステムを援用するため㈱写真測図研究所へ委託した。
- 7 遺構図は、住居址・掘立柱建物址等は1：80、土坑・井戸址は1：20と1：40、溝址は1：80と1：160・1：200の縮尺で提示した。キャプション等を参照にされたい。断面図の数値は標高を表す。
- 8 掲載図中、SB（住居址）・ST（掘立柱建物址）・SK（土坑）・SE（井戸址）・SD（溝址）・SX（性格不明遺構・堅穴状遺構）の略号をもちい、語頭の数字は調査区を示す。また、住居址のアミ部は焼土・炭化物の残存範囲を表す。
- 9 遺物図は、玉類・石鏃を実寸、土製品・古銭を1：2、石器類・土器類を1：4の縮尺で掲載した。弥生時代・古墳時代前期の土器実測図中のアミ部は赤色塗彩、古墳時代後期土器の点アミ部は黒色処理の範囲を示す。土器断面の塗りつぶしは須恵器である。
- 10 遺跡の略号は天神木遺跡・樋爪遺跡・権現堂遺跡ともに「A I D M」をもちい、注記には遺跡略号のあとに8と同様に地区遺構略号番号を記載してある。
- 11 調査担当者・整理担当者等は、I章3節調査の体制の項で記載した。
- 12 調査によって得られた諸資料は、長野市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

序

例言・凡例

目 次

I	調査の経過	1
1	調査事務の経過	1
2	発掘調査経過表	3
3	調査の体制	4
II	調査地周辺の環境	6
1	地理的環境	6
2	考古学的環境	8
III	調査	11
1	試掘調査	11
(1)	平成8年度の調査	11
(2)	平成10年度の調査	11
(3)	土地区画整理事業地内の遺跡	12
2	天神木遺跡の遺構と遺物	14
	遺構実測図	14
	遺物実測図	19
	遺構観察表	20
	遺物観察表	20
	遺構写真	22
	遺物写真	24
3	樋爪遺跡の遺構と遺物	25
	遺構実測図	27
	遺物実測図	37
	遺構観察表	48
	遺物観察表	49
	遺構写真	57
	遺物写真	62
4	権現堂遺跡の遺構と遺物	69
	遺構実測図	70
	遺物実測図	86
	遺構観察表	94
	遺物観察表	95
	遺構写真	100
	遺物写真	108
IV	ま と め	114

報告書抄録

挿 図 目 次

1 図	調査位置図	7
2 図	調査地周辺の地形図	7
3 図	調査地周辺の主要遺跡分布図	8
4 図	稲田南土地区画整理事業地範囲図	10
5 図	調査地周辺の字境図	10
6 図	試掘坑位置図	11
7 図	平成 8 年度試掘坑土層柱状図	12
8 図	平成 10 年度試掘坑土層柱状図	13
9 図	調査区配置図	13
10 図	天神木遺跡調査区及び遺構分布図	14
11 図	4・15・17・21 区遺構分布図	15
12 図	13・15・17・22・23 区遺構分布図	16
13 図	天神木遺跡住居址(1:80)、井戸址・溝址(1:40)実測図	17
14 図	天神木遺跡土坑(1:40)・井戸址(1:20)・溝址(1:80)実測図	18
15 図	天神木遺跡出土弥生・古墳時代・中世遺物実測図	19
16 図	天神木遺跡土坑・溝址・井戸址出土平安時代・中世土器実測図	19
17 図	樋爪遺跡調査区及び遺構分布図	25
18 図	2・5・7・8・12・29 区遺構分布図	27
19 図	5・18・19 区遺構分布図	28
20 図	樋爪遺跡住居址実測図	29
21 図	樋爪遺跡住居址実測図	30
22 図	樋爪遺跡住居址実測図	31
23 図	樋爪遺跡小穴群・方形溝址(1:80)・ 土坑(1:40、S K 1・4は1:20)実測図	32
24 図	樋爪遺跡土坑・土壙墓実測図	33
25 図	樋爪遺跡溝址実測図	34
26 図	樋爪遺跡溝址実測図	35
27 図	樋爪遺跡溝址実測図	36
28 図	樋爪遺跡住居址・検出面出土弥生時代中期土器実測図	37
29 図	樋爪遺跡住居址・土坑・溝址出土弥生時代中期土器実測図	38
30 図	樋爪遺跡検出面・溝址出土弥生時代中期土器実測図	39
31 図	樋爪遺跡検出面出土弥生時代後期土器実測図	40
32 図	樋爪遺跡住居址・土坑出土古墳時代前期実測図	41
33 図	樋爪遺跡溝址出土古墳時代前期土器実測図	42

3 4 図	樋爪遺跡溝址・小穴・竪穴状遺構出土古墳時代前期土器実測図	43
3 5 図	樋爪遺跡住居址・検出面出土古墳時代前期土器実測図	44
3 6 図	樋爪遺跡溝址・検出面出土古墳時代中期土器実測図	45
3 7 図	樋爪遺跡住居址・土坑・溝址・検出面出土古墳時代中期土器実測図	46
3 8 図	樋爪遺跡住居址・溝址出土奈良時代土器実測図	47
3 9 図	樋爪遺跡出土石・土・ガラス製品実測図	47
4 0 図	権現堂遺跡調査区及び遺構分布図	70
4 1 図	33・34区遺構分布図	70
4 2 図	3・6・10・11・20区遺構分布図	71
4 3 図	1・14・16・25西区遺構分布図	72
4 4 図	9・24図遺構分布図	73
4 5 図	25～28・30～32区遺構分布図	74
4 6 図	権現堂遺跡住居址実測図	75
4 7 図	権現堂遺跡住居址実測図	76
4 8 図	権現堂遺跡住居址実測図	77
4 9 図	権現堂遺跡小穴群・溝址・掘立柱建物・井戸址実測図	78
5 0 図	権現堂遺跡小穴群・掘立柱建物跡・井戸址・実測図	79
5 1 図	権現堂遺跡土坑実測図	80
5 2 図	権現堂遺跡土坑実測図	81
5 3 図	権現堂遺跡土坑実測図	82
5 4 図	権現堂遺跡竪穴状遺構・小穴群	83
5 5 図	権現堂遺跡溝址実測図	84
5 6 図	権現堂遺跡溝址実測図	85
5 7 図	権現堂遺跡出土弥生時代土器実測図	86
5 8 図	権現堂遺跡住居址・土坑・溝址出土古墳時代土器実測図	87
5 9 図	権現堂遺跡土坑・溝址・小穴出土古墳時代前期土器実測図	88
6 0 図	権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図	89
6 1 図	権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図	90
6 2 図	権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図	91
6 3 図	権現堂遺跡土坑・溝址出土古墳時代後期土器実測図	92
6 4 図	権現堂遺跡井戸址・土坑・小穴・竪穴状遺構出土中世遺物実測図	92
6 5 図	権現堂遺跡住居址・溝址・井戸址・検出面出土奈良平安時代土器実測図	93
6 6 図	権現堂遺跡出土石・土製品実測図	93

写真目次

P L 1	天神木遺跡調査区・溝址・小穴群	22
P L 2	天神木遺跡溝址・井戸址	23
P L 3	天神木遺跡出土遺物	24
P L 4	樋爪遺跡調査区・住居址	57
P L 5	樋爪遺跡住居址	58
P L 6	樋爪遺跡住居址・掘立柱建物址・土坑・小穴	59
P L 7	樋爪遺跡土坑・溝址	60
P L 8	樋爪遺跡溝址	61
P L 9		62
P L 1 0		63
P L 1 1		64
P L 1 2		65
P L 1 3		66
P L 1 4		67
P L 1 5		68
P L 1 6	権現堂遺跡調査区	100
P L 1 7	権現堂遺跡調査区・住居址	101
P L 1 8	権現堂遺跡住居址	102
P L 1 9	権現堂遺跡住居址・掘立柱建物址	103
P L 2 0	権現堂遺跡小穴群・井戸址	104
P L 2 1	権現堂遺跡井戸址・土坑・小穴	105
P L 2 2	権現堂遺跡小穴・土坑・竪穴状遺跡	106
P L 2 3	権現堂遺跡竪穴状遺跡・溝址	107
P L 2 4		108
P L 2 5		109
P L 2 6		110
P L 2 7		111
P L 2 8		112
P L 2 9		113

I 調査の経過

1 調査事務の経過

長野市稲田南土地区画整理事業地における埋蔵文化財の存在は、稲田徳間土地区画整理事業による発掘調査以後も浅川扇状地扇端部に所在する二ツ宮遺跡の一部が展開しているであろう程度の推測にすぎなかった。それでも開発事業が広大な面積（23.4ha）におよぶことから、土地区画整理組合理事長の試掘調査依頼により平成9年度工事着工予定地の試掘調査を実施した。以下報告書刊行までの事務経過を記する。

[平成8年度]

2月19日 試掘調査を実施する（Ⅲ章1節）。

[平成10年度]

6月5日付 文化財保護法（法）57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を受理する。同日付で発掘調査の必要がある旨を記して長野県教育委員会（県教委）教育長宛に進達する。

8月3日付 「開発行爲に伴う埋蔵文化財確認調査について（試掘依頼）」を受理する。調査対象地は権現堂・天神木・曲り木・中沢・樋爪地籍である。

9月2日・3日 試掘調査を実施する（Ⅲ章1節）。

9月25日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結する。

9月30日付（株）鹿熊組代表取締役 鹿熊 肇・西沢産業(株)代表取締役 西沢光雄と重機等に関する「賃貸借契約書」を締結する。

10月12日付 法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の報告について」を県教委教育長宛に提出する。

10月12日～3月10日 1～9調査区の発掘調査を実施する（4,050m²）。弥生時代から平安時代の住居址9軒・掘立柱建物址1棟・土坑61基・溝址84条・小穴多数を検出する。

11月5日付 県教委教育長より「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」がある。

1月11日付（株）写真測図研究所代表取締役 杉本幸治と遺構測量等に関する「業務委託契約書」を締結する。

3月23日付 埋蔵文化財発掘調査委託業務実績報告書・収支精算書を提出する。

[平成11年度]

4月1日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結する。

4月1日付 県教委教育長宛「発掘調査範囲について（申請）」を提出する。5月24日付で「発掘調査範囲の決定について（通知）」がある。

4月1日付 新東建設(株)代表取締役 柳沢忠明・(株)鹿熊組代表取締役・西沢産業(株)代表取締役と重機等に関する「賃貸借契約書」を締結する。

4月4日付 法57条の2第1項の規定に基づく発掘調査の届出があり、4月5日付で県教委教育長宛に進達する。

4月12日付 県教委教育長宛に法98条の2第1項の規定に基づく発掘調査の報告を行う。

4月12日～2月29日 10～25調査区の発掘調査を実施する（15,000m²）。弥生時代から平安時代にかけての住居址7軒・掘立柱建物址1棟・土坑77基・溝址152条・小穴多数を検出した。

- 6月8日付 (株)写真測図研究所代表取締役と遺構測量等に関する「業務委託契約書」を締結する。
- 5月11日付 県教委教育長より土木工事等の通知がある。
- 1月7日付 (株)守谷商会代表取締役 齋藤嘉徳と重機等に関する「賃貸借契約書」を締結する。
- 3月1日付 長野中央警察署長宛に「埋蔵文化財の発見について（通知）」を、県教委教育長・土地区画整理理事長宛に「発掘調査終了届（通知）」を提出する。
- 3月16日付 「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」（減額）を締結する。
- 3月23日付 実績報告書および収支精算書を提出する。
- [平成12年度]
- 4月12日付 「開発行為にともなう埋蔵文化財発掘調査について（依頼）」を受理する。
- 4月17日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結する。
- 4月24日付 第一建設工業(株)取締役長野支店長 宮田忠明と重機等に関する「賃貸借契約書」を締結する。
- 5月8日～12月21日 26～34調査区の発掘調査を実施する（5,530㎡）。古墳時代から中世にかけての住居址8軒・土坑29基・井戸址6基・溝址46条・小穴多数を検出した。
- 5月15日付 (株)写真測図研究所代表取締役と遺構測量等に関する「業務委託契約書」を締結する。
- 6月2日付 (株)鹿熊組代表取締役と重機等に係わる「賃貸借契約書」締結する。
- 8月3日付 法57条の2第1項の規定に基づく発掘調査の届出を受理し、8月4日付で県教委教育長宛に進達する。
- 8月18日付 県教委教育長より土木事業等の通知がある。
- 12月25日付 長野中央警察署長宛に「埋蔵文化財の発見について（通知）」を、土地区画整理組合理事長宛に「発掘調査終了届（通知）」を、県教委教育長宛に「発掘調査終了報告書」を提出する。
- 2月26日付 「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」（増額）を締結する。
- 3月19日付 実績報告書および収支精算書を提出する。
- [平成13年度]
- 4月6日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」（整理）を締結する。
- 4月9日付 第一建設工業(株)取締役長野支店長とコンテナハウス等の「賃貸借契約書」を締結する。
- 3月27日付 「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」（減額）を締結する。
- 3月28日付 実績報告書および収支精算書を提出する。
- [平成14年度]
- 4月5日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」（整理）を締結する。
- 11月28日付 (株)吉田生物研究所代表取締役 吉田秀男と木製品保存処理（高級アルコール法）に係わる「業務委託請書」を受理する。3月28日に業務完了し、成果品を受理する。
- 3月27日付 「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」（減額）を締結する。
- 3月28日付 実績報告書および収支精算書を提出する。
- [平成15年度]
- 4月15日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」（整理）を締結する。
- 2月12日 発掘調査報告書の印刷を発注する。3月30日報告書を刊行する。
- 3月30日付 「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」（減額）を締結する。
- 3月31日付 実績報告書および収支精算書を提出する。

2 発掘調査経過表

[平成10年度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1区							▬					
2区							▬	▬				
3区								▬	▬	▬		
4区							▬					
5区								▬	▬	▬		
6区								▬	▬	▬		
7区									▬			
8区										▬	▬	
9区											▬	▬

[平成11年度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10区	▬	■										
11区	▬	■										
12区	▬											
13区	▬											
14区	▬											
15区		▬										
16区			▬	■								
17区				▬	■							
18区				▬	■	■						
19区					▬	■	■					
20区					▬							
21区					▬							
22区					▬							
23区						▬						
24区								▬				
25区										▬		

※白抜きは1次面の調査、黒塗りは2次面の調査



I-1 18区の調査



I-2 19区の調査

[平成12年度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26区		□										
27区		□										
28区			□									
29区			□									
30区						□	■					
31区						□	■					
32区								□				
33区								□				
34区									□			

※白抜きは1次面の調査、黒塗りは2次面の調査

3 調査の体制

長野市域における埋蔵文化財の保護については、学術調査および史跡等の保護保存にかかわるものについては長野市教育委員会文化課が担当し、開発行為に対応する緊急発掘調査は埋蔵文化財センターの直轄事業として実施している。

長野市稲田南土地地区画整理事業地における発掘調査の組織・業務分担は以下のとおりである。

- 調査主体者 長野市教育委員会教育長 久保 健（～H13）・立岩睦秀（H14～）
- 総括管理者 埋蔵文化財センター所長 小林重夫（～H10）・中島昌之（H11、副参事）・磯野久夫（H12～、H15副参事）
- 庶務担当 所長補佐兼庶務係長 宮沢秀幸（H10）
 係長 北村実寛（H10～13）・山岸恒雄（H14～、予算管理・契約・庶務）
 職員 青木厚子（～H14）・吉村久江（H15）
- 調査担当 所長補佐兼調査係長 矢口忠良（報告書編集、H15局主幹）
 係長 千野 浩（H8保護協議・試掘調査・遺物実測、H14係長、～H14、H15文化課兼務職員）・青木和明（～H14文化課兼務職員、H11係長）
 主査 飯島哲也（保護協議、H12主査）
 主事 風間栄一（遺物写真）・小林和子（主任調査員・保護協議・H10試掘調査・遺構写真）
 専門主事 荒木 宏（～H12）
 専門員 中殿章子（～H13、遺物実測）・西沢真弓（～H14、調査員）・山田美弥子（～H13）・小野由美子・堀内健次（調査員）・藤田隆之（～H13、調査員）・宮川明美（遺物実測）・小林まゆ佳（～H11）・清水竜太（調査員）・内山 梢（H13・14）・山下大輔（H14～）・遠藤恵美子（H14～、遺物実測）・長瀬 出（H15、遺物実測）・山野井智子（H15）

特別調査員 長野市立博物館学芸員 畠山幸司（馬骨部位の同定）

臨時調査員 青木善子（遺物図浄書）・池田寛子（遺構図浄書）・鳥羽徳子（遺物実測）・中殿章子（遺物実測）・
武藤信子（遺構整図・遺物実測）・矢口栄子（遺構整図・遺物実測）

発掘作業員 池田賢二・一色茂喜・石塚栄治・大塚ちか・小野塚清子・小野塚善司・笠井恵美子・加藤てい子・
金子麻子・金子ユキ・北澤志げ美・北村幸恵・倉沢かをる・小林明美・小林紀代美・小林さと・小
林さ子和子・小林忠雄・小林忠吉郎・小林敏江・小林睦子・小宮山武男・佐藤甲子雄・佐藤君江・佐
藤ひで子・佐藤幸子・塩瀬幸子・塩瀬由美子・塩瀬芳治・塩瀬わか・清水かおる・鈴木友江・関寿
美恵・高橋重造・竹内はなえ・常田保子・富永 亮・長沢芳枝・中島芳江・中村忠彦・中山智恵子・
成田和恵・成田喜志子・成田孜子・成田とよみ・成田りん・新津清美・新津邦子・新津ヒサエ・新
津芳子・新津米子・林 貞子・原 いち・原 汪子・原 厚二・松尾よし子・丸山光代・宮岡さか
江・宮沢けさよ・宮澤節子・宮沢 元・宮澤芳美・美谷島昇・宮本美智恵・村橋寿美男・柳沢隆夫・
山浦幸子・山口悦子・山崎愛子・横山利恵・吉澤ムツ子・吉沢幸男・渡辺せつ

整理作業員 岡沢治子・倉島敬子・小泉ひろ美・清水さゆり・関崎文子・田中はま江・田中むつ子・塚田容子・
徳成奈於子・富田景子・西尾千枝・松沢ナオエ・三好明子・村松正子

直接発掘調査に携わった皆様の他に、長野市稲田南土地区画整理組合理事長原 重利、同副理事長成田孝男・
小林和一・宮澤 司、同事務局長神頭広司各氏をはじめ、長野市都市開発部区画整理課・建設企業体の皆様には
調査の遂行にあたり多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。



I-3 27・28区の調査



I-4 30区の調査



I-5 平成11年度従事者



I-6 平成12年度従事者

Ⅱ 調査地周辺の環境

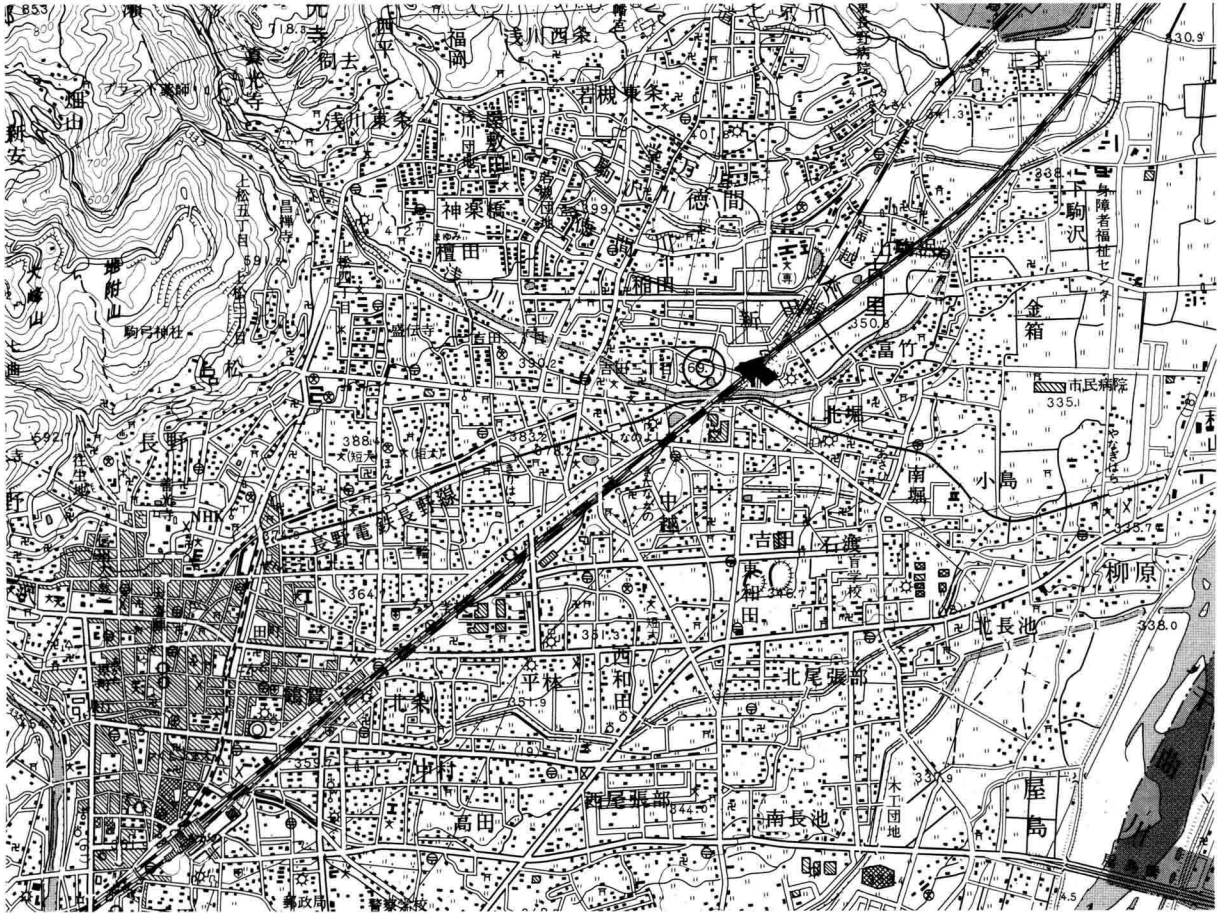
1 地理的環境

調査地周辺の地形は、主に浅川の堆積物によって形成されているが、北に流下する駒沢川やその分流の徳間川・新田川の影響をも受けている可能性もある。いわば複合扇状地地形も想定されるが、ここでは浅川のみのかかわりを記したい。

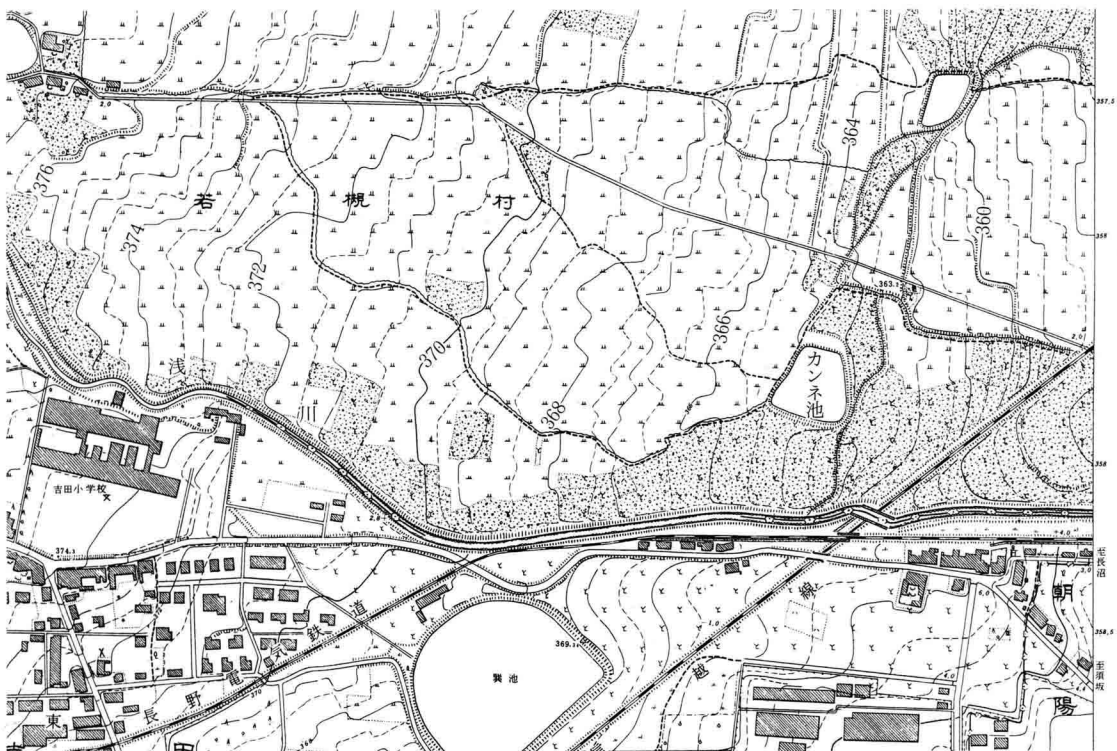
飯綱高原を発した浅川は山麓山地を蛇行しながら膨大な土砂を運搬して長野盆地に入ると典型的な扇状地を造りだしている(1図)。山麓から南東方向に流下した浅川は、みずから形成した扇状地の中央付近に位置したものが調査地付近及び下方で、犀川や裾花川の堆積土に押されて天井川になり、更に北東に流路を追いやられている(3図)。この屈曲部をもって浅川左岸における扇状地扇端部とみてよいであろう。調査地はちょうどこの部位付近にあたり、2図を参考にすれば、直線にして150m間で約16mの標高差を有している。また、地目利用をみればほとんどが水田化されており、畑地・桑畑等の微高地を思わせる所は浅川の流域に展開しているのを特色としている。また、カンネ池等の灌漑用溜池が点在していることも注意される。浅川左岸の桑畑等の微高地は天井川の形成に伴い下流域に拡大したものと考えられ、溜池の造成はこの地域において灌漑用水が不足していたことを意味し、天井川化した浅川からの取水が洪水等のため困難であったことを裏付けているように思う。ただし、溜池の造成については扇状地における伏流水の湧水地であることも考慮しなければならないが、水田可耕地化として利用されるようになったのはそれ程古くはないであろう。調査地は標高355mから370m付近にあたり、権現堂遺跡あたりに南北に細い微高地がみられる他はすべて水田である。



Ⅱ-1 調査地周辺の航空写真(平成2年、(株)ジャステック撮影)



1図 調査位置図 (1 : 50,000)

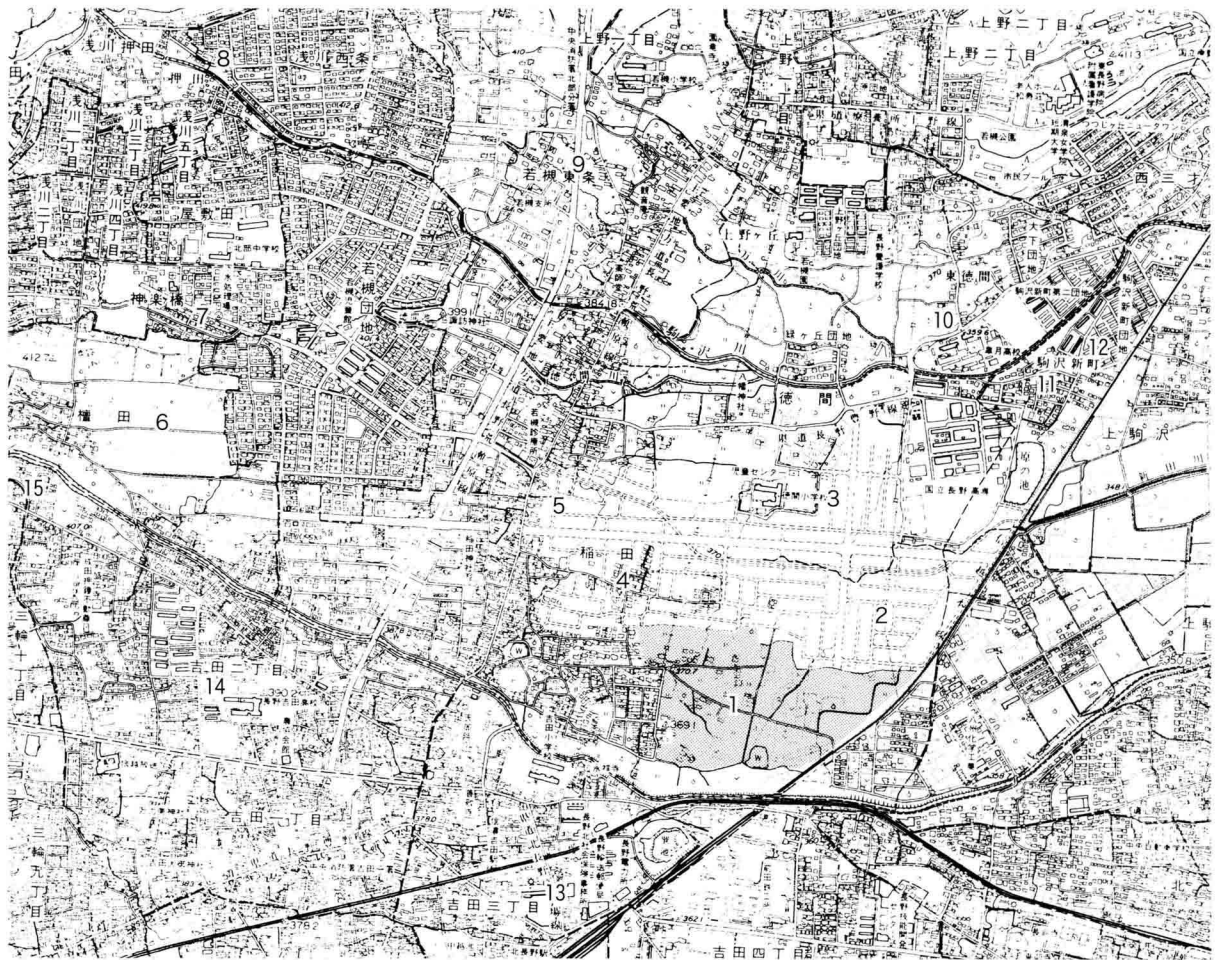


2図 調査地周辺の地形図 (1 : 10,000、大正15年測図・昭和27年修正)
 (中央・5区のライン、カンネ池東・3区のライン、右端・30区のライン、アミ部：桑畑・畑地)

2 考古学的環境

浅川扇状地における遺跡の展開は、近年の開発の進展に伴って次々と新たな遺跡が発見され、内容も充実しつつある。以下浅川扇状地の北辺の主要遺跡を時代順に紹介する。

旧石器時代の遺跡は、浅川の源流飯綱高原に所在する上ヶ屋遺跡が知られているが、浅川扇状地上ではその存在は確認されていない。人々の活動の痕跡が見いだせるようになるのは縄文時代前期になってからである。牟礼バイパスA地点遺跡（3図9）・浅川端遺跡（15）で前期前葉の小規模集落を想定する住居址が確認されている。この他に浅川扇状地を代表する縄文時代遺跡に松ノ木田遺跡がある。遺跡は扇状地扇頂部の浅川左岸に位置し、北西から南東に延びる微高地上に展開している。微高地先端から上部に向かって前期・中期・後期の各時期において断続的に集落の占拠が認められ、前期住居址18軒・中期の敷石住居址などが2軒・後期の敷石住居址および集石遺構等が検出されている。特に前期の集落からは30個あまりの珧状耳飾りが出土しており、これを素材にした垂飾生産遺跡としても注目される。中期の遺跡としては檀田遺跡（6）がある。この遺跡は縄文時代から中世に至る複合遺跡で長野市檀田土地区画整理事業に伴い発掘調査が実施され、平成15年度も継続している。該期の遺構は住居址11軒・埋甕・土坑・小穴等があり、石棒・大型の有脚立体土偶・コハク玉等の特殊遺物が出土して



- 1 稲田南土地区画整理事業地（アミ部）
- 2 ニッ宮遺跡
- 3 柳田遺跡
- 4 本堀遺跡
- 5 稲添遺跡
- 6 檀田遺跡
- 7 神楽橋遺跡
- 8 浅川西条遺跡
- 9 牟礼バイパスA地点遺跡
- 10 徳間本堂原遺跡
- 11 駒沢新町遺跡
- 12 駒沢祭祀遺跡
- 13 吉田古屋敷遺跡
- 14 吉田高校グランド遺跡
- 15 浅川端遺跡

3図 調査地周辺の主要遺跡分布図（1：20,000）

いる。後期では吉田古屋敷遺跡（13）から敷石住居址・集石遺構等が検出されている。

浅川扇状地の本格的な開発は弥生時代中期後半から始まったといえる。中期の主要な遺跡には本村東沖遺跡・徳間小学校遺跡（3）・徳間本堂原遺跡（10）・二ツ宮遺跡（2）・本堀遺跡（4）・牟礼バイパスD地点遺跡・浅川端遺跡・神楽橋遺跡（7）・檀田遺跡等がある。牟礼バイパスD地点では住居址4軒、浅川端遺跡では住居址2軒が調査されており、共に従来不明瞭であった中期前半に位置するものである。二ツ宮遺跡・本堀遺跡・神楽橋遺跡・檀田遺跡では中期後半の栗林式期の大規模集落跡が確認され、多数の住居址・溝址・土坑等が検出されている。特に檀田遺跡は住居址が50軒以上にのぼり、掘立柱建物址5棟等が調査されている。後期の集落跡では、前半に位置する吉田高校グランド遺跡（14）がある。この遺跡は単独時期の単一集落跡で「吉田式」土器の標識遺跡として、またアメリカ式石鏃・天王山式土器という東北地方との交流を示す資料が出土していることで著名である。吉田式期に次いで後期中葉の二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡に代表される遺跡が継続するが、後期後半の箱清水式期の集落跡はその存在が希薄で神楽橋遺跡や下宇木遺跡が知られているにすぎない。檀田遺跡からは住居址が1軒確認されているだけである。少なくとも現状では中期・後期前半・後期後半の各時期の大規模集落が分布上一致することはない。墓制に関しては徳間本堂原遺跡で4基の礫床木棺墓が、檀田遺跡で中期後半の礫床墓を主体とする木棺墓群と後期の円形周溝墓群が、本村東沖遺跡（上松東団地地点）でも木棺墓群と円形周溝墓が検出されている。中期の礫床木棺墓は副葬品がなく分析は困難であるが、本村東沖遺跡の円形周溝墓・それを取りまく木棺墓群と檀田遺跡の円形周溝墓のみの群集形態は、時間的差異によるものか集落内の階層によるものか問題を残している。檀田遺跡の円形周溝墓主体部からは銅釧・鉄釧・ヒスイ製丁字頭勾玉等が、本村東沖遺跡では銅釧・鉄釧・管玉等が出土している。後期前半の吉田式期では甕棺が知られている程度でいまだ不明瞭である。円形周溝墓の導入時期の問題ともからみ今後の重要な検討課題である。

古墳時代前期の遺跡も近頃明らかになりつつある。いままで徳間本堂原遺跡や牟礼バイパスD地点遺跡・本村東沖遺跡で確認されているが、その規模は小さいものであった。檀田遺跡の発掘調査の進展に伴い該期の大規模な集落跡が露呈されるようになった。住居址25軒以上、円形周溝墓7基等が発見されている。北陸系土器・東海系土器が多数出土しており、他地域との積極的交流がうかがわれる。中期に入ると大規模集落跡が各地でみられるようになり、扇状地の開発が活発化する。本村東沖（長野高校地点）・二ツ宮・牟礼バイパスB地点・檀田の各遺跡があり、その集中度は善光寺平の中でも特異な存在である。特に本村東沖遺跡からは中期～後期にかけての住居址が56軒検出されている。大型住居址の集中、古式須恵器の大量保有、石製模造品の製作、子持勾玉や土鈴等の特殊な祭祀具の保有といった特色を有し、集落規模からしても当該期中核的集落であったことは間違いなくところである。また、この遺跡は当地の盟主的古墳である地附山古墳群を仰ぎ見る位置に所在することから、この古墳群の造営に中心的関与があったものと考えられている。前記した諸遺跡でも陶器編年Ⅰ型式2段階から4段階に対応する古式の須恵器が比較的集中して出土する傾向がみられ、この点も善光寺平では特徴的な在り方といえる。後期の集落跡は牟礼バイパスB地点・二ツ宮・浅川端・檀田・吉田古屋敷の各遺跡がある。今のところ比較的規模の大きい集落跡は扇状地の扇中央部に展開しているものとみられ、浅川端遺跡では重複関係にあるものが多く遺構密集度の高い遺跡である。対岸の檀田遺跡でも50軒を超える住居址が検出されている。集落跡遺跡の他に祭祀遺跡や古墳も存在する。扇状地扇端部に駒沢祭祀遺跡（12）がある。古墳時代中期から後期にかけての4基の遺構で、湧水地に小礫の石組みを主体に供献土器500個以上・多数の滑石製模造品等が出土している。農耕祭祀遺跡とみられている。古墳は扇頂部に近い浅川右岸に7基の古墳が確認され、湯谷東古墳群と呼ばれている。1号古墳は後期後半の典型的なもので、奥壁に巨石を据えた横穴式石室構造の主体部になる。数回の追葬が認められ、多量の馬具・武器類や須恵器等が出土している。この他に徳間本堂原遺跡からは墳丘が削平され周溝

Ⅲ 調 査

1 試掘調査

調査の目的 長野市稲田南土地区画整理事業地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「浅川扇状地遺跡群」の範囲内にあり、事業着手に先立ち試掘調査を実施し埋蔵文化財の包蔵状況を把握する。

調査の方法 事業地内の任意の地点に試掘坑（トレンチ）を設定し、坑内土層断面の観察（土層柱状図の数値は現地表面からの深さを示す）により遺物包含層・遺構の有無を確認する。

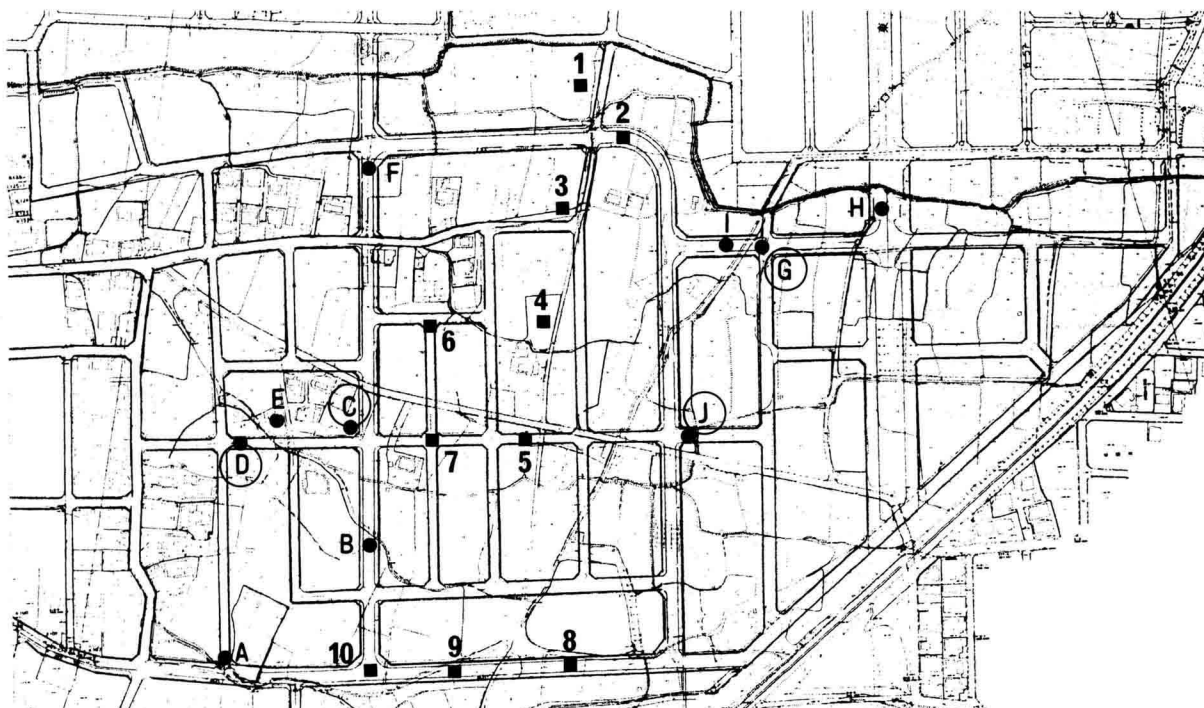
(1) 平成8年度の調査

試掘坑は6図に示したようにアラビア数字の10地点に設定した。各試掘坑の土層堆積状況は各地点によって異なる。1～7地点は基本的に扇状地堆積物から構成され、8～10地点は浅川による氾濫堆積土から形成されたものと考えられる。今回の調査では1地点と7地点にて遺物包含層と考えられる黒灰色粘質土層を確認しているが、共に遺物包含層の末端付近と推定され、磨耗した土器破片を若干確認したにすぎない。その他の地点からは明確な遺物包含層の存在は確認されない（7図）。

今回の調査結果から想定される遺跡範囲は、1の北及び西方向に、7の西方向に展開しているものと思われる。平成10年度事業予定地における保護措置に関しては、1地点・7地点付近の工事着工にあたっては立会調査の必要がある。

(2) 平成10年度の調査

試掘坑は埋蔵文化財包蔵の可能性が考えられる任意の10地点（6図、アルファベット表記番号）を選定した。今



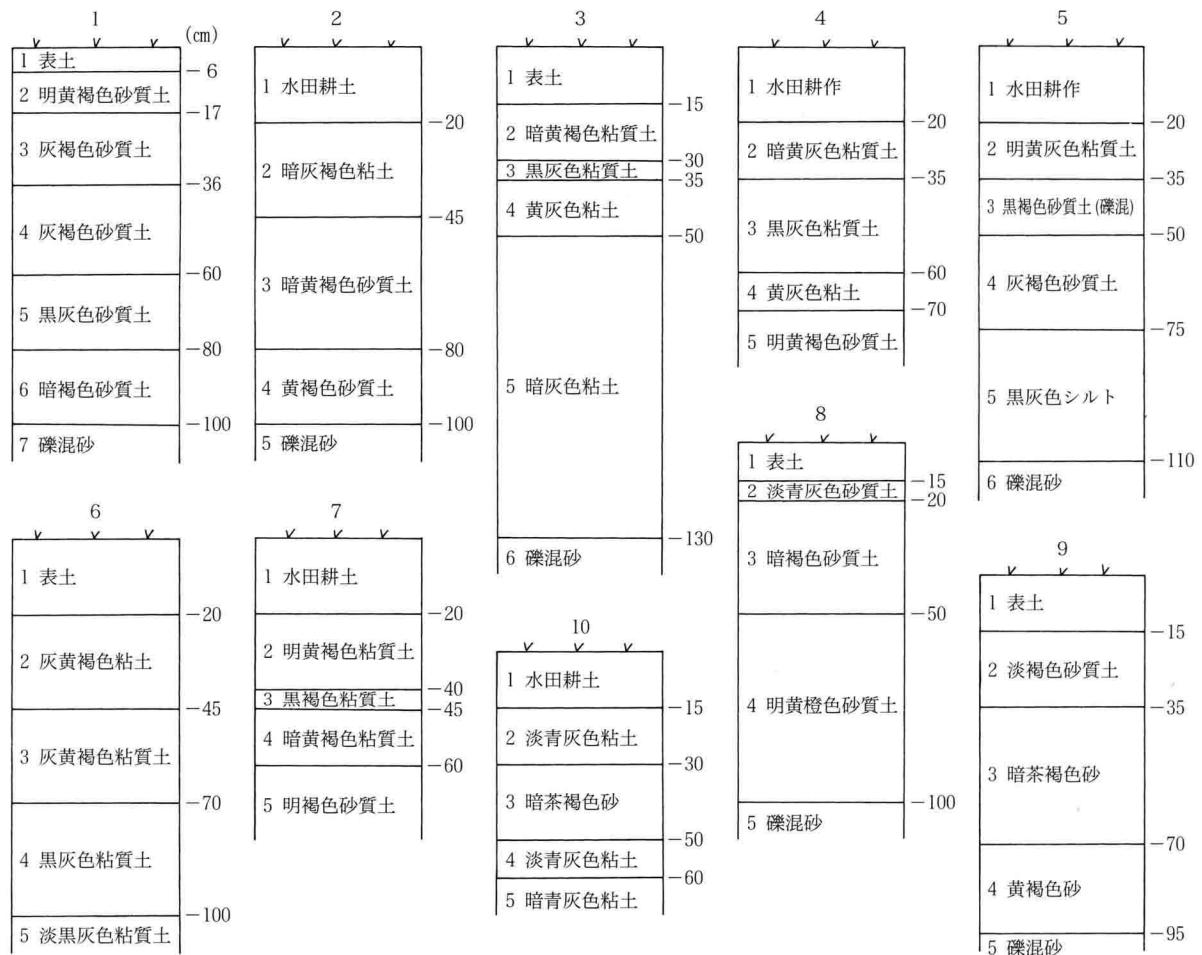
6図 試掘坑位置図（数字は平成8年度、アルファベットは10年度、○囲みは遺構・遺物確認地点）

回の調査ではC・D・G・Jの各試掘坑から遺物包含層の存在が確認された。C地点では地表下約45cmから土器片を伴う暗褐色粘質土があり、遺構とみられる落ち込みが土層断面より確認された。D地点では4層及び6層より土器片が出土し、遺構面が2面あることが予想される。G地点では地表下約80cmから土坑と思われる遺構が確認され、土器片も検出された。また、J地点においては遺物包含層とみられる9層の他に、5層にも微量の炭化物の混入が認められるため注意が必要ある(8図)。

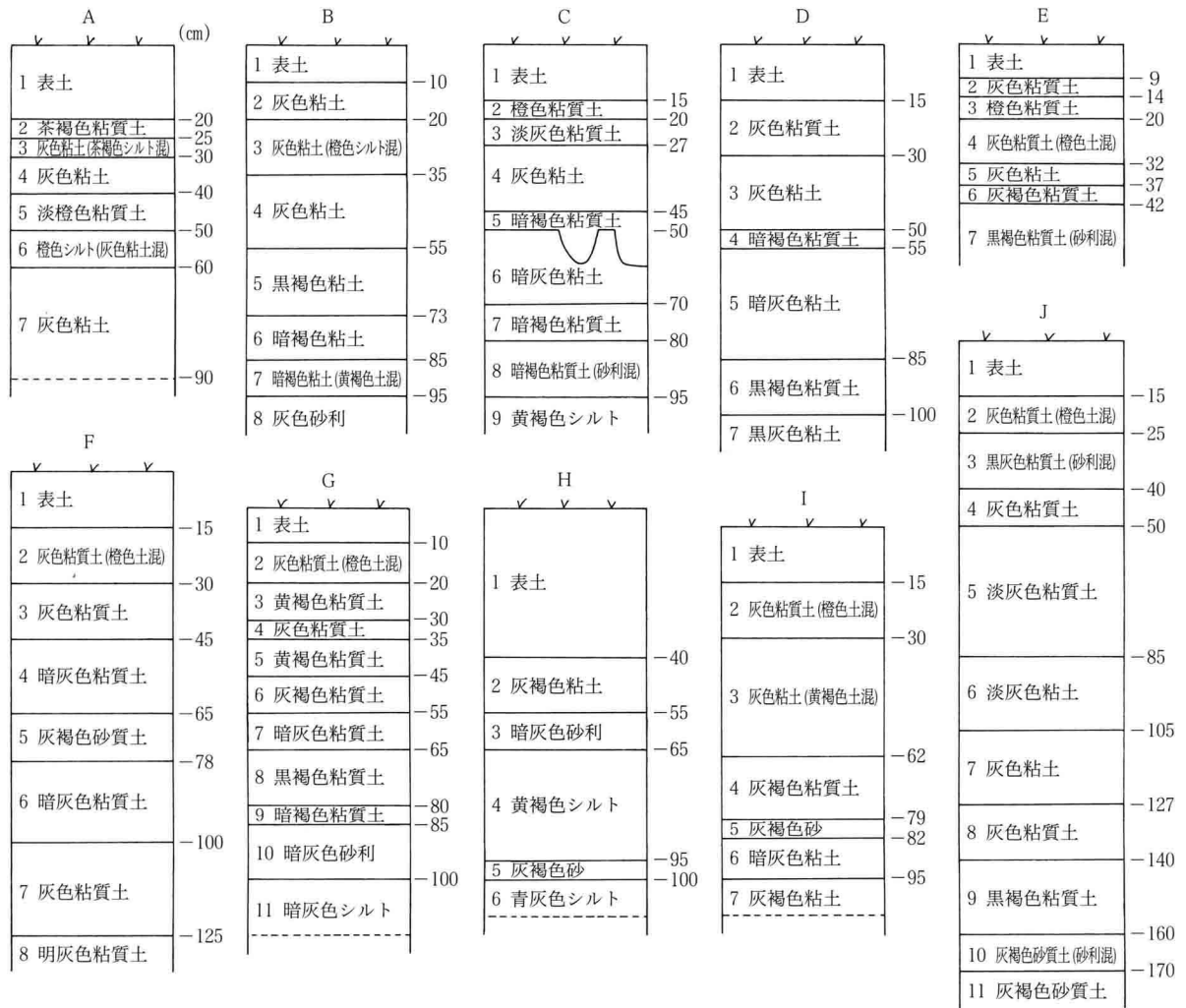
以上の結果から、当該地における埋蔵文化財の包蔵の可能性は極めて高いものと予想される。従って工事施工前に埋蔵文化財の保護措置として、記録保存を目的とする発掘調査を実施する必要がある。

(3) 土地区画整理事業地内の遺跡

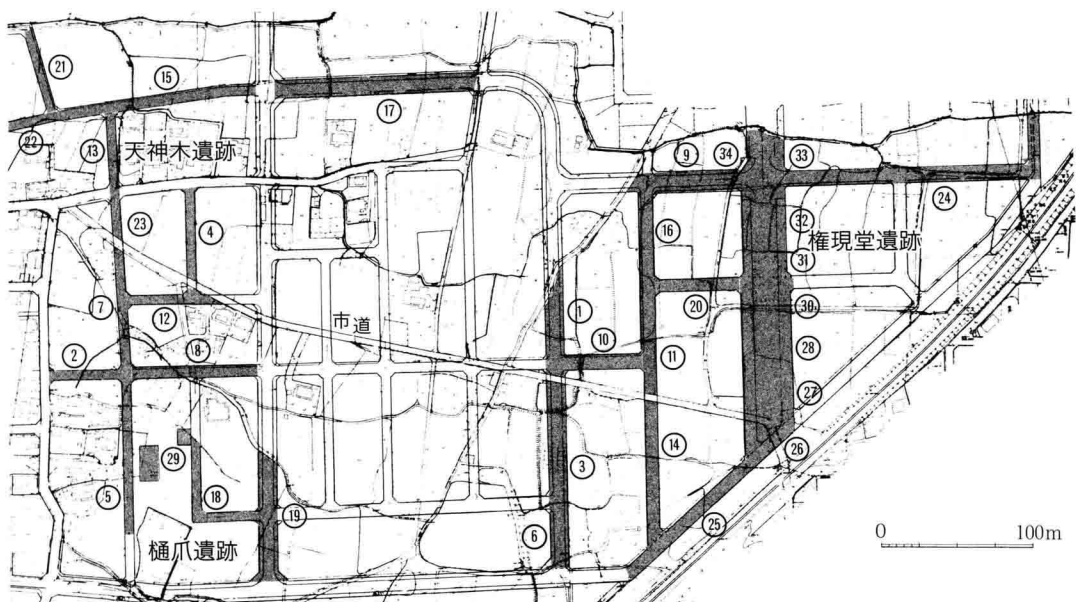
平成8年度の試掘調査の所見では、土地区画整理事業地の中央付近には遺跡の存在が認められなく、試掘坑1の北及び西側に展開するものと推定されている。更に試掘坑7の西にも遺跡の可能性を示唆している。平成10年度の試掘調査では事業地内の西と東側に遺構存在の確率が高いことがわかってきた。本調査の実施に伴い遺構の検出が進むに従い、後述する遺構の分布状況から3地域・3遺跡の存在が明らかになった。すなわち事業地を北西から南東方向斜めに横断する市道により、西側の地域を南北に分け、北側を字名をとり「天神木遺跡」・南側も同様に「樋爪遺跡」と呼称する。東側の地域の遺構を「権現堂遺跡」と呼ぶ(4・5図)。土地区画事業の工程及び調査の進展上調査区番号に統一性がなく、わかりづらい面をお許し願いながら遺跡内の調査区番号については9図を参照にされたい。



7図 平成8年度試掘坑土層柱状図



8 図 平成10年度試掘坑土層柱状図



9 図 調査区配置図 (1 : 5,000)

2 天神木遺跡の遺構と遺物

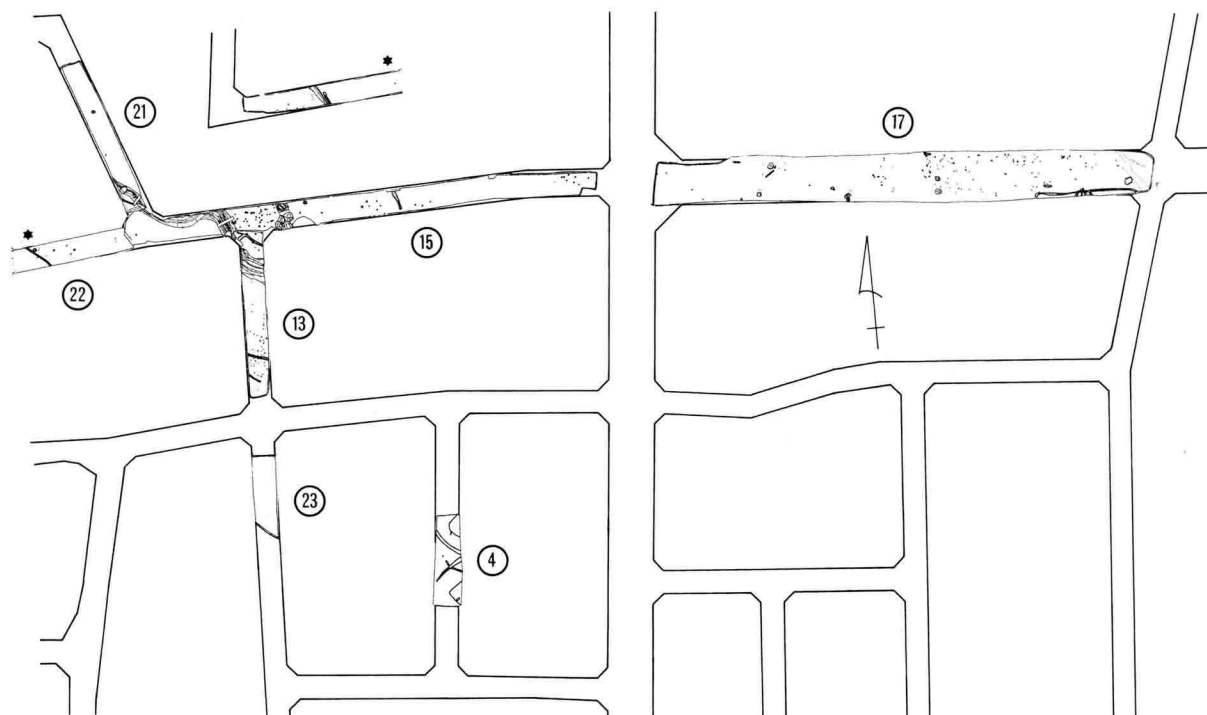
稲田南土地区画整理事業地の北西部に位置し、4・13・15・17・21～23調査区がこの遺跡にあたる（10～12図）。調査区の西から遺構の分布と特色をみることにする。

東西に展開する22・15・17区では、21区の南端と13区北端の共に接合する幅1.4～3.6m・深さ0.7～0.8m規模の大溝が蛇行状に掘られている（11・14図）。また、東に隣接して井戸址2基が構築されていることに注目される。大溝址からは弥生時代の石鏃の他に内耳土器の破片が数点出土している。1号井戸址からは土器皿（16図14）の他北宋銭（皇宋通寶・嘉祐通寶・不明）が3枚出土しており（15図7・8）、2号井戸址からは珠洲焼播鉢片（16図16～18）が検出されている。これらの遺構は中世の所産と考えられ、この遺構周辺に点在する多数の小穴も該期の遺構と想定されよう。小穴群内に規格性ある配列はみいだせない。この他に17区の東側に小穴の展開を確認したが性格や時期等は特定されない。ただし、3号土坑からは弥生時代中期の土器と中央が磨耗のためか光沢を帯びている石皿が出土しており（15図1～3・11）、唯一時期が同定される。他は小穴の散在と溝址が認められる程度で生活遺構はみいだせない。

井戸址（13図）は2号大溝の中に構築され、1号・2号共に隣接して所在する。1号井戸址は素掘りのものであるのに対し、2号溝址は井筒に河原石を積み上げた石積みの構造になる。井戸址の構築の順番であるが、1号溝址廃絶後この石積み石材を再利用して2号井戸址を構築した可能性が高い。1号井戸址から出土した3枚の古銭は廃絶儀礼に伴う祭祀具とも考えられる。

南北方向の調査区では、13区南側で時期が特定できない小穴と溝址が確認されるが、更に南の23区では無遺構空間になる。4区では2軒の住居址様落ち込みを確認して居住施設と認定しているものの、焼土・柱穴等が確認されない。また、出土遺物が認められないこと等を考慮すれば居住施設でない可能性もある。

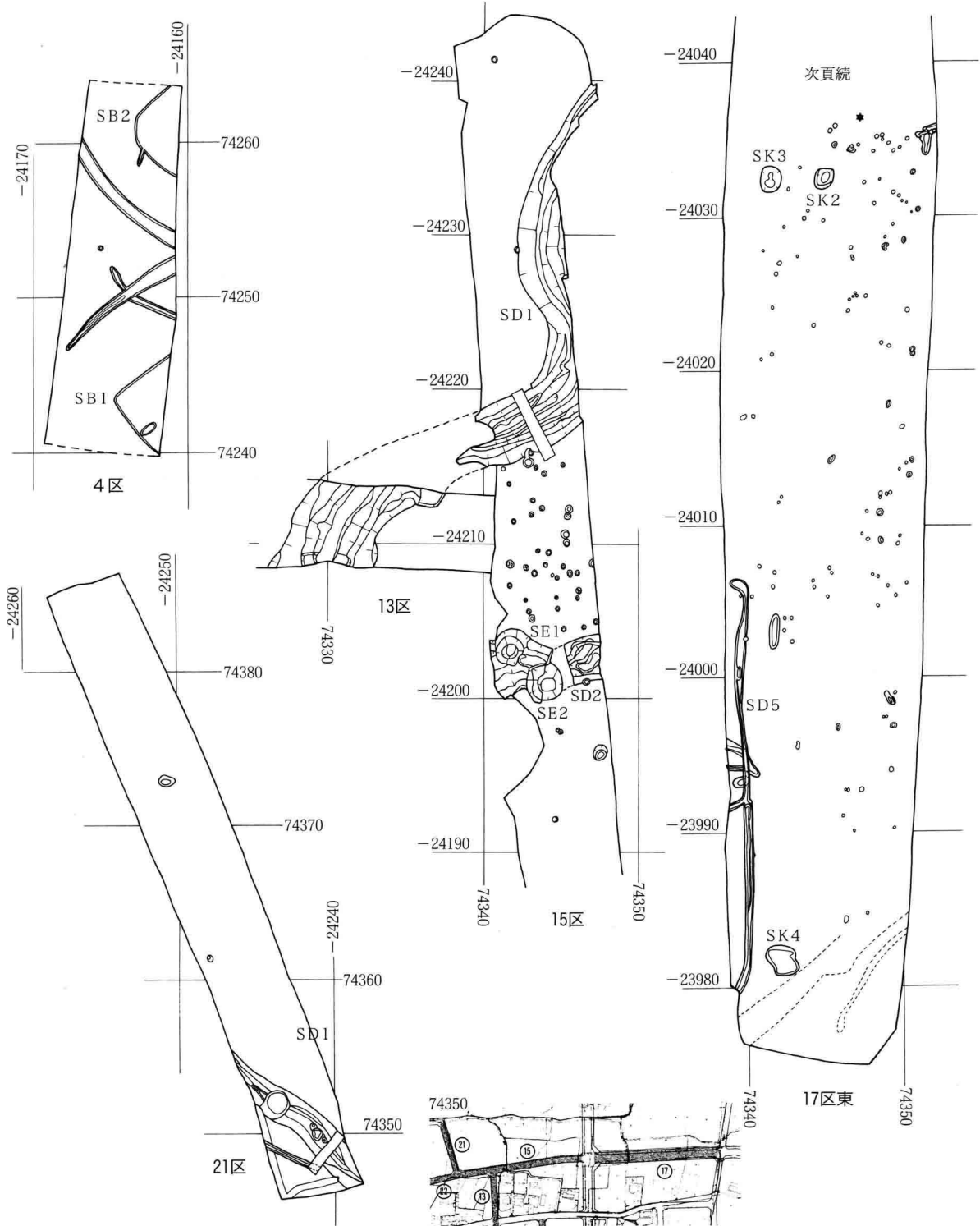
遺物の面からみると弥生時代中期から平安時代のものが認められるが、中世遺物が注目される程度で出土遺物



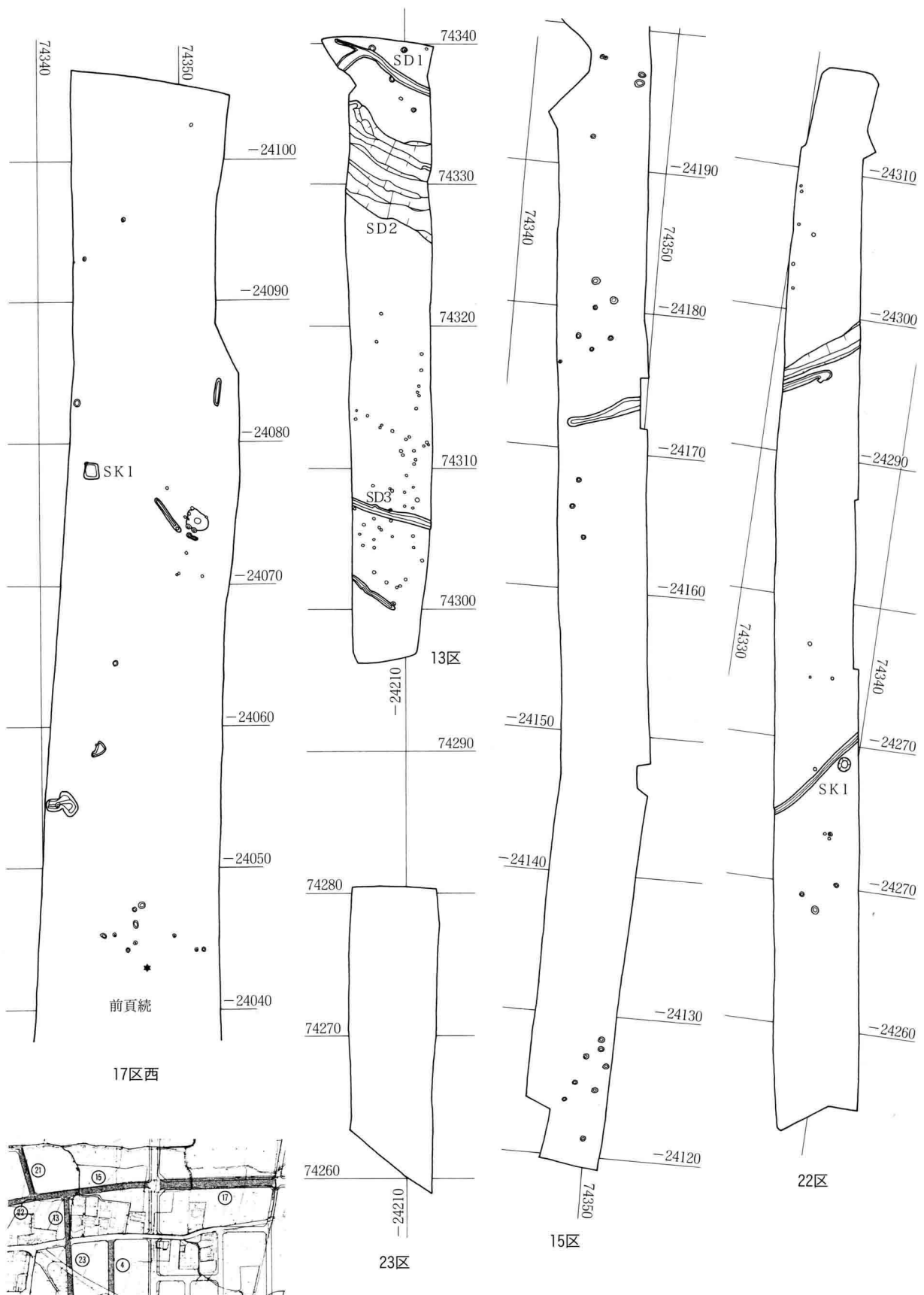
10図 天神木遺跡調査区及び遺構分布図（1：2,000）

のほとんどが流入物と考えられる。

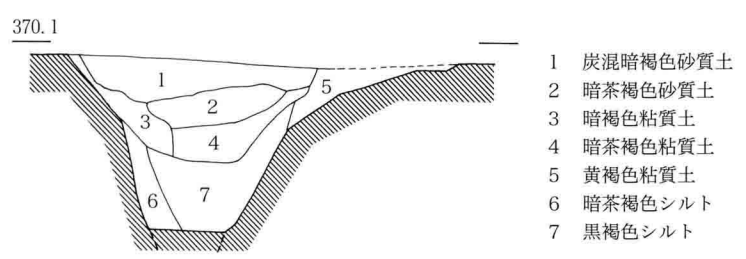
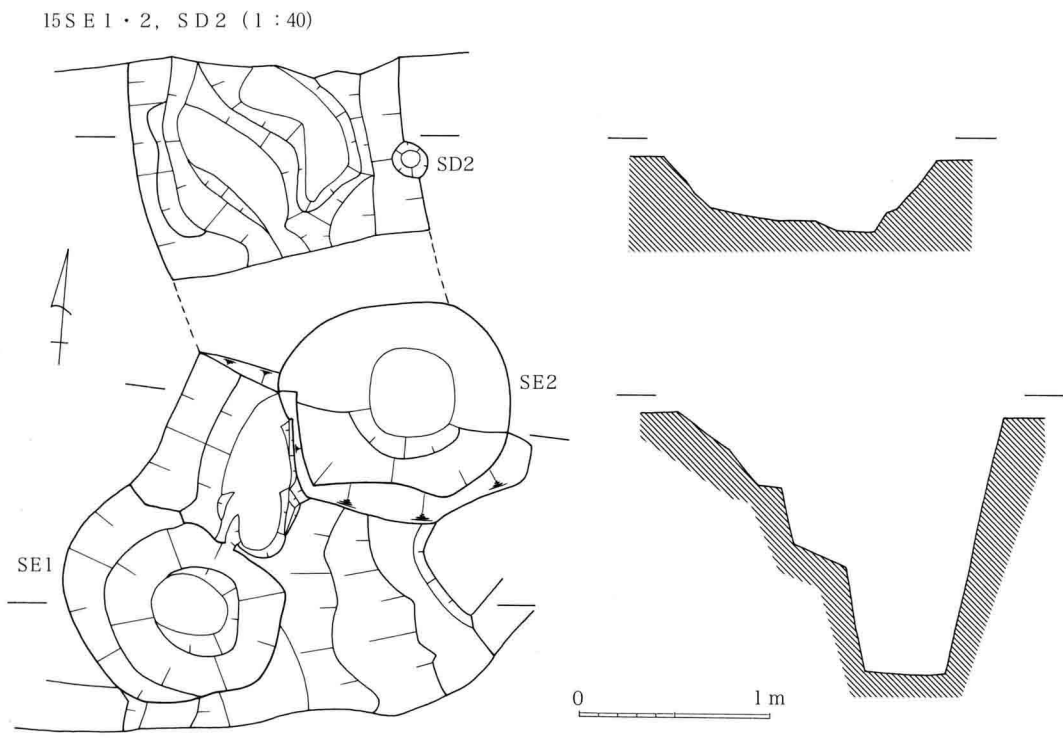
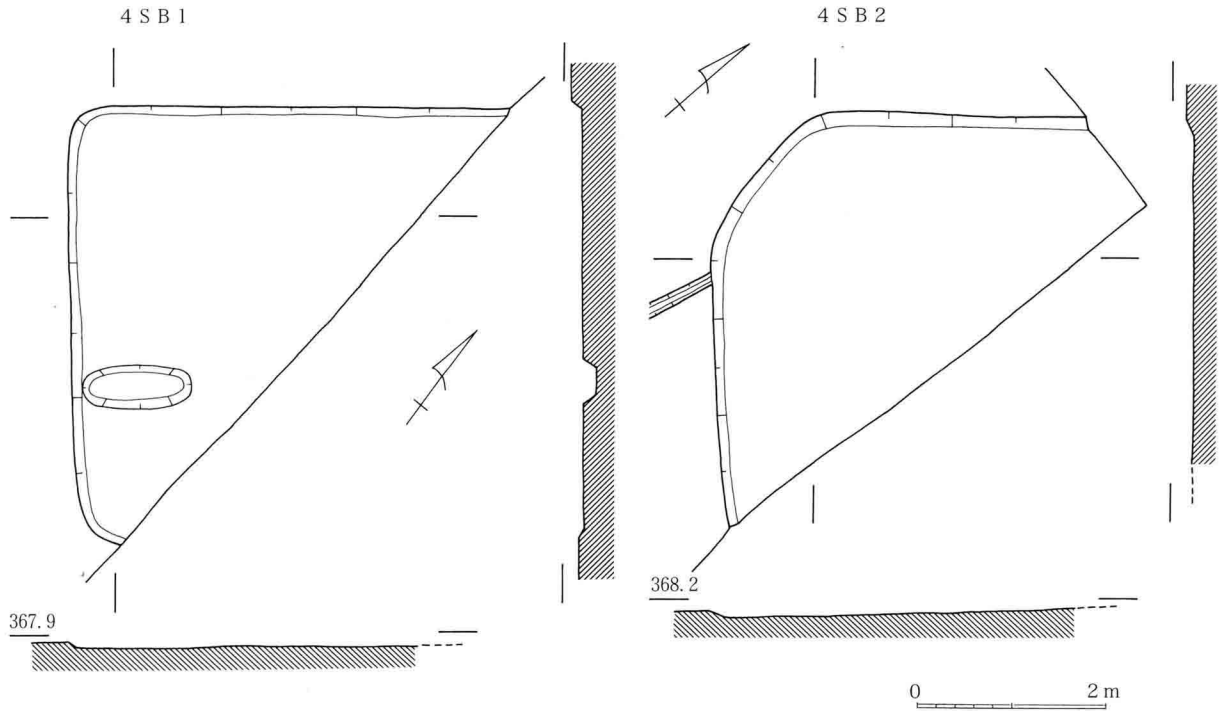
ことほどさように天神木遺跡は小規模な中世遺跡と認定される。今回調査した調査地より北に約70m地点に稲田徳間土地区画整理事業に伴って発掘調査を実施した本堀遺跡からも中世土坑等が検出されており、後述する権現堂遺跡でも中世遺構が確認されているところから推察すると、調査地周辺には小規模な中世遺跡が点在するようである。



11図 4・15・17・21区遺構分布図 (1:400)

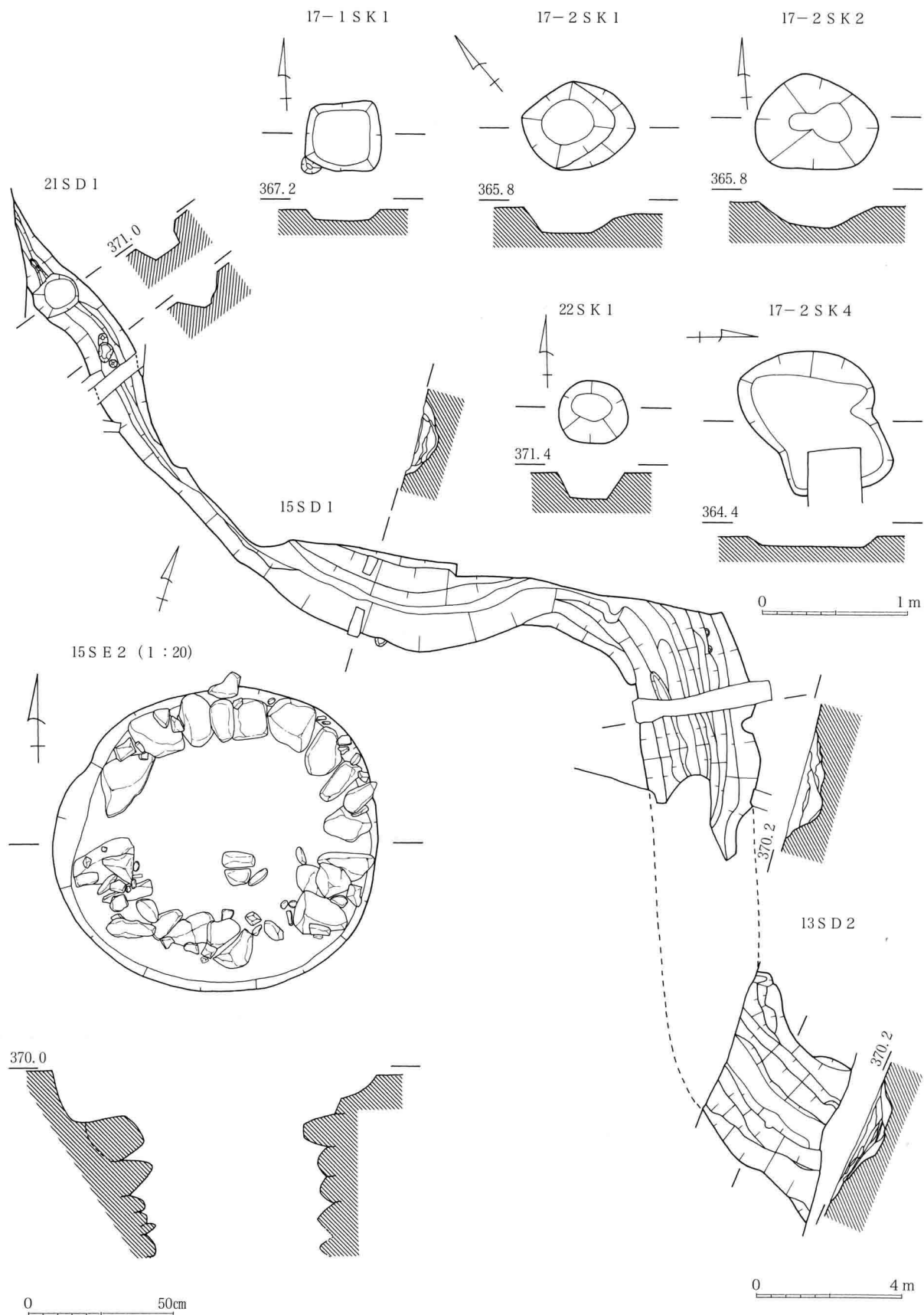


12图 13·15·17·22·23区遺構分布图 (1:400)

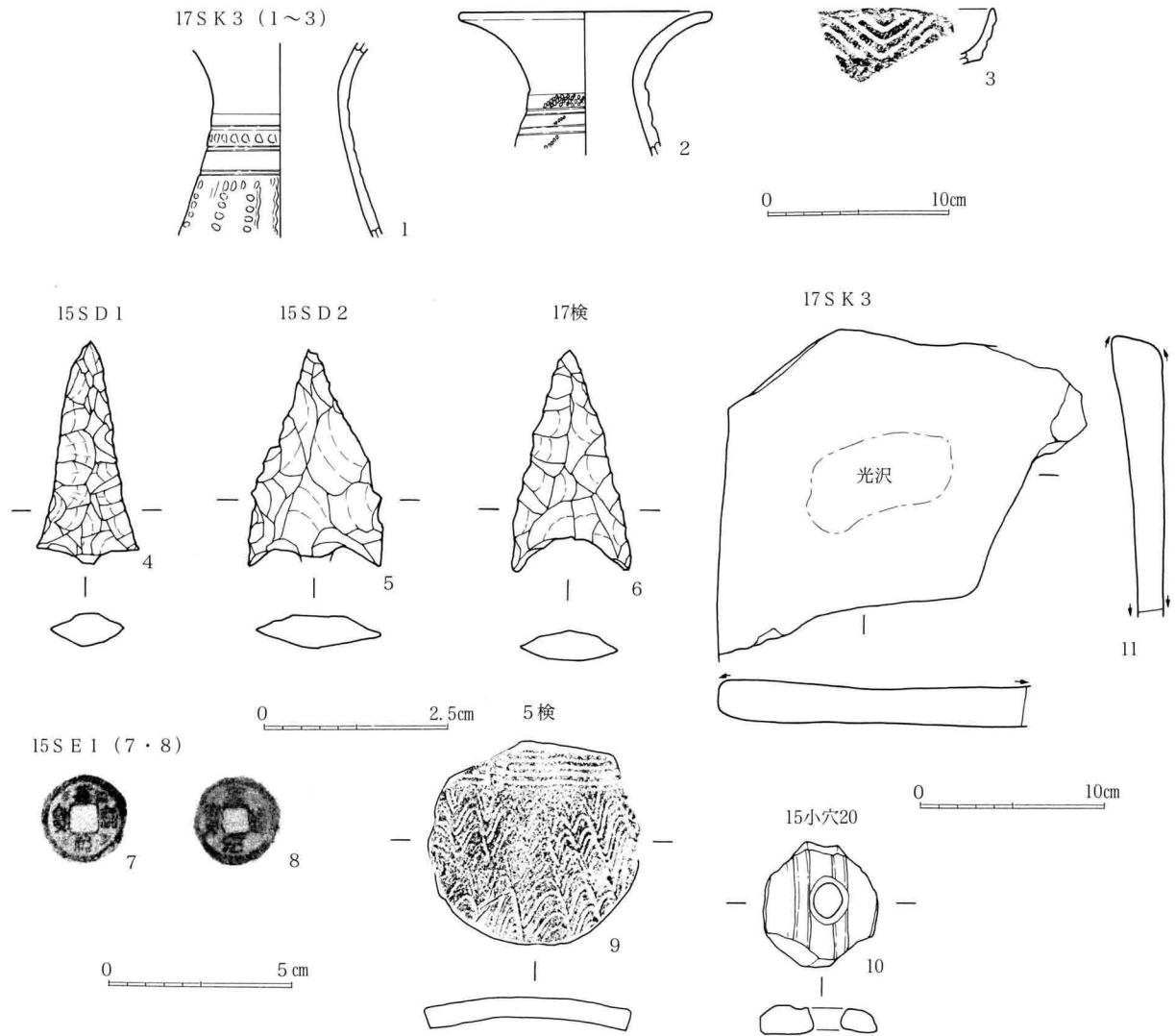


- 1 炭混暗褐色砂質土
- 2 暗茶褐色砂質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 暗茶褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質土
- 6 暗茶褐色シルト
- 7 黒褐色シルト

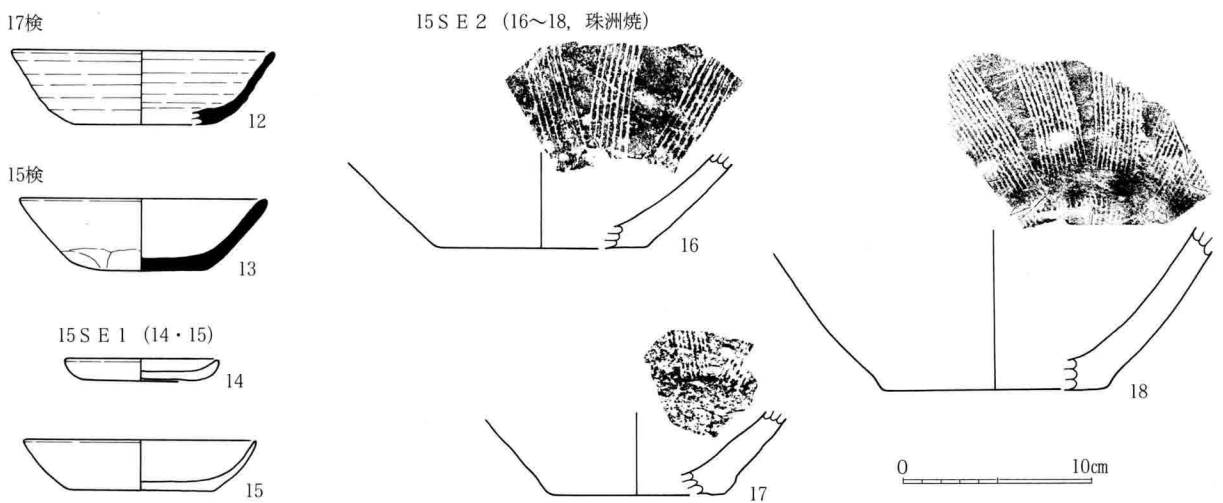
13図 天神木遺跡住居址 (1:80)、井戸址・溝址 (1:40) 実測図



14図 天神木遺跡土坑 (1:40)・井戸址 (1:20)・溝址 (1:80) 実測図



15図 天神木遺跡出土弥生・古墳時代・中世遺物実測図（1～3・11は1：4、4～6は1：1、7～10は1：2）



16図 天神木遺跡土坑・溝址・井戸址出土平安時代・中世土器実測図（1：4）

住居址観察表

遺構名	図番号	形態	規模(m)	主軸方向	内部施設等	遺物	図番号
4SB1	13	長方形	4.6・	N35°W	床軟弱		
4SB2	〃	隅丸方形?		N50°W	〃		

井戸址観察表

遺構名	図番号	土坑		石組		底面	説明	遺物	図番号
		形態	規模(m)	形態	規模(m)				
15SE1	13	円形	上2.6・底0.8・深1.8			平坦	素掘り, SD2重複	古銭・土器皿	15・16
15SE2	14	〃	上2.2・底0.8・深2.75	円形	上2.2・深1.3	〃	河原石積, 〃	珠洲焼・播鉢	16

土坑観察表

遺構名	図番号	形態	規模(cm)	説明	遺物 図	遺構名	図番号	形態	規模(cm)	説明	遺物 図
			長軸×短軸×深						長軸×短軸×深		
17SK1	14	方形	25・28・8	平底		17SK4	14	不整形	45・35・5	平底	
17SK2	〃	隅丸方形	28・25・8	〃		22SK1	〃	円形	24・21・9	〃	
17SK3	〃	楕円形	36・33・10	丸底							

溝址観察表

遺構名	図番号	規模(m)	方向	説明	遺物	図番号
15SD2	13	幅2.8・深0.8	南北	SE1・2より古い	石鍬	15
21SD1	14	幅1.4・深0.7	N47°W	15S1接続		
15SD1	〃	幅2.4~3.2・深0.8	東西・南北	21SD1・13SD2接続	石鍬	15
13SD2	〃	幅3.6・深0.8	N70°W	終結不明	内耳土器	

遺物観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
17SK3 (15図)							
1	弥生	壺				1/4	頸：平行沈線文, 胴上半：櫛波状懸垂文・篋刺突文
2	〃	〃	15.2			ママ	頸：LR縄文→平行沈線文
3	〃	〃				〃	口縁：重山形文
11	石	石皿	縦15.2・横20			〃	砂岩・表裏研磨・表中央光沢
15SD1 (15図)							
4	石	石鍬	長3.0・2g			ママ	頁岩・茎部欠
15SD2 (15図)							
5	石	石鍬	長2.8・2g			ママ	頁岩・茎部欠
17検出面 (15図)							
6	石	石鍬	長2.9・1g			ママ	チャート・無茎
15SE1 (15図)							
7	銅	銭				ママ	嘉祐通寶(北宋・初鑄1056年)

遺物観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成 形 ・ 調 整 等
			口径	底径	器高		
8	銅	錢				ママ	皇宋通寶(北宋・初鑄1039年)
5 検出面 (15図)							
9	土	円板	径5.7・10g			ママ	弥生時代後期土器(甕)体部片
15小穴20 (15図)							
10	土	円板	径3.5・3g			ママ	弥生時代中期土器(壺)体部片
17検出面 (16図)							
12	須恵	坏	14.0	8.0	3.9	1/4	ロクロ, 底: 篋ケズリ
15検出面 (16図)							
13	須恵	坏	13.1	7.0	3.8	完	ロクロ, 底: 篋ケズリ
15 S E 1 (16図)							
14	土師	皿	8.2	5.2	1.2	1/2	ロクロ, 底: 糸切り
15	〃	坏	12.4	7.8	2.7	1/3	〃, 〃
15 S E 2 (16図)							
16	珠洲	播鉢		11.4		1/4	播目7本
17	〃	〃		9.2		1/6	〃
18	〃	〃		12.0		1/4	〃 10本



Ⅲ-1 15区 (西より)



Ⅲ-2 15区 (東より)



Ⅲ-3 13区 (南より)



Ⅲ-4 17区東側



Ⅲ-5 13SD1・2



Ⅲ-6 21SD1



Ⅲ-7 15SD1、小穴群



Ⅲ-8 15SD1

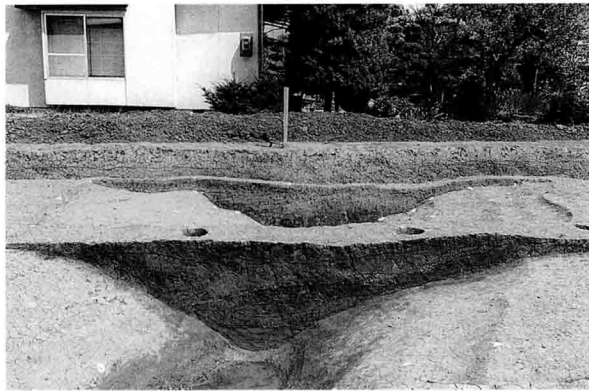
PL1 天神木遺跡調査区・溝址・小穴群



Ⅲ-9 21SD1 土層



Ⅲ-10 13SD2



Ⅲ-11 13SD2 土層



Ⅲ-12 15SD2、SE1・2



Ⅲ-13 15SE1



Ⅲ-14 15SE1 土層

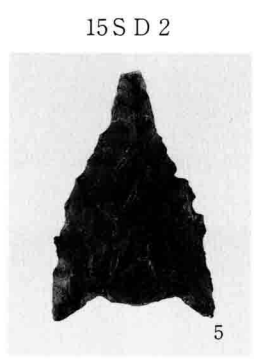
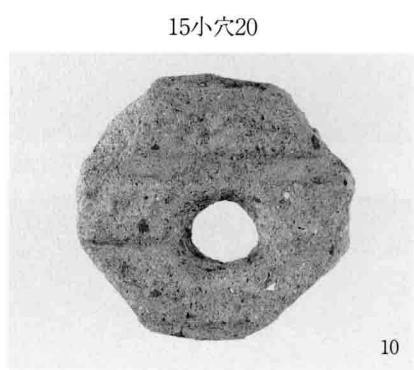
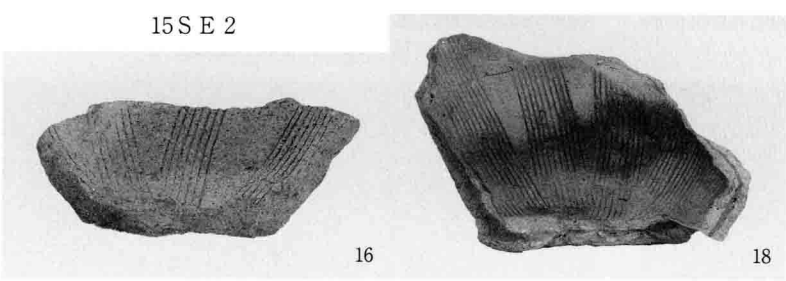
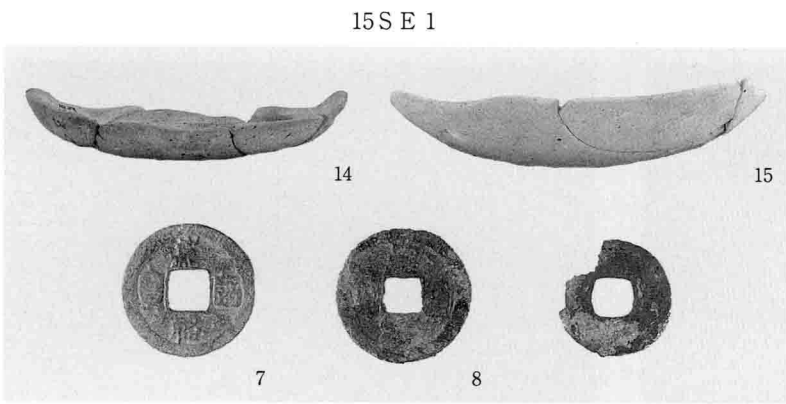
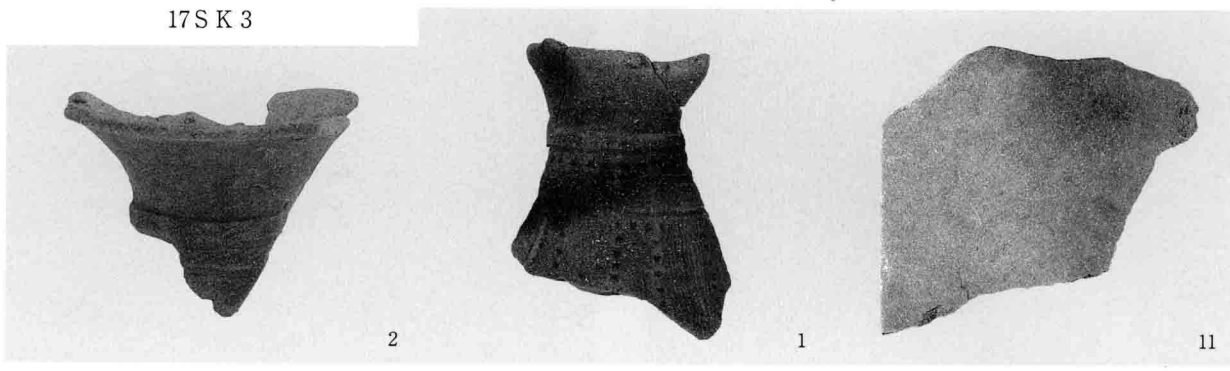


Ⅲ-15 15SE2 上面



Ⅲ-16 15SE2

PL2 天神木遺跡溝址・井戸址



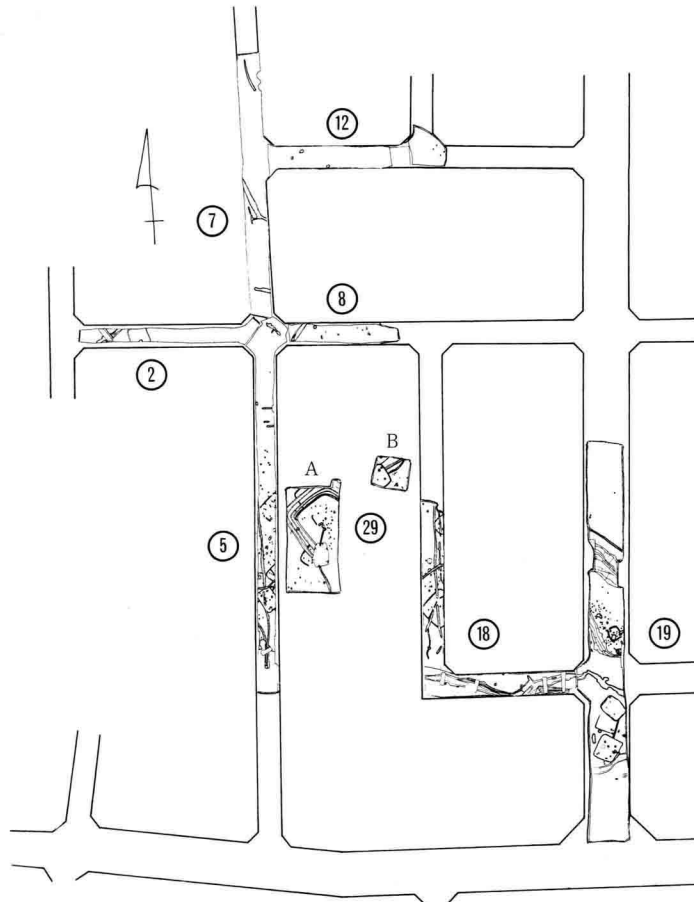
P L 3 天神木遺跡出土遺物

3 樋爪遺跡の遺構と遺物

浅川左岸に展開する遺跡と考えられる。調査区では2・5・7・8・12・18・19区がこれにあたる（17～19図）。

遺跡推定範囲の東西区2・8区より南側は、2区の西端付近に住居址と比較的規模の大きい溝址がみられる他は時期不明の小穴・溝址が散在する程度である。南側では5区の南側に遺構の集中がみられ、住居址2軒をはじめ土坑・小穴群・溝址等を検出した。5区の東18区に挟まれた29区はかざぐるま保育園建設に伴う調査地で、面としての調査が行われた。この地区からは住居址施設と考えられる周溝を検出し、3軒の住居址を抽出した。この他に2～3重のコの字形溝址・土坑・小穴群等がある。L字形を呈する18区は2軒の住居址と土坑・多数の溝址が確認された。最も東側に位置する19区は3軒の住居址・小穴群（1号掘立柱建物址）・方形溝址等が検出された。更に東の街路は試掘調査により遺跡範囲外として取り扱ったため今回の調査対象外としたが、19区の遺構の分布状況からみれば遺構展開の可能性はある。

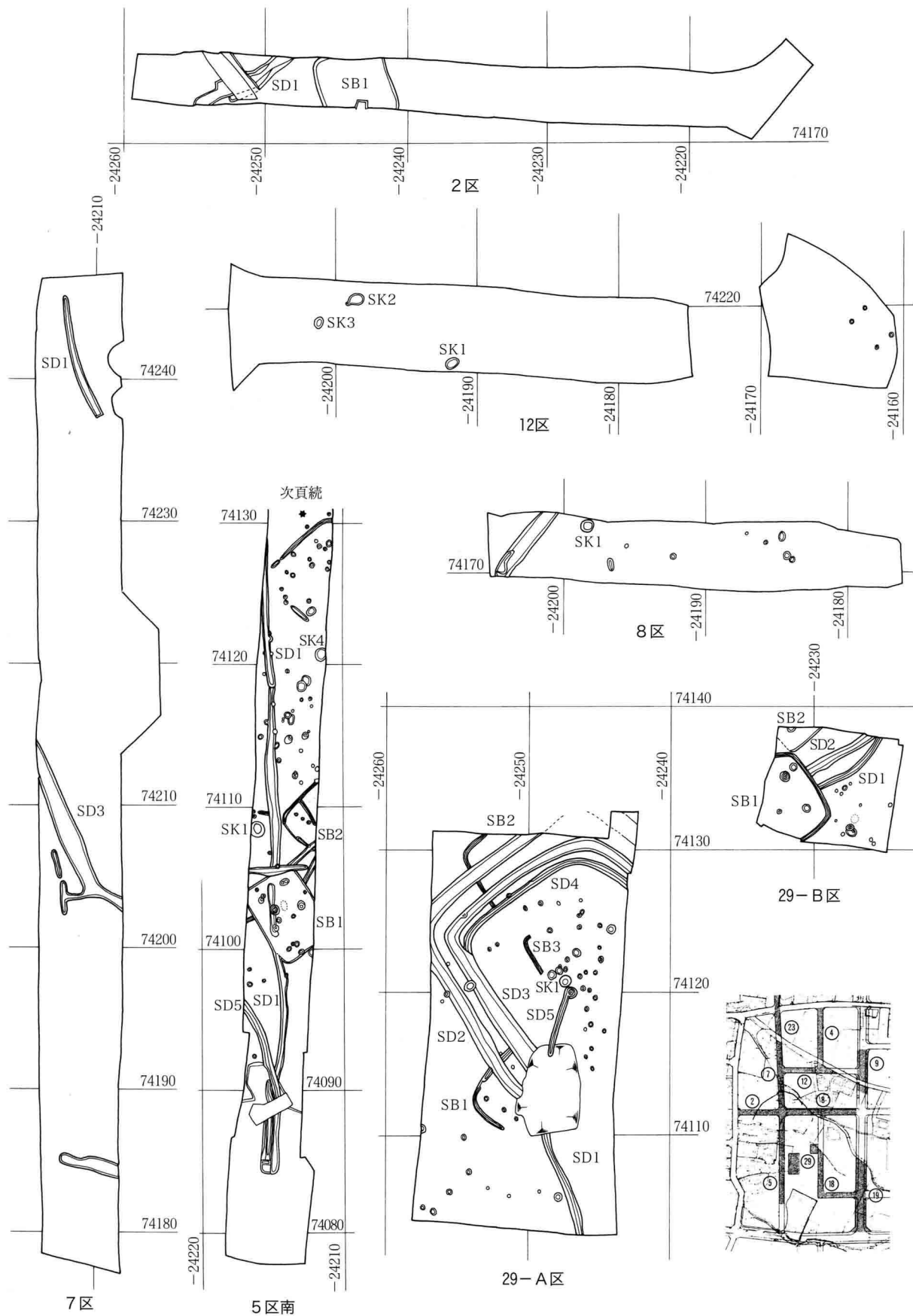
遺物を伴い所属時期がある程度判明するものを抽出する。弥生時代中期—5SB1（20図）・29-A SB1（20図）・18SB1（21図）・19SB3（21図）、18SK2（23図）、19SD3・5（26図）・10がある。住居址は集中することなく、点在する在り方を示す。形態は概ね隅丸長方形を呈し、4ないし6個の長方形配列の主柱穴を有し、5SB1のような地床炉を持つものと思われる。ただし、5SB1は奈良時代の土器の出土も認められ、上面に該期の遺構と重複していた可能性がある。19区の溝址は幅1.5mを越す大規模なものであるが、集落を圍繞する



17図 樋爪遺跡調査区及び遺構分布図（1：2,000）

環濠形態にはならない。確たる遺物を検出されていないが他遺構との規模の比較から中世遺構との推定も捨てがたい。遺構は確認できなかったが、5区から後期初頭に位置する土器群(31図)が検出されている。上面に住居址等の遺構が存在していた可能性が高い。古墳時代前期—5 S B 2 (20図)・29-B S B 2 (21図)・18 S B 2 (22図)・19 S B 1 (22図)、19方形溝址(23図)、5 S K 4 (23図)・19 S K 1・3 (24図)、29 S D 2・3 (25図)・19 S D 1・2 (26図)・7 (27図)がある。住居址は弥生時代中期同様に点在して検出しているが、29区を中心に集中化するかもしれない。形態は方形または隅丸方形を呈し、18 S B 2の7.7m×8.0mの規模を最大に大型のものが目立つ。5 S B 2は支柱穴を欠くが間仕切りを想定させる小溝が掘り込まれている。18 S B 2と19 S B 1には地床炉とみられる焼土が残存していた。29 S D 2・3はコの字形を呈する溝になるものと思われる。3号を取り巻く形で2号が展開する。内側の3号の東西外法は13~14m規模になる。2号の内側に4号溝址が巡り、出土土器から奈良時代の所産と考えているが、S D 3と等間隔・同方向に掘り込まれていることから該期のものとも思える。内側に住居址の痕跡の他に小穴群がみられ、これらの溝址と関与する遺構と推定する。小穴群に規格ある配列が認められないことから溝址ともども遺構の性格は不明である。19区南端に位置する1号・2号溝址も大型の規模に属する遺構であるが、性格は不明である。ただし、2号溝址は18区の15号溝址と接続する可能性もあるので、遺跡外縁を区画する溝址とも考えられる。19区の不連続の方形溝址は長軸3.7m・短軸3.4mと小規模な遺構であるが、何らかの上屋構造を持つ遺構と考えているものの根拠を持たない。5 S K 4は土器埋納遺構と考えられ完形に近い甕・埴(32図156・157)が出土した。土器類は浅鉢・器台・高坏・埴等に弥生時代後期に系譜を求める赤色塗彩の技法を残す一方、調整にはハケナデとヘラミガキが多様されている。赤色塗彩埴(32図157)や壺(35図225)は北陸系の影響を受け、甕(34図194)は東海系のS字口縁土器の系譜を引いているように高坏・器台等にも他地域の影響がみられる。古墳時代中期—2 S B 1 (20図)、19 S K 4 (24図)、19 S D 1 (26図)・8 (27図)がある。住居址は長方形を呈する形態になるものと思われるが、居住施設を思わせる柱穴・地床炉(焼土)等の内部施設は認められない。竪穴状遺構と呼ぶべきであろうが、高坏・蓋・甕(37図262~268)等が出土しており内容は充実している。19 S K 4は調査区の南端の住居址群に近接して位置する。長軸1.2mを測る不整長方形を呈する遺構である。覆土から高坏・甕(37図270~273)を主体とする破片が投棄状態で出土した。祭祀行為に関与した遺構と考えられる。19のS D 1は前期から継続して機能していたものとみられ、2時期の遺物が混在していた。8号溝址と共に用途・性格は不明である。奈良時代—5 S B 1 (20図)、29 S D 4 (25図)がある。住居址は弥生時代中期に位置づくものであるが、この遺構上部に重複して該期の遺構が存在していた可能性が高い。29 S D 4にしても出土遺物が須恵器坏(38図291)を持って該期に位置づけているが、2号・3号溝址と同様な在り方を示しており、同時期の遺構とも考えて良い。

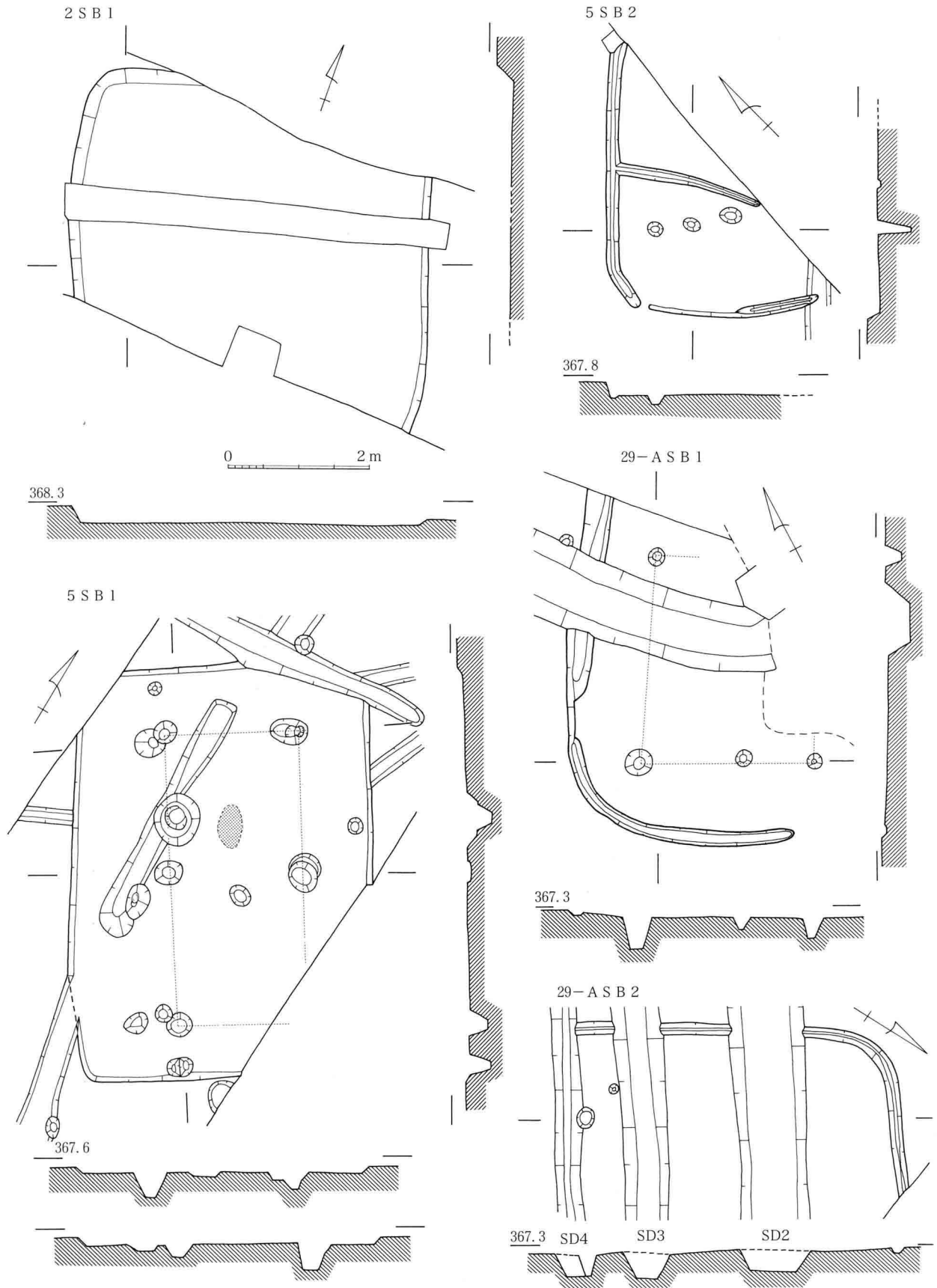
遺跡の性格は冒頭で述べたとおり浅川左岸に展開した小集落跡と推定されるが、その盛期時期を弥生時代中期と古墳時代前期に位置づける。



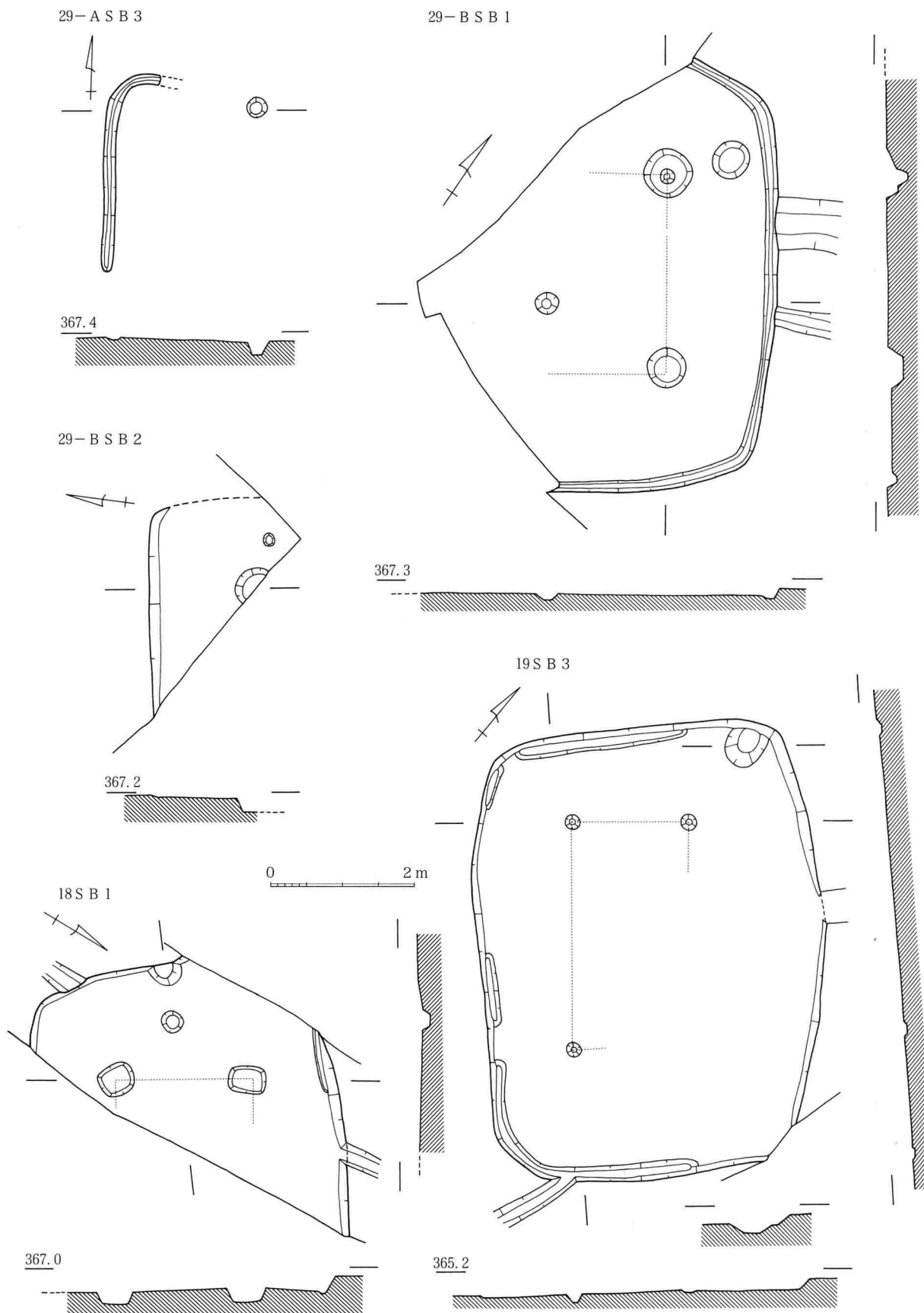
18图 2・5・7・8・12・29区遺構分布図 (1:400)



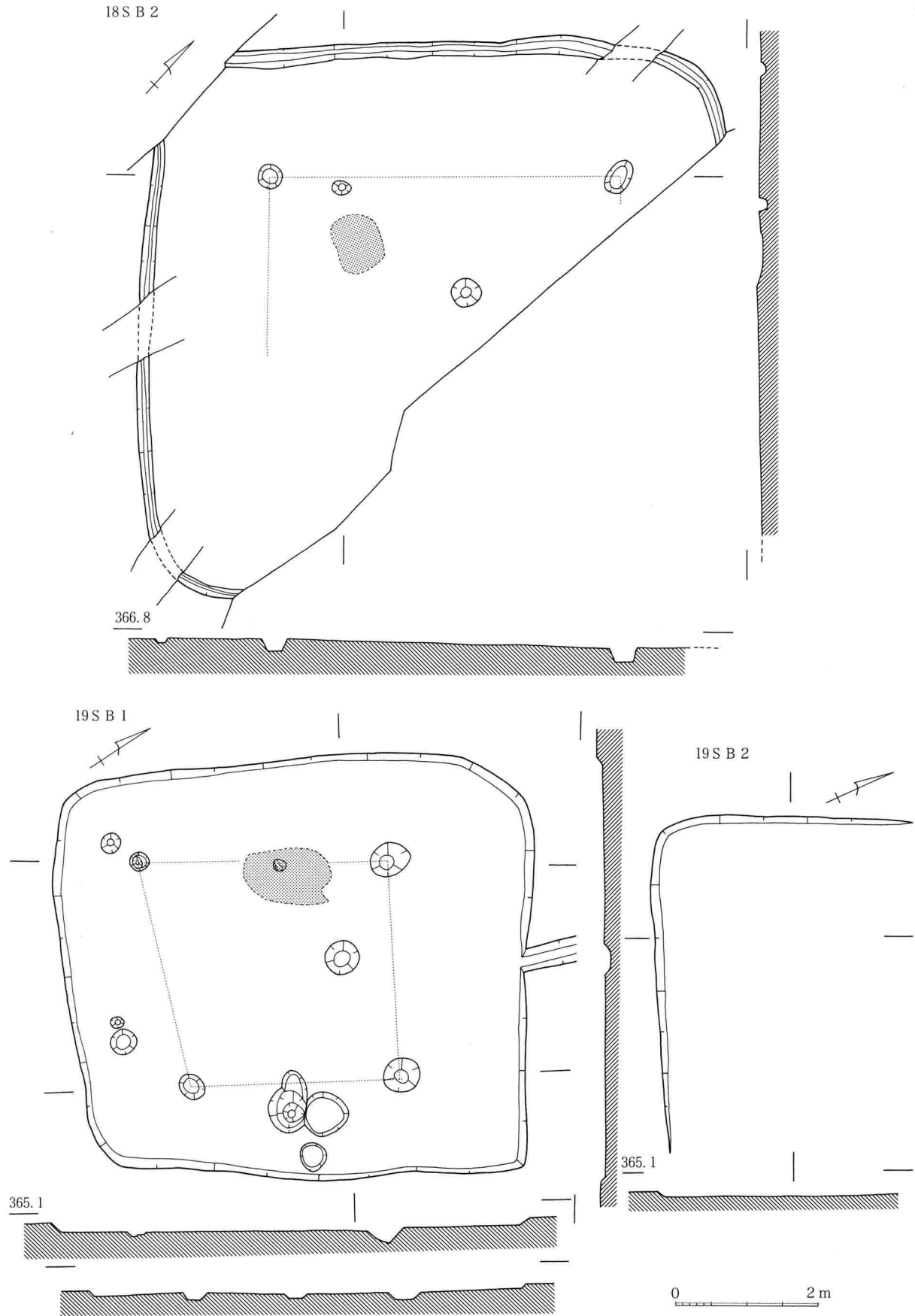
19图 5·18·19区遺構分布图 (1:400)



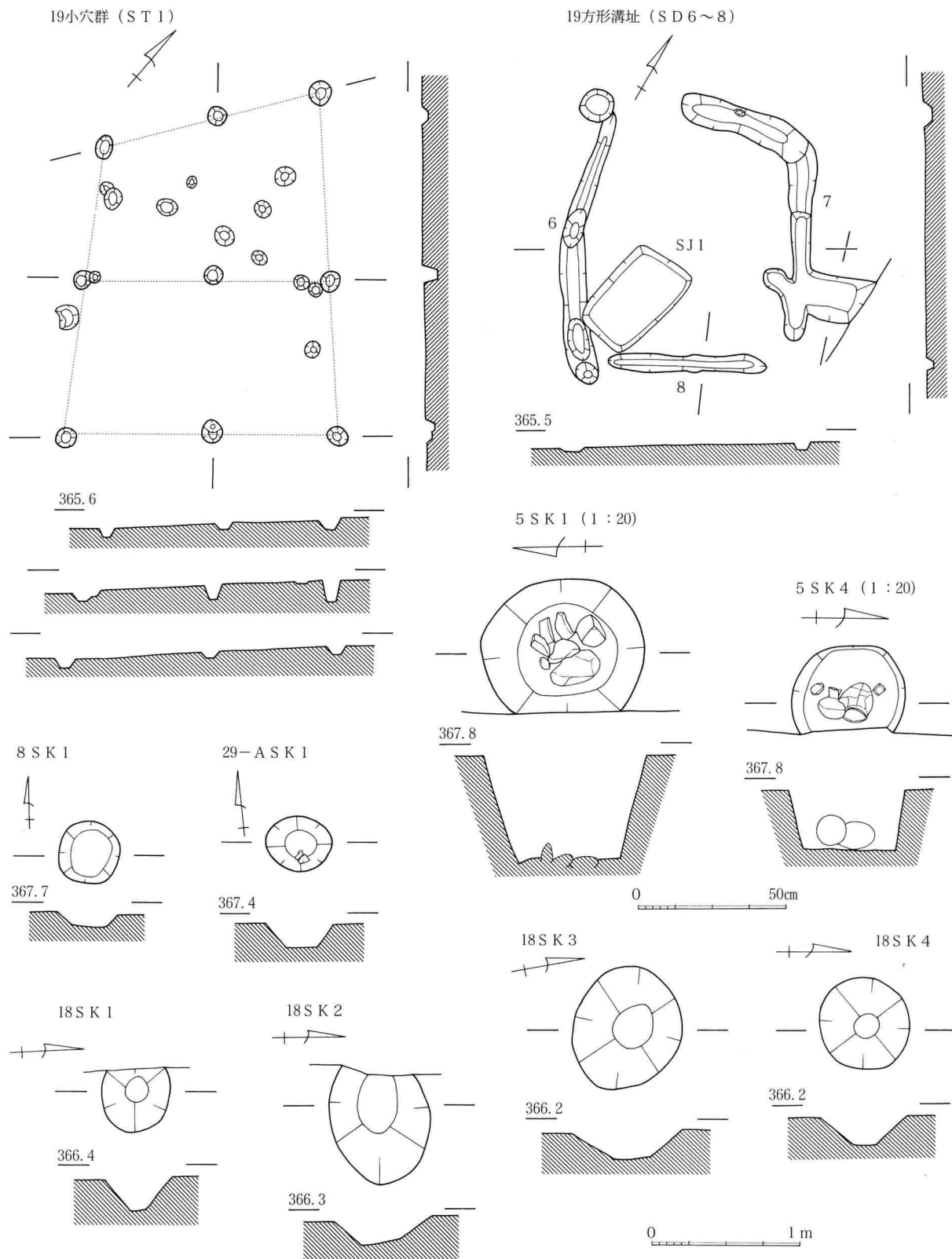
20图 桶爪遺跡住居址実測図 (1:80)



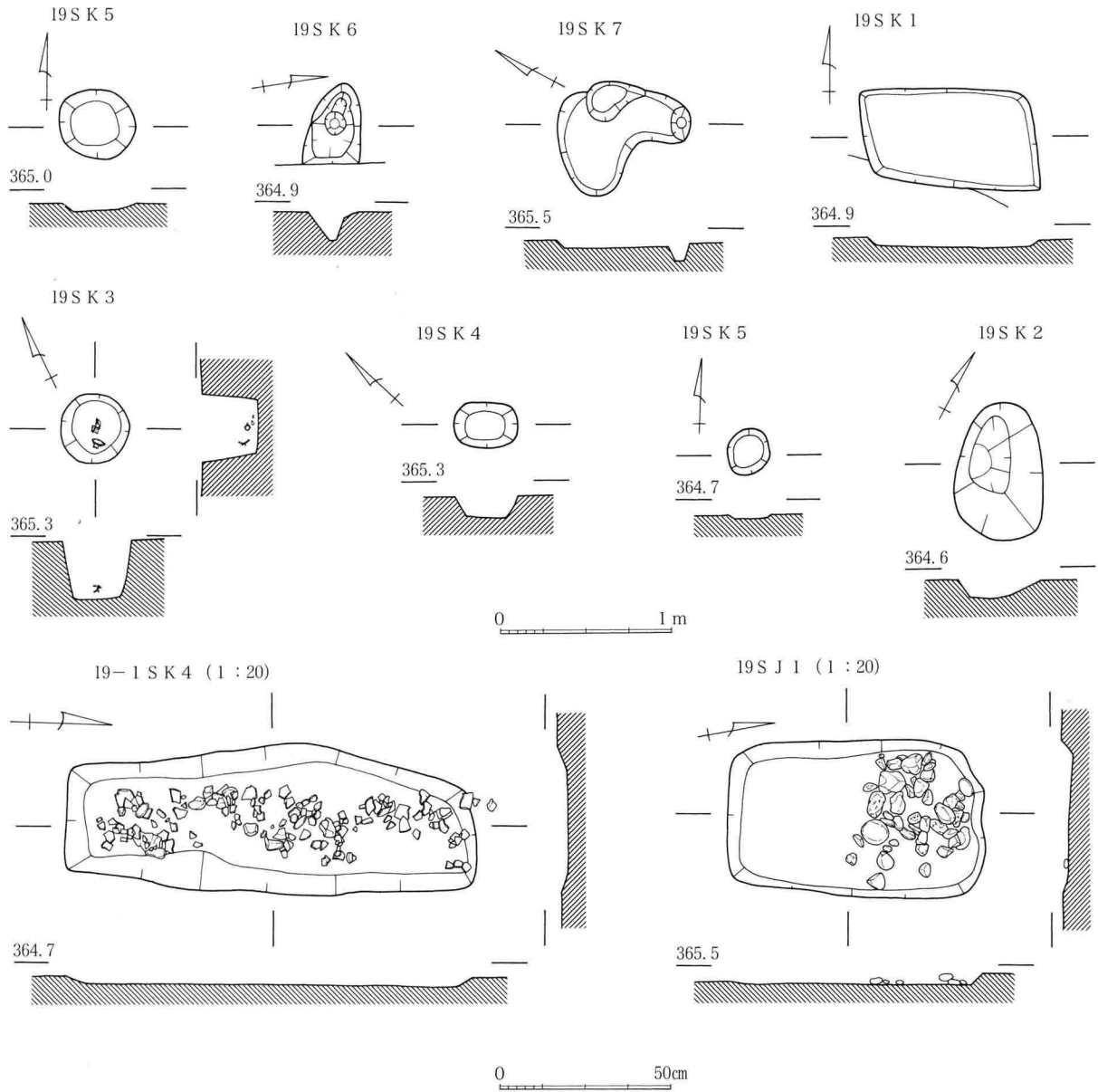
21図 樋爪遺跡住居址実測図 (1:80)



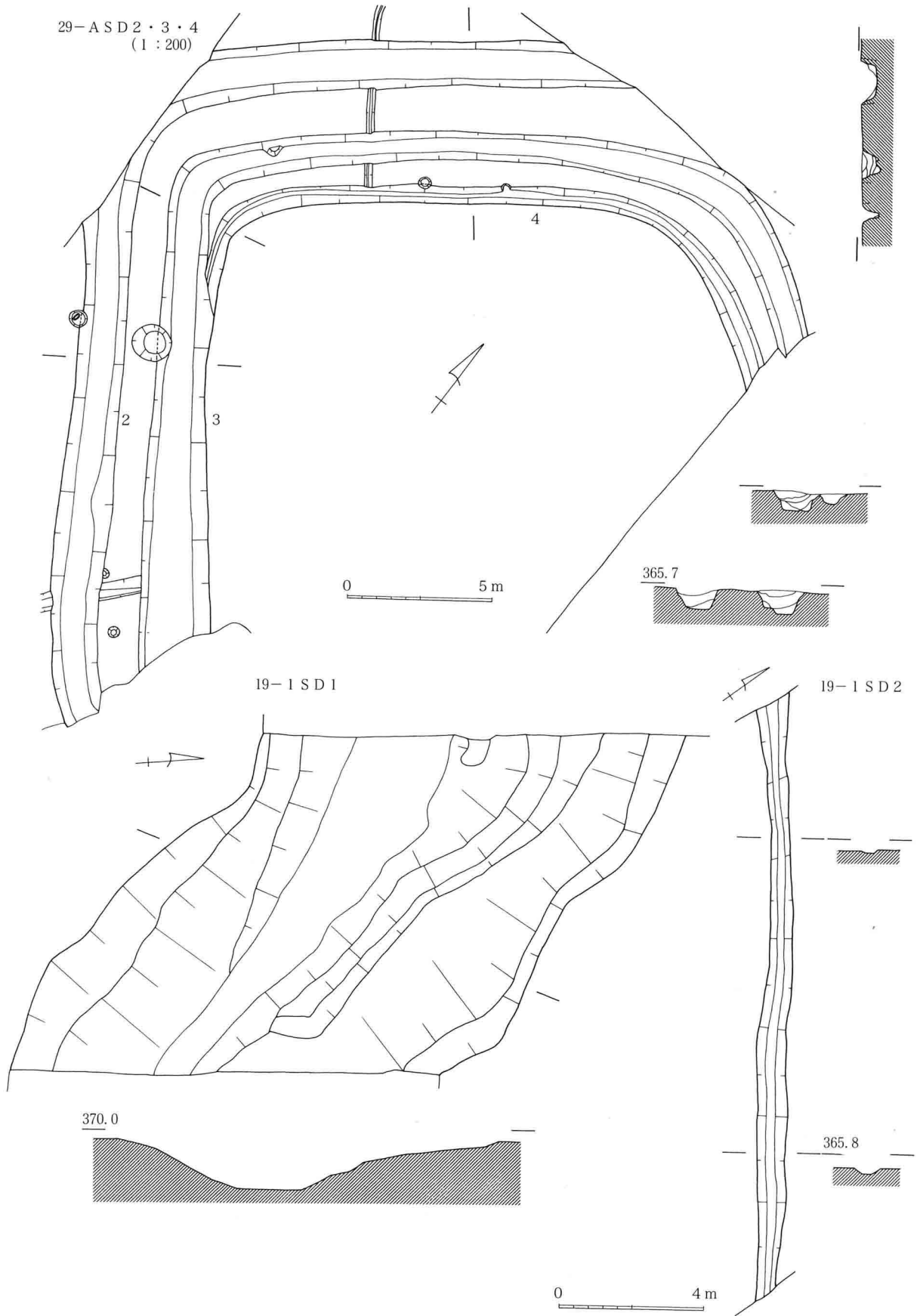
22図 樋爪遺跡住居址実測図 (1:80)



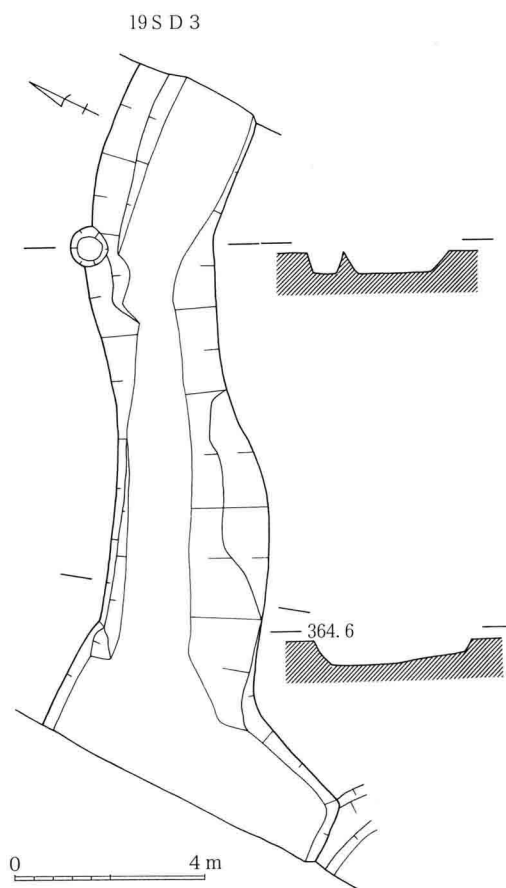
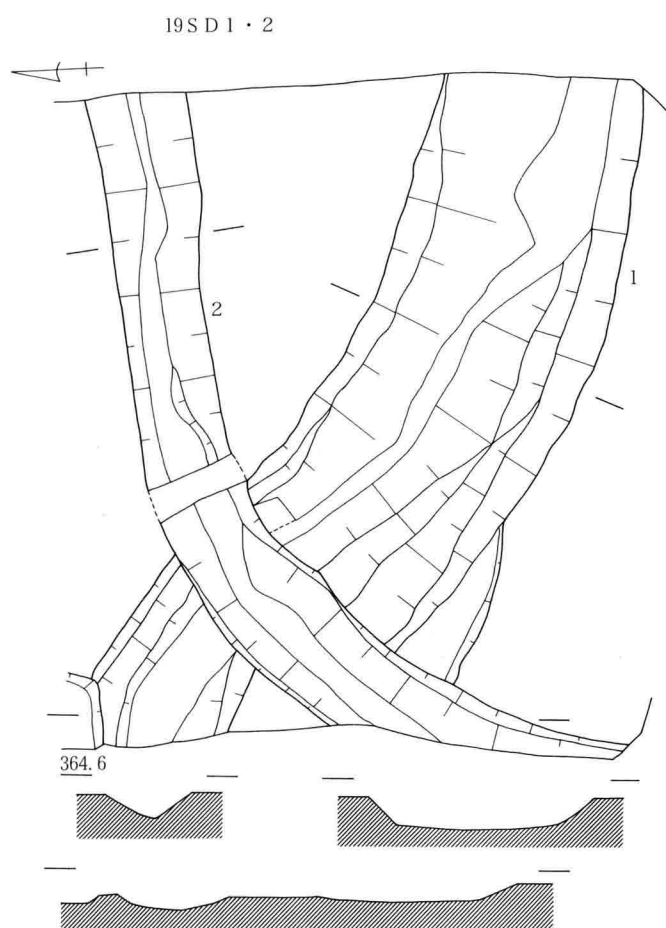
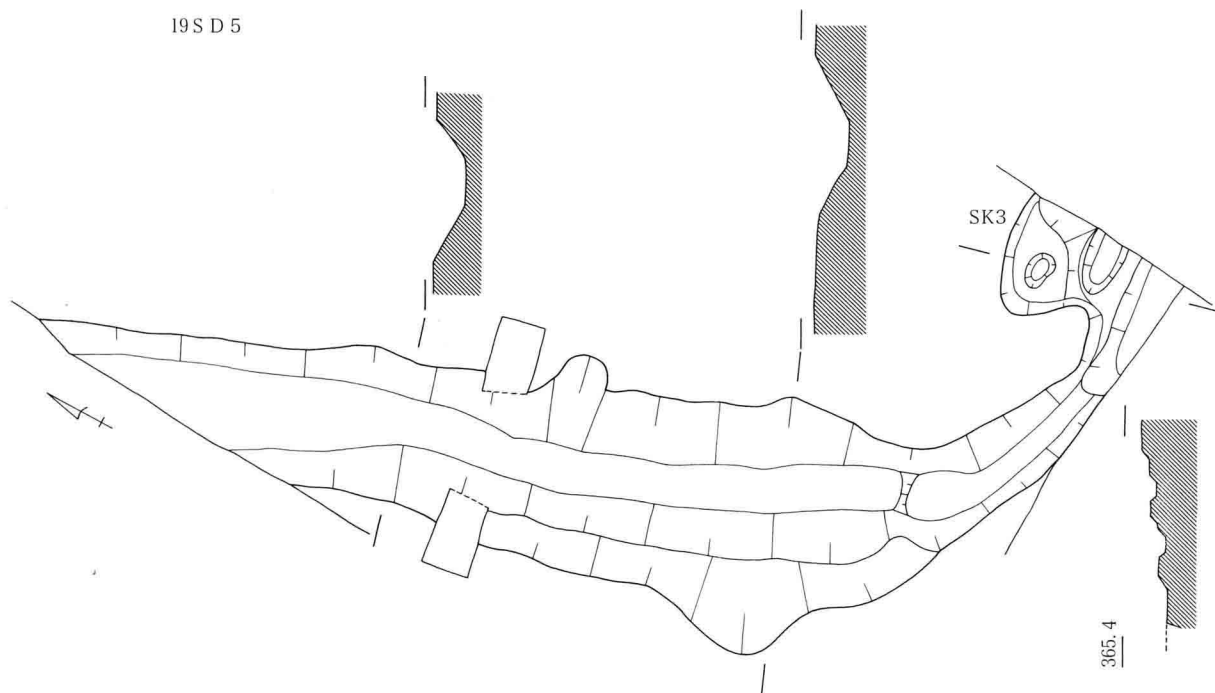
23図 樋爪遺跡小穴群・方形溝址 (1:80)・土坑 (1:40、5SK1・4は1:20) 実測図



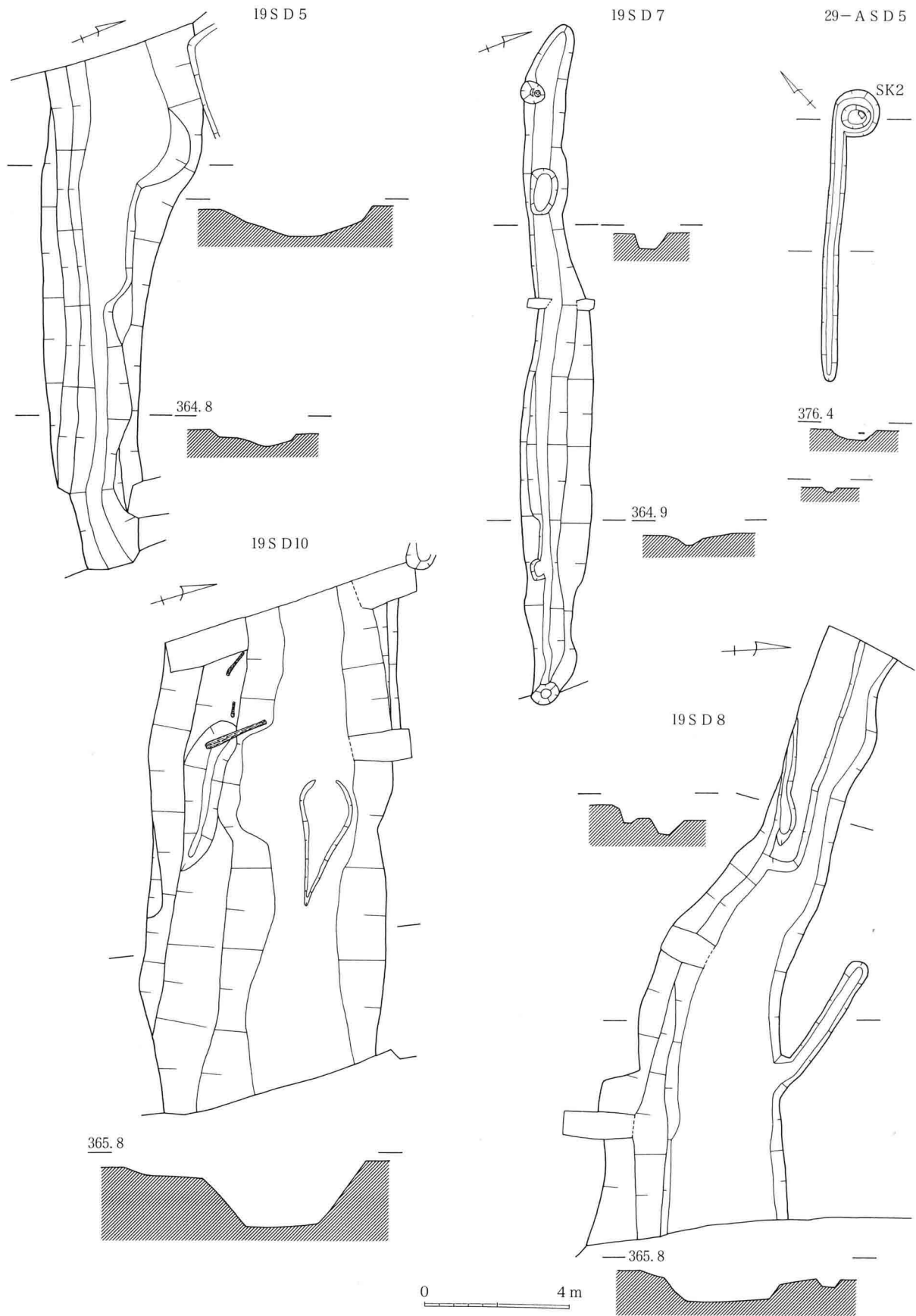
24図 樋爪遺跡土坑・土壙墓実測図（1：40、19-1SK4・SJ1は1：20）



25図 桶爪遺跡溝址実測図 (1:200、1:80)

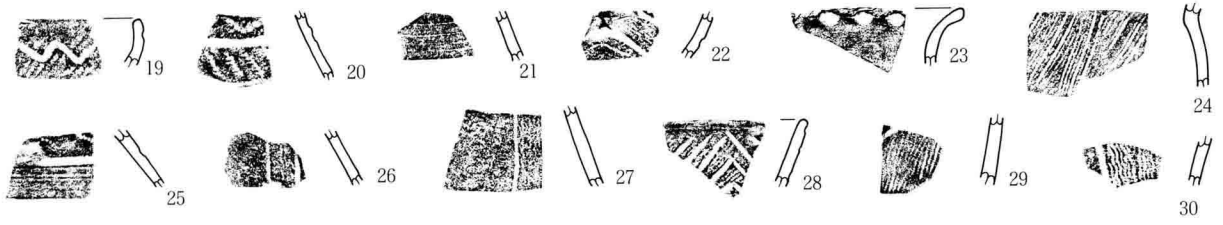


26図 樋爪遺跡溝址実測図 (1:80)

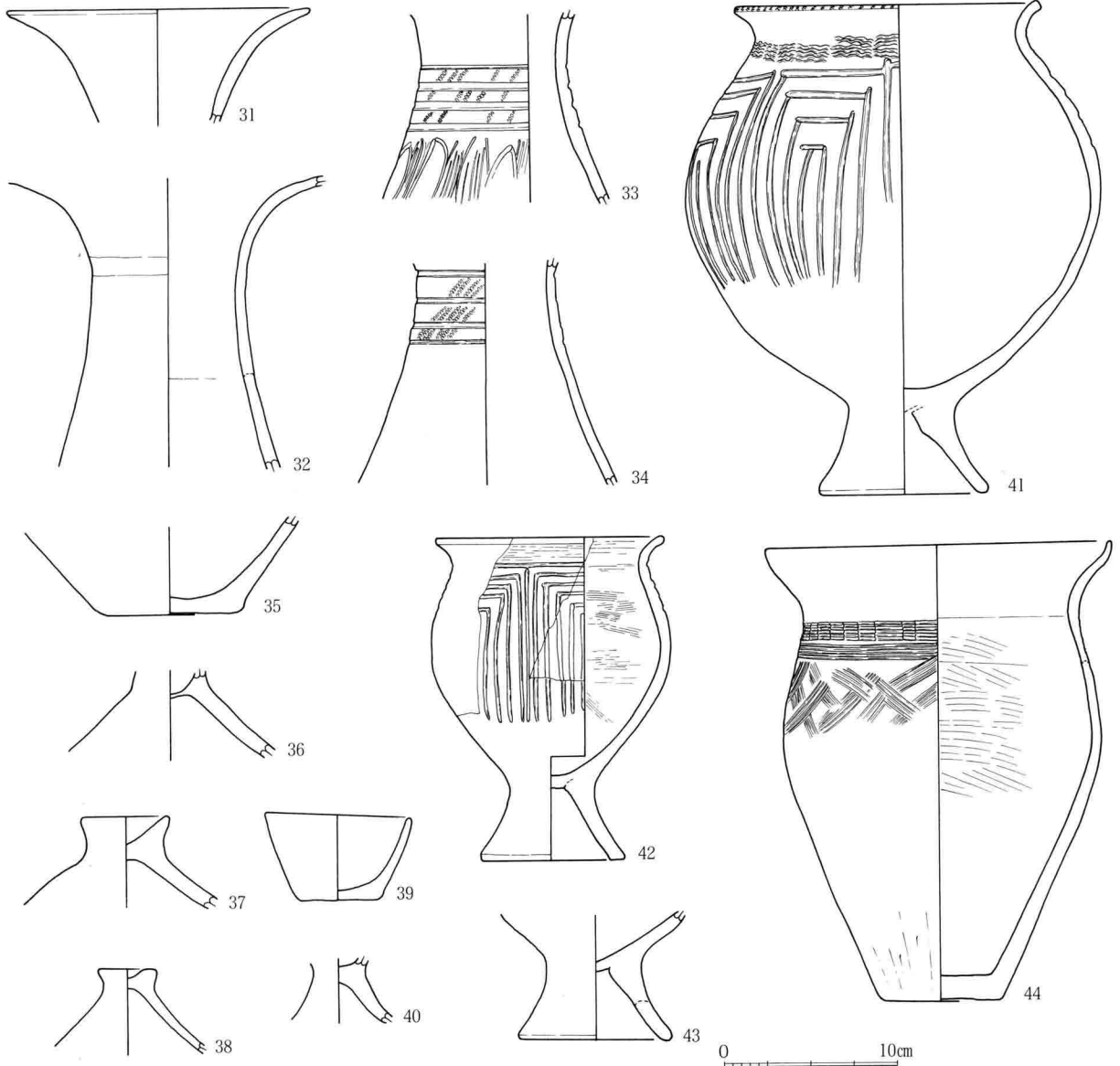


27図 槌爪遺跡溝址実測図 (1:80)

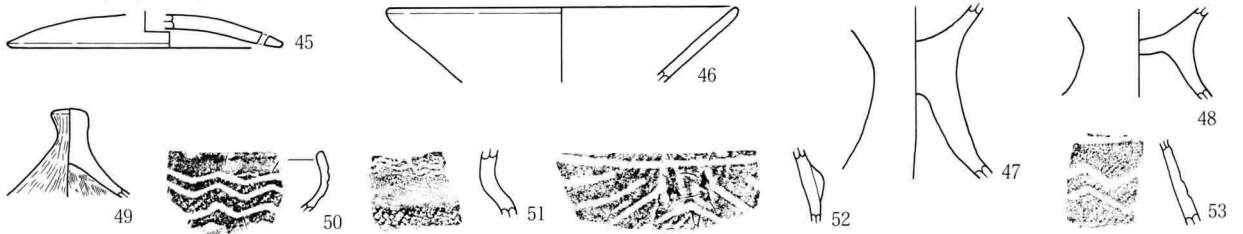
5 S B I (19~30)



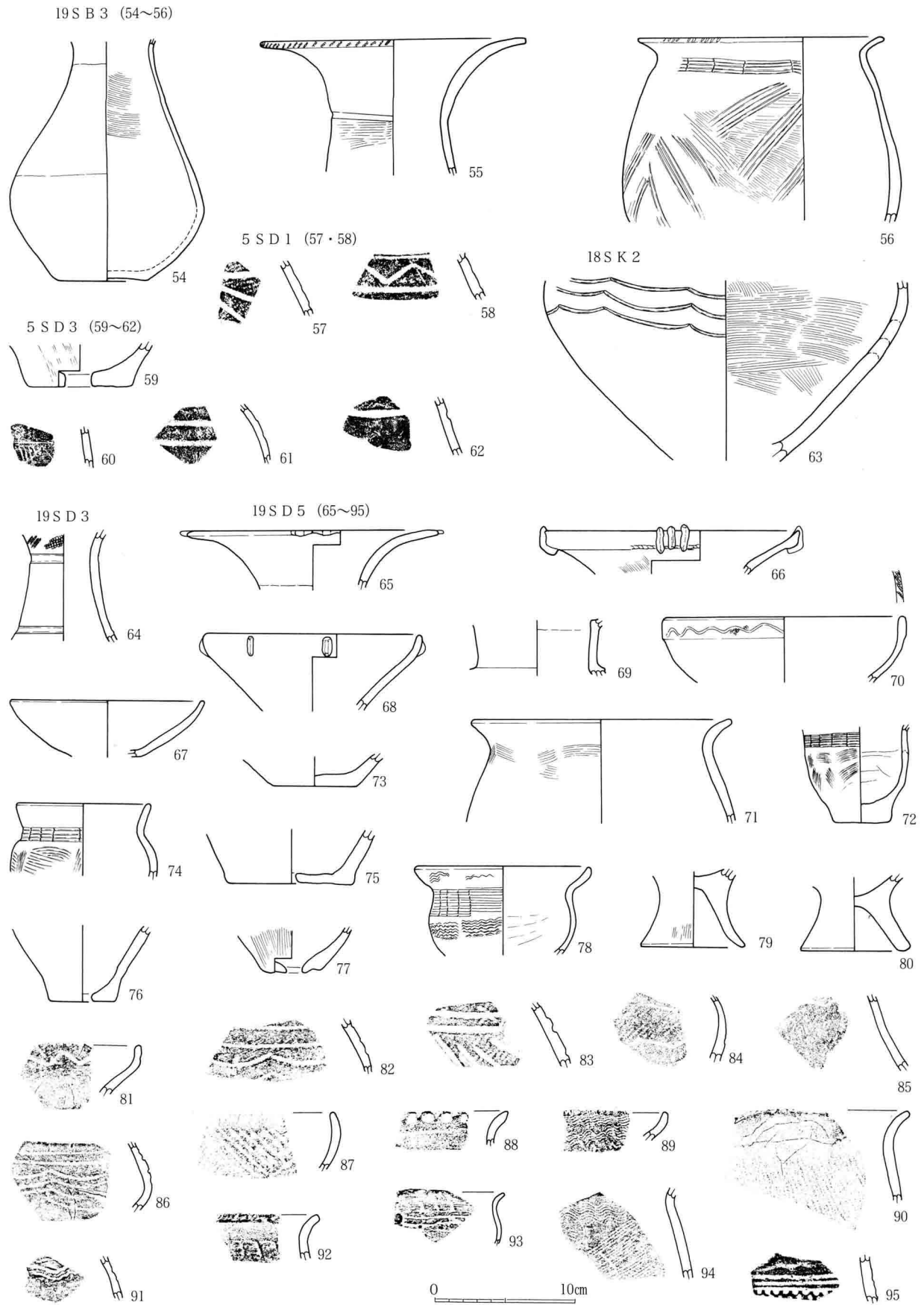
18 S B I (31~44)



18検 (45~53)

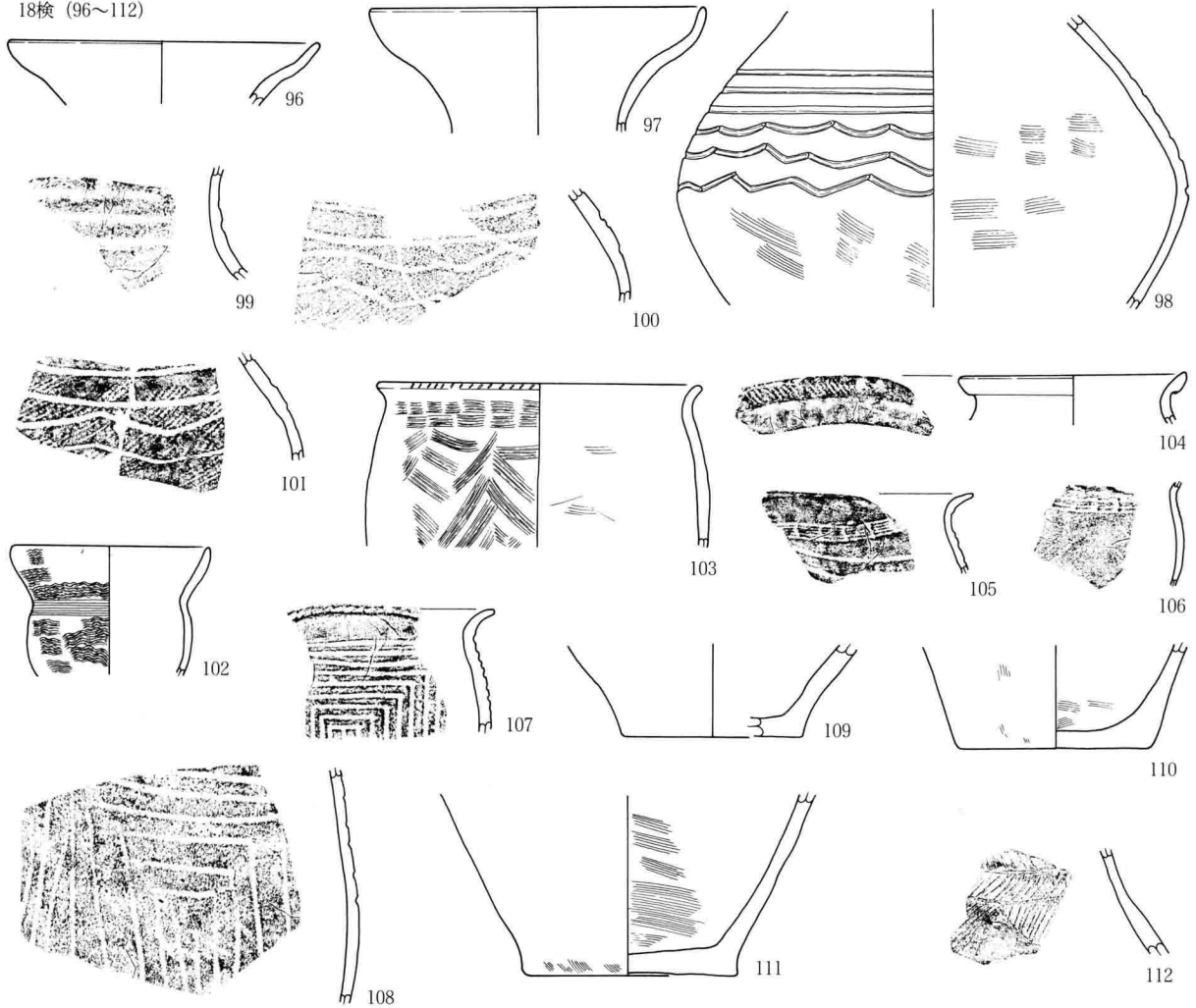


28図 樋爪遺跡住居址・検出面出土弥生時代中期土器実測図(1:4)

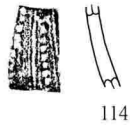
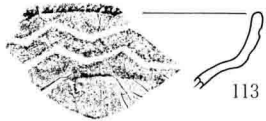


29図 樋爪遺跡住居址・土坑・溝址出土弥生時代中期土器実測図(1:4)

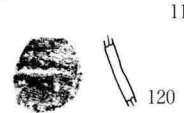
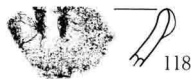
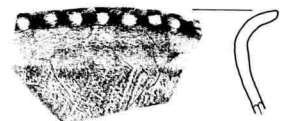
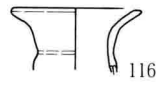
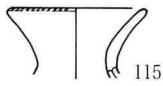
18検 (96~112)



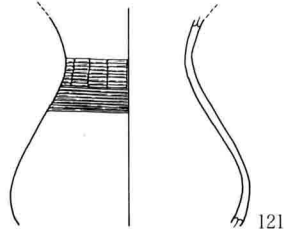
19 S D 7 (113・114)



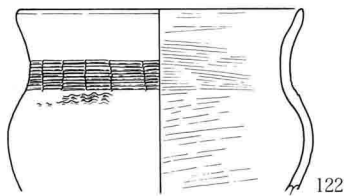
19 S D 10 (115~120)



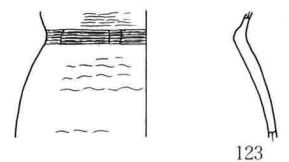
19検



5検

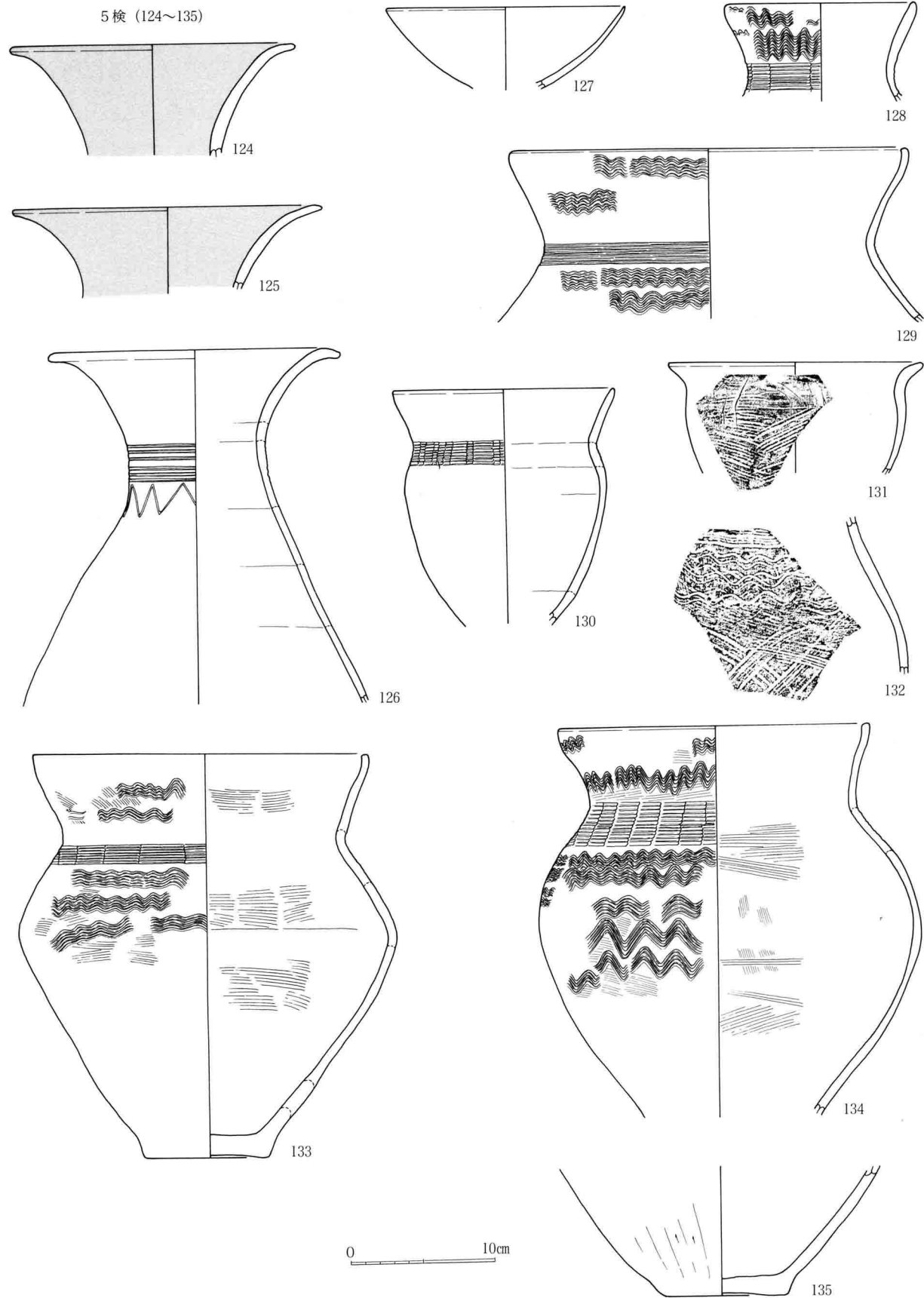


29検

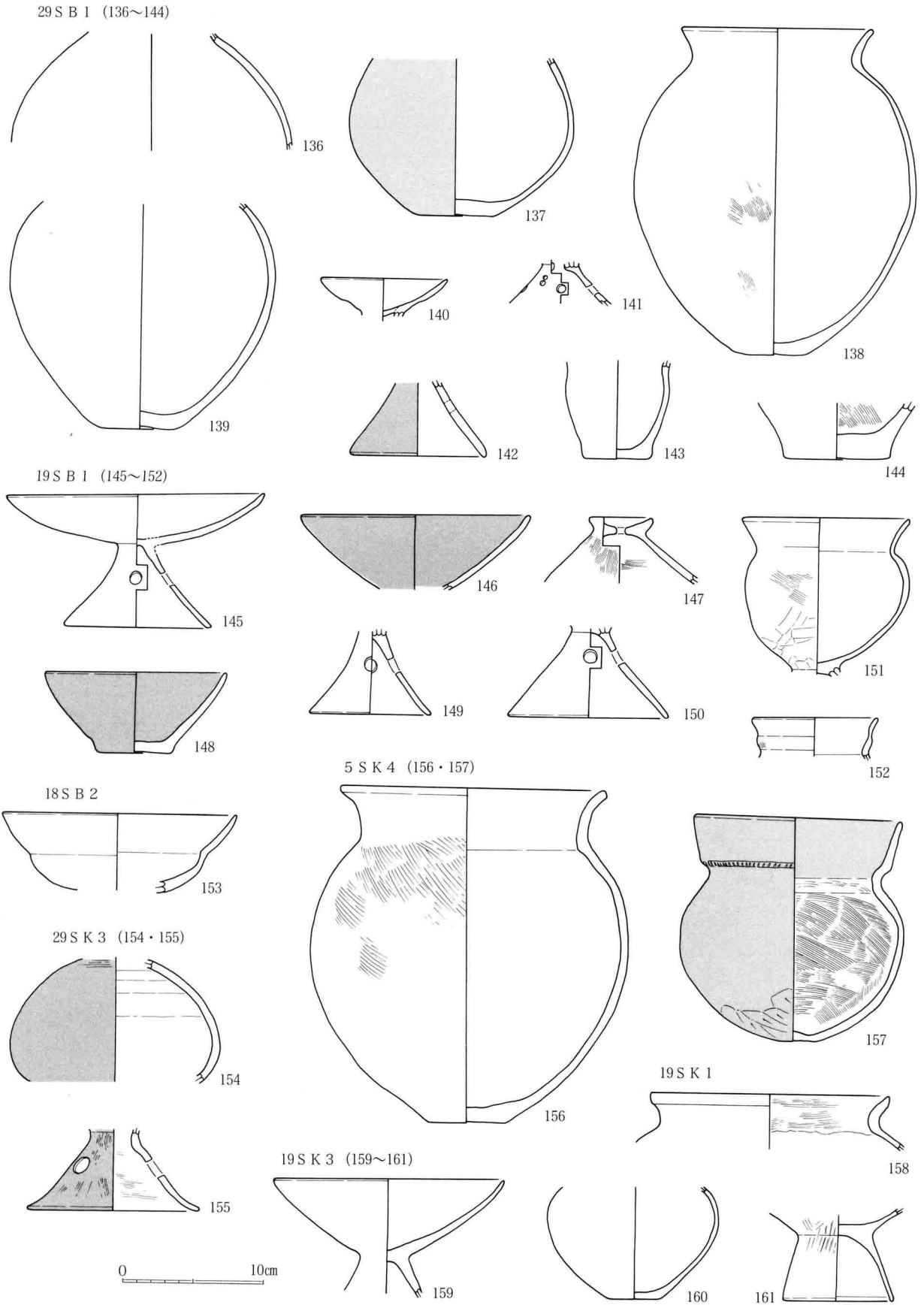


0 10cm

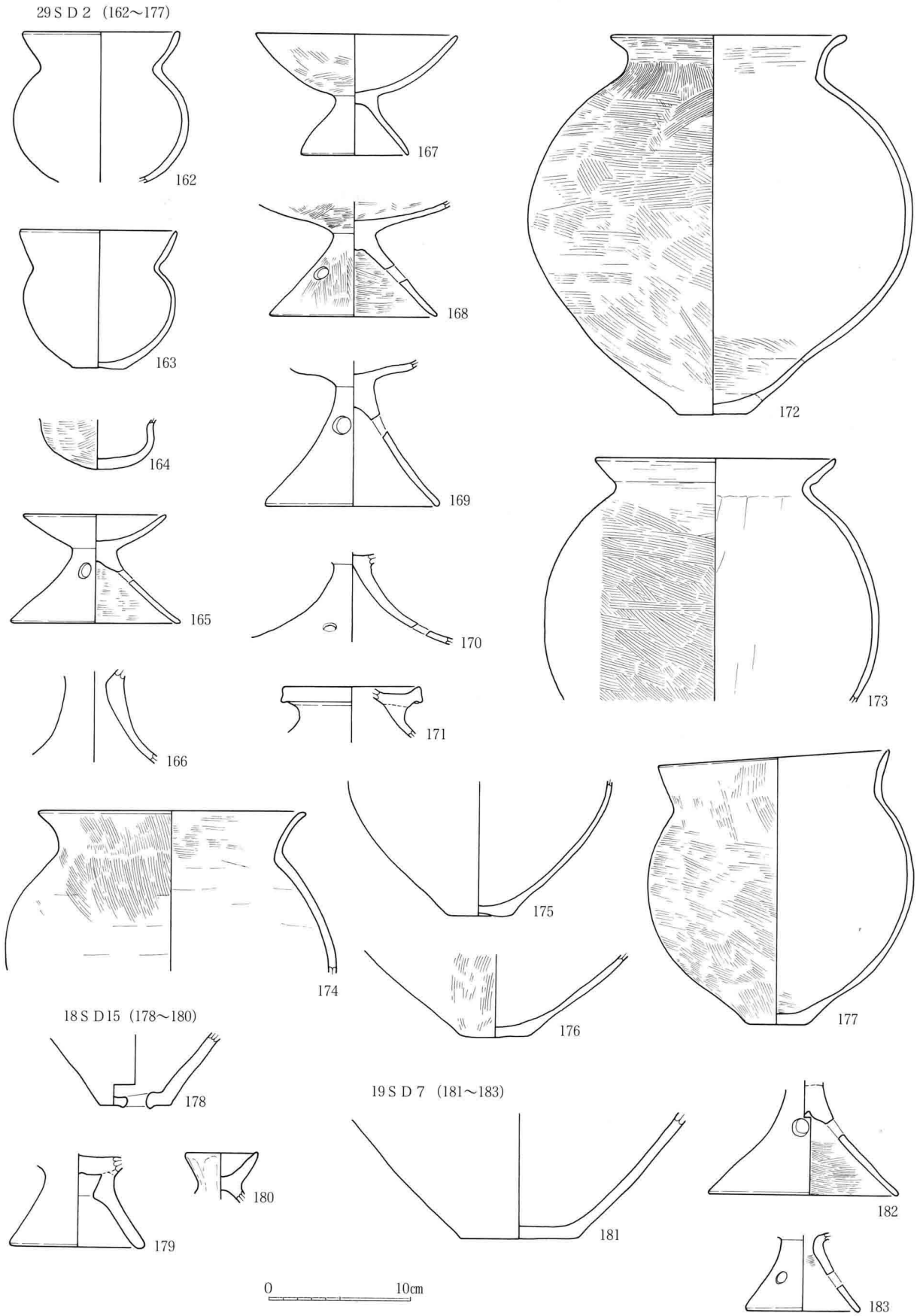
30図 樋爪遺跡検出面・溝址出土弥生時代中期土器実測図(1:4)



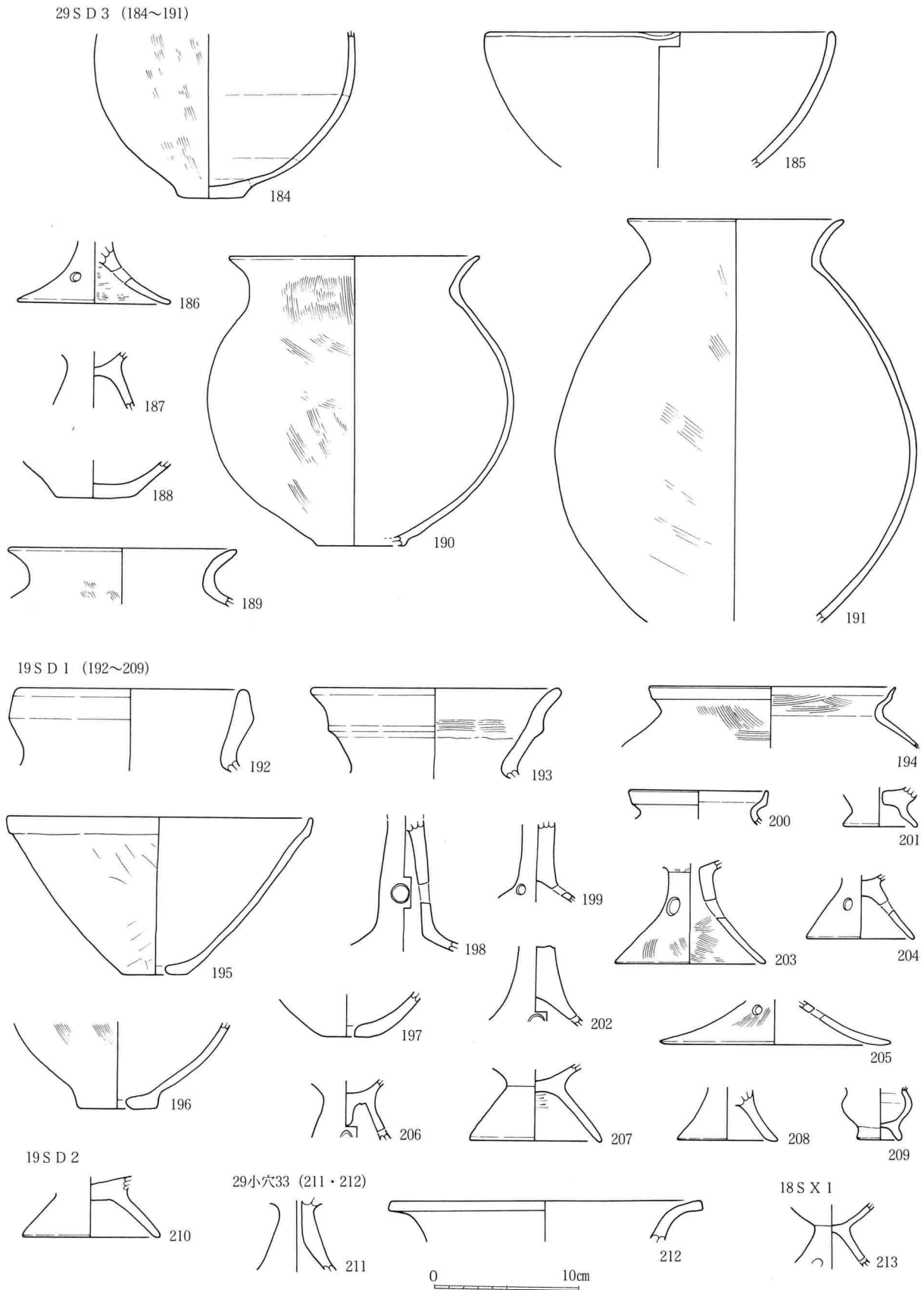
31図 樋爪遺跡検出面出土弥生時代後期土器実測図 (1 : 4)



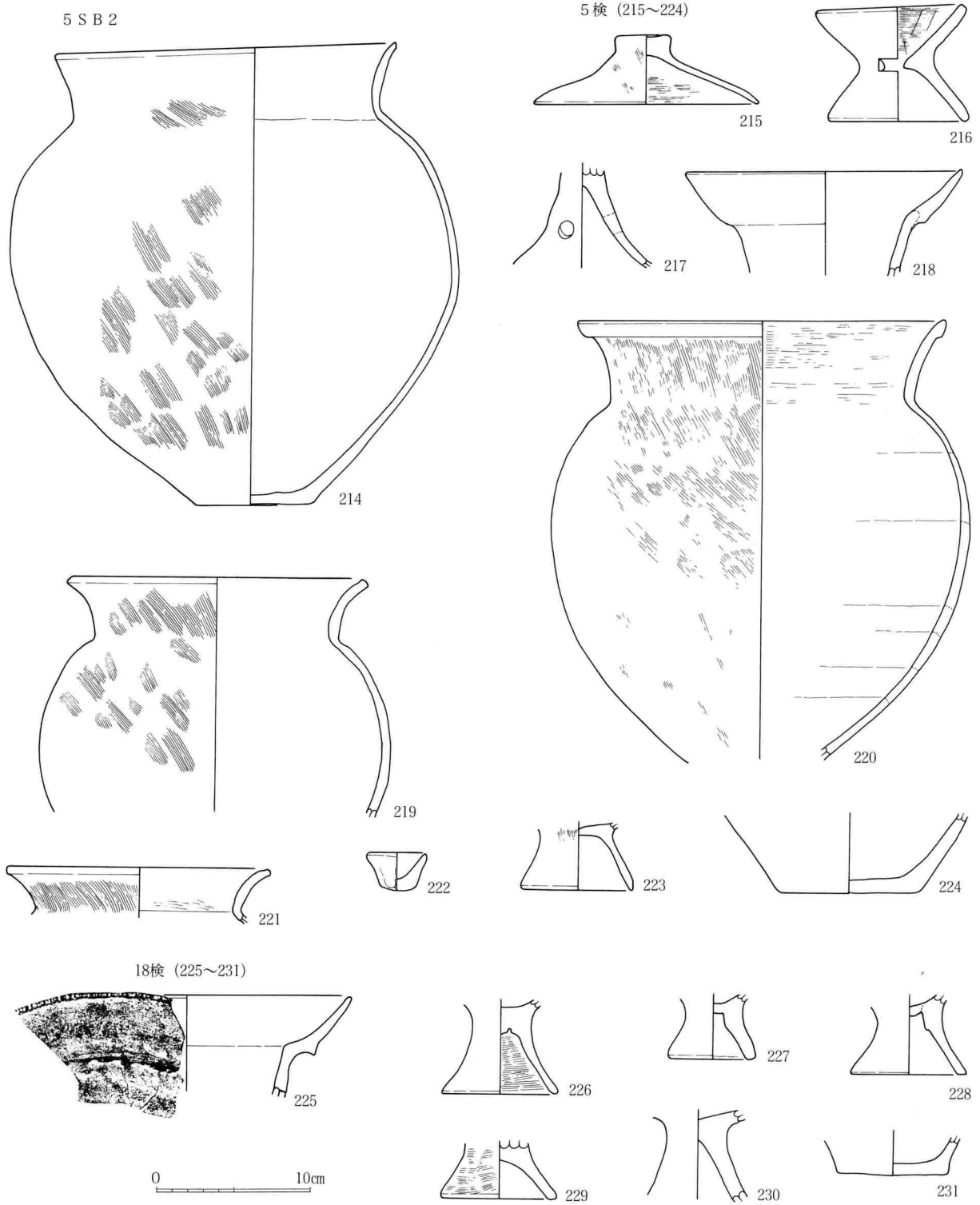
32図 樋爪遺跡住居址・土坑出土古墳時代前期土器実測図(1:4)



33図 樋爪遺跡溝址出土古墳時代前期土器実測図 (1 : 4)

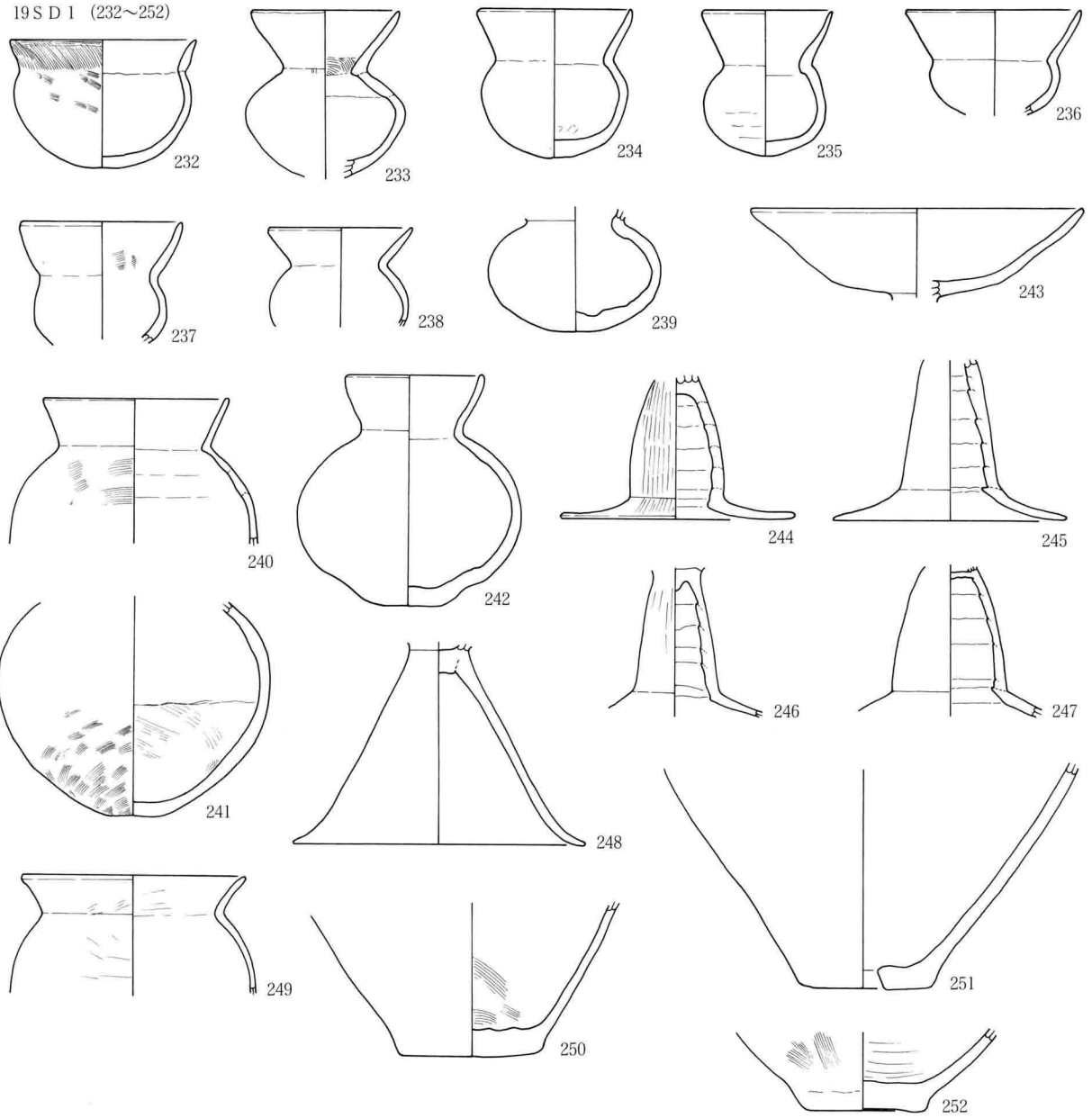


34图 樋爪遺跡溝址・小穴・豎穴状遺構出土古墳時代前期土器実測図(1:4)

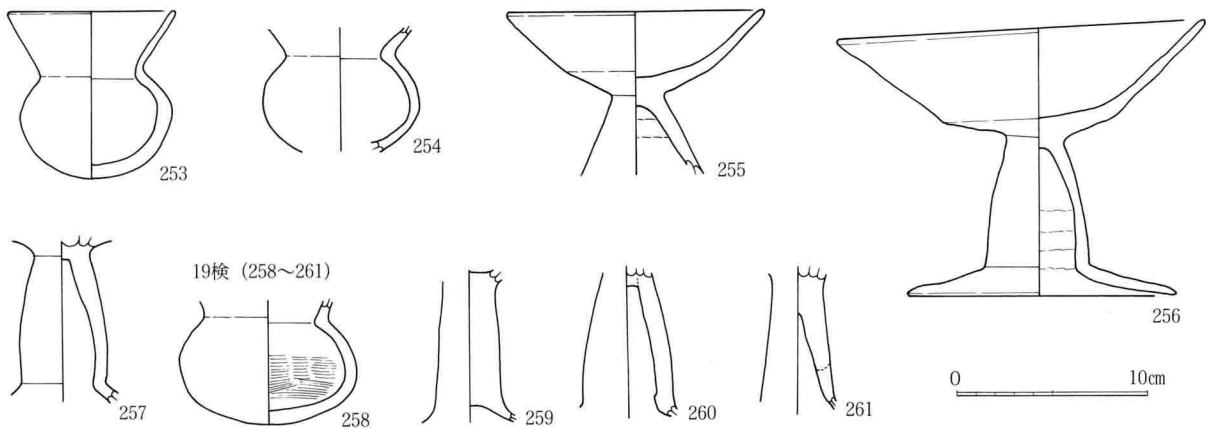


35図 樋爪遺跡住居址・検出面出土古墳時代前期土器実測図(1:4)

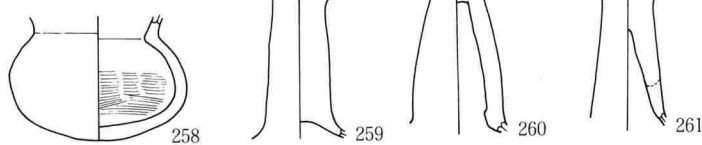
19 S D I (232~252)



2 検 (253~257)

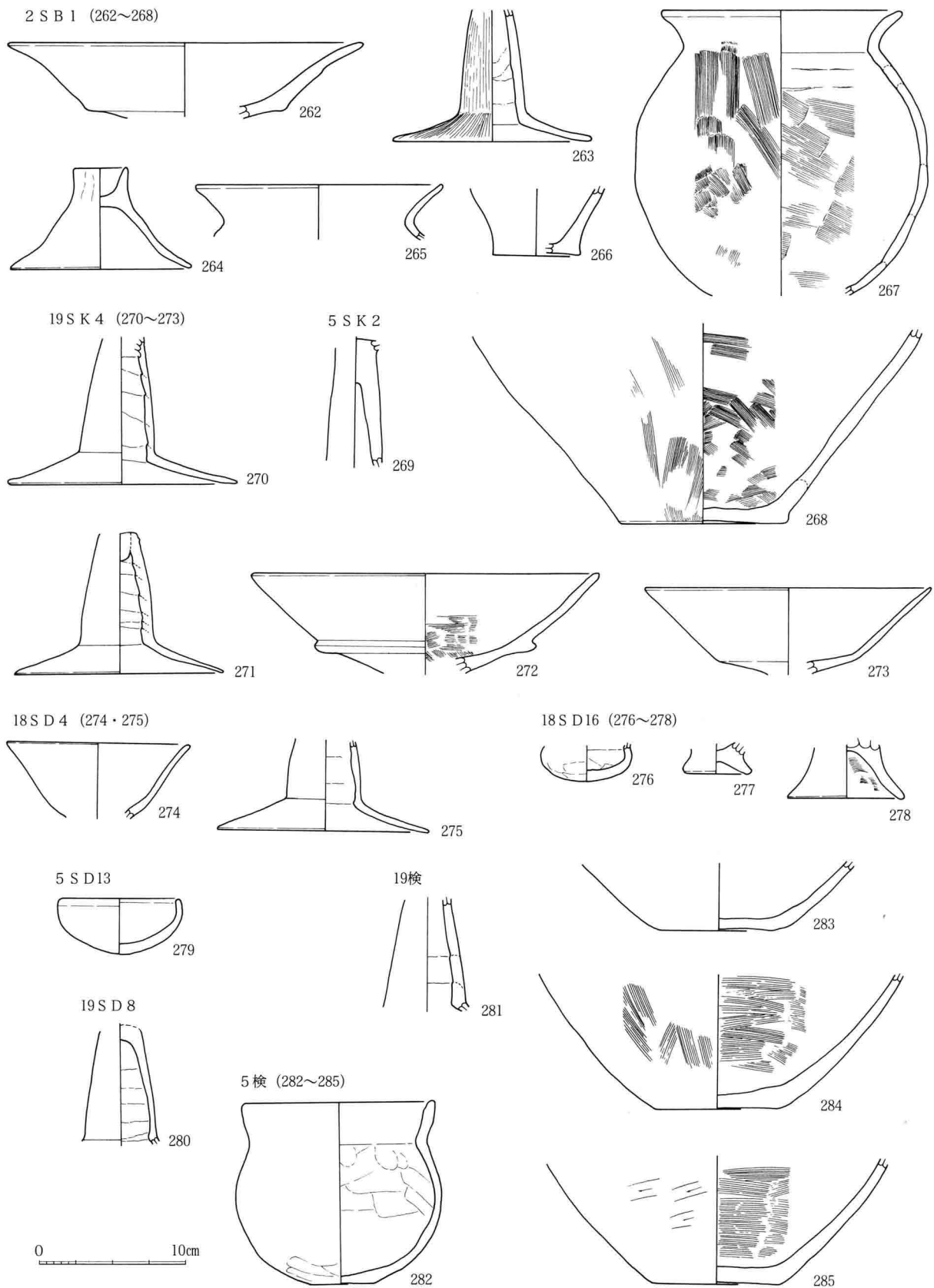


19 検 (258~261)

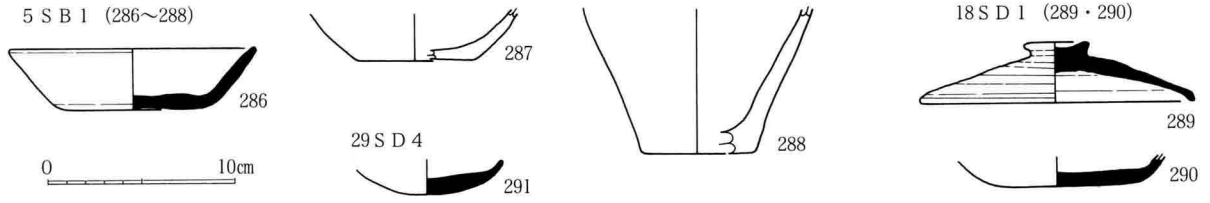


0 10cm

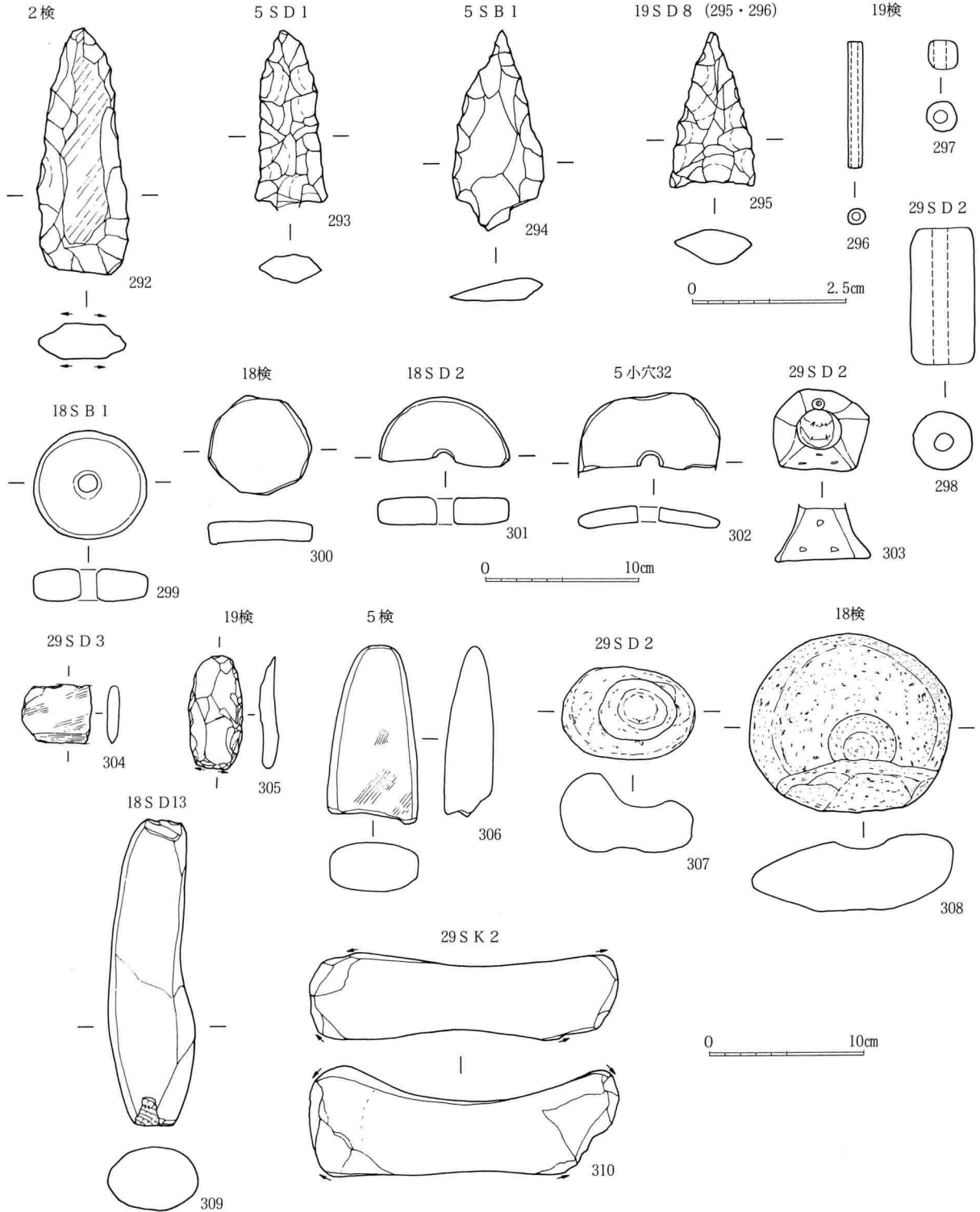
36 図 樋爪遺跡溝址・検出面出土古墳時代中期土器実測図 (1 : 4)



37図 樋爪遺跡住居址・土坑・溝址・検出面出土古墳時代中期土器実測図(1:4)



38図 樋爪遺跡住居址・溝址出土奈良時代土器実測図（1：4）



39図 樋爪遺跡出土石・土・ガラス製品実測図（292～298は1：1、299～303は1：2、304～310は1：4）

住居址観察表

遺構名	図番号	形態	規模(m)	主軸方向	内部施設等	遺物	図番号
2SB1	20	長方形	・5.2	N18°W	床軟弱	古墳中期	37
5SB1	〃	〃	5.9・4.3	N32°W	主柱穴6個長方形配列・地床炉	弥生中期・奈良	28・38
5SB2	〃	隅丸長方形	(3.8)・(3.1)	N45°E	周溝・間仕切溝・小穴	古墳前期	35
29-ASB1	〃	〃?		N44°E	〃・主柱穴4個?	弥生中期?	
〃SB2	〃	〃?		N35°W	〃・床軟弱		
〃SB3	21	〃?		〃	〃		
29-BSB1	〃	〃	・(6.0)	N59°E	〃・主柱穴4個?	古墳前期	32
〃SB2	〃	長方形?		N34°W	小穴		
18SB1	〃	〃?	・4.2	N125°W	主柱穴4個?・小穴	弥生中期	28
18SB2	22	隅丸方形	7.7・8.0	N42°W	〃?・地床炉?	古墳前期	30
19SB1	〃	〃	6.0・6.6	N60°W	主柱穴4個方形配列・地床炉	〃	30
19SB2	〃	長方形		N64°W			
19SB3	21	隅丸長方形	6.3・4.9	N40°W	主柱穴4個?・不連続周溝	弥生中期	29
19方形溝址 (SD6~8)	23	長方形	3.7・3.4	N28°W	不連続周溝・小穴内包	古墳前期?	

掘立柱建物址・小穴群観察表

遺構名	図番号	形態	規模(芯々m)	柱間(芯々m)	長軸方向	説明
19小穴群 (ST1)	23	不整台形	東列4.6・西列4.0 北列3.0・南列3.7	東2.6・2.0, 西1.8・2.2 北1.4・1.6, 南1.7・2.0	東列N44°W 西列N32°W	径20~30cm 深10~30cm

土坑観察表

遺構名	図番号	形態	規模(cm)	説明	遺物 図	遺構名	図番号	形態	規模(cm)	説明	遺物 図
			長軸×短軸×深						長軸×短軸×深		
5SK1	23	円形	110・一・70	底円礫		19SK6	24	不整形	50・32・17		
5SK4	〃	〃	79・一・40	土器埋納・古墳前期	30	19SK7	〃	〃	78・66・5		
8SK1	〃	〃	42・一・6			19SK1	〃	不整長方形	110・60・5	古墳前期	30
29SK1	〃	〃	45・36・17			19SK2	〃	不整形	80・53・11		
18SK1	〃	楕円形	・47・21			19SK3	〃	円形	40・一・33	古墳前期	30
18SK2	〃	〃	・68・20	弥生中期	29	19SK4	〃	不整長方形	120・44・4	古墳中期	37
18SK3	〃	〃	85・75・40			19SK5	〃	楕円形	28・25・3		
18SK4	〃	円形	60・一・20			19SK6	〃	隅丸長方形	38・26・12		
19SK5	24	〃	45・一・5			19SJ1	〃	〃	75・45・5	集石	

溝址観察表(1)

遺構名	図番号	規模(cm)	方向	説明	遺物	図番号
29SD2	25	幅75~80・深30~40	N29°W	方形周溝・SD3を圍繞	古墳前期	30
29SD3	〃	東西115・幅60~120・深30~40	〃	〃・SD4と接合	〃	34
29SD4	〃	幅30~40・深30	〃	北・東のみ周溝・SD3に接合	奈良	28

溝址観察表(2)

遺構名	図番号	規 模 (cm)	方 向	説 明	遺 物	図番号
19-1 S D 1	25	幅600~650・深80~100	N48°W	緩傾斜のU字形		
〃 S D 2	〃	幅30~50・深10~15	N51°W			
〃 S D 5	26	幅180~300・深35~45	南北→東西	緩傾斜のU字形		
19 S D 1	〃	幅300・深30~40	東西	S D 2 と交差	古墳前期・中期	34・36
19 S D 2	〃	幅100~140・深25~30	東西→南北	S D 1 を掘り込む	古墳前期	〃
19 S D 3	〃	幅150~200・深30~35	東西	西端で竪穴状遺構と重複	弥生中期	29
19 S D 5	27	幅150~260・深25~50	〃	18区溝址と接合?・緩傾斜のU字形	弥生中期	〃
19 S D 7	〃	幅60~120・深15~25	N70°W	U字形	古墳前期	33
19 S D 8	〃	幅130~320・深60	東西	18区溝址と接合?	古墳中期	37
19 S D 10	〃	幅400~420・深100~120	〃	〃	弥生中期	30

弥生時代中期土器観察表(1)

番号	種別	器種	法 量 (cm)			遺 存	成 形 ・ 調 整 等
			口径	底径	器高		
5 S B 1 (28図)							
19	弥生	壺				ママ	口縁：L R 縄文→篋山形文
20	〃	〃				〃	体部上半：L R 縄文・平行沈線文
21	〃	〃				〃	〃：篋先平行条線文
22	〃	〃				〃	体部下半：篋重山形文
23	〃	甕				〃	口縁：篋連続刺突文
24	〃	〃				〃	体部上半：櫛条線文
25	〃	壺				〃	〃：篋沈線文
26	〃	〃				〃	〃：篋縦平行沈線文
27	〃	〃				〃	〃：〃
28	〃	鉢				〃	口縁：篋重山形文
29	〃	壺				〃	体部下半：縄文・篋山形文
30	〃	〃				〃	〃：櫛波状懸垂文・篋沈線文
18 S B 1 (28図)							
31	弥生	壺	17.9			ママ	内外ハケナデ・ヘラミガキ
32	〃	〃				2/3	頸：篋沈線文，器面アレ
33	〃	〃				1/3	頸：L R 縄文→篋平行沈線文，体部上半：櫛懸垂文・篋沈線区画文
34	〃	〃				〃	〃：〃 → 〃
35	〃	〃				ママ	ヘラミガキ，内ナデ
36	〃	蓋				1/2	器面アレ，ナデ
37	〃	〃				ママ	〃，〃
38	〃	〃				〃	〃，〃
39	〃	浅鉢	7.5	4.2	5.0	1/3	ヘラミガキ，ナデ
40	〃	台付甕				ママ	〃，〃

弥生時代中期土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
41	弥生	台付甕	17.6	9.7	28.4	1/3	口唇：縄文，頸部：櫛波状文，体部：甕口の字重文，ハケナデ・ヘラミガキ
42	〃	〃	13.2	8.2	18.8	1/6	体部：甕口の字重文，ハケナデ・ヘラミガキ
43	〃	〃		8.8		1/2	ヘラミガキ，ナデ
44	〃	甕	19.9	7.1	26.4	5/6	頸：櫛簾状文・平行線文，体部上半：櫛縦羽状文，ハケナデ・ヘラミガキ
18検出面 (28図)							
45	弥生	蓋	14.3		1.8	1/3	ヘラミガキ，内ナデ
46	〃	高坏	18.5			〃	〃
47	〃	〃				ママ	〃，脚内ナデ
48	〃	〃				〃	〃，〃
49	〃	蓋				〃	ツマミ：棒状，ハケナデ・ナデ
50	〃	壺				〃	口縁：受口・縄文→甕重山形文
51	〃	甕				〃	頸：櫛波状文，肩：L R 縄文
52	〃	〃				〃	体部上半：甕沈線文・重山形文・突起状貼付文
53	〃	壺				〃	〃：L R 縄文→甕重山形文
19 S B 3 (29図)							
54	弥生	壺		6.3		ママ	ヘラミガキ，ハケナデ・ナデ
55	〃	〃				〃	口唇：L R 縄文，頸：甕沈線文，ヘラミガキ・ハケナデ
56	弥生	甕	17.7			1/4	口唇：甕刻文，頸：等間隔止簾状文，体部：櫛縦羽状文・ハケナデ
5 S D 1 (29図)							
57	弥生	壺				ママ	体部上半：甕沈線文・重山形文
58	〃	〃				〃	〃：甕平行波状文・山形文
5 S D 3 (29図)							
59	弥生	甌		7.1		ママ	ハケナデ・ナデ
60	〃	壺				〃	体部上半：甕先鋸歯文
61	〃	〃				〃	〃：甕平行沈線文
62	〃	〃				〃	〃：甕沈線文
18 S K 2 (29図)							
63	弥生	壺				1/2	体部下半：重連弧文，内ハケナデ
19 S D 3 (29図)							
64	弥生	壺				4/5	頸：L R 縄文・甕沈線文 2
19 S D 5 (29図)							
65	弥生	壺	17.9			1/2	口唇：山形突起，内外ヘラミガキ
66	〃	〃	15.4			1/3	口縁：突起状貼付文 3 個 1 対，ハケナデ・ヘラミガキ
67	〃	高坏	13.9			1/4	内外ヘラミガキ
68	〃	壺	15.3			1/3	口縁：突起状貼付文，内外ヘラミガキ
69	〃	〃				ママ	頸部直立，内外ヘラミガキ
70	〃	鉢	17.3			1/4	口縁：L R 縄文→甕山形文，ヘラミガキ

弥生時代中期土器観察表(3)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
71	弥生	甕	18.5			1/4	頸：櫛羽状文，ナデ・ヘラミガキ
72	〃	〃		4.0		3/5	〃：等間隔止簾状文，体部：櫛縦羽状文
73	〃	〃		6.0		ママ	ヘラミガキ・ナデ
74	〃	〃	9.5			1/4	頸：等間隔止簾状文，体部：櫛縦羽状文
75	〃	甗		8.9		ママ	内外ヘラナデ・ナデ
76	〃	〃		3.8		〃	〃・〃
77	〃	〃		4.0		〃	〃・〃
78	〃	台付甕	12.6			1/4	口縁・体部上半：櫛波状文，頸：櫛簾状文
79	〃	〃		7.4		ママ	ハケナデ・ナデ
80	〃	〃		7.8		〃	〃・〃
81	〃	壺				〃	口縁：篋山形文
82	〃	〃				〃	体部上半：篋平行沈線文・重円孤文
83	〃	〃				〃	〃：L R 縄文→篋平行沈線文・重山形文
84	〃	〃				〃	体部中位：〃→篋重山形文
85	〃	〃				〃	頸・篋山形文
86	〃	〃				〃	体部上半：篋平行沈線文・重円孤文
87	〃	〃				〃	口縁：篋斜行線文充填鋸歯文
88	〃	甕				〃	〃：篋連続刺突文
89	〃	〃				〃	〃：櫛波状文
90	〃	〃				〃	体部上半：ハケナデ
91	〃	〃				〃	〃：篋波状文
92	〃	〃				ママ	口唇：L R 縄文，頸：等間隔止簾状文
93	〃	〃				〃	頸：等間隔止簾状文，体部上半：篋平行沈線文
94	〃	〃				〃	〃：櫛波状文・斜行線文
95	〃	壺				〃	体部上半：篋平行沈線文・連続刺突文
18検出面 (30図)							
96	弥生	壺	17.0			1/3	内外ヘラミガキ
97	〃	〃	18.0			〃	〃
98	〃	〃				1/2	体部上半：篋平行沈線文・重円孤文，ハケナデ・ヘラナデ
99	〃	〃				ママ	頸：篋平行沈線文
100	〃	〃				〃	体部上半：L R 縄文→篋平行沈線文・重円孤文
101	〃	〃				〃	〃：〃→〃・〃
102	〃	甕	10.8			1/3	口縁・体部：櫛波状文，頸：櫛平行線文
103	〃	〃	17.3			〃	口唇：篋刺突文，頸：櫛平行線文，体部上半：櫛縦羽状文
104	〃	〃	12.3			1/4	口縁：有段・R L 縄文
105	〃	〃				ママ	頸・櫛等間隔止簾状文・篋沈線文
106	〃	〃				〃	〃：〃

弥生時代中期土器観察表(4)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
107	弥生	台付甕				〃	口唇：LR縄文，体部上半：コの字重文
108	〃	〃				〃	体部上半：コの字重文
109	〃	甕		9.7		1/4	外ヘラミガキ・内ハケナデ・ナデ
110	〃	〃		10.0		1/3	〃・〃・〃
111	〃	〃		11.4		〃	〃・〃・〃
112	〃	壺				ママ	吉田式，頸：篋先横羽状文・鋸歯文
19SD7 (30図)							
113	弥生	壺				ママ	口唇：LR縄文，口縁：受口・篋重山形文
114	〃	〃				〃	体部上半：篋沈線懸垂文・縦刺突文
19SD10 (30図)							
115	弥生	壺	7.4			1/4	口唇：LR縄文
116	〃	〃	6.8			3/4	頸：擬突帯
117	〃	甕				ママ	口縁：篋刺突文，体部上半：ハケ条線文
118	〃	壺				〃	〃：突起状貼付文
119	〃	〃				〃	体部上半：篋沈線懸垂文・刺突文・沈線文
120	〃	〃				〃	〃：篋沈線文
19検出面 (30図)							
121	弥生	壺				1/3	頸：櫛等間隔止簾状文・平行線文
5検出面 (30図)							
122	弥生	鉢	15.0			1/4	頸・櫛等間隔止簾状文，体部上半：櫛波状文
29検出 (30図)							
123	弥生	甕				1/4	口縁・体部上半：櫛波状文，頸：櫛簾状文

弥生時代後期土器観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
5検出面 (31図)							
124	弥生	壺	20.0			1/4	内外ヘラミガキ・赤彩
125	〃	〃	21.6			3/4	〃・〃
126	〃	〃	20.4			〃	頸：篋平行沈線文・山形文，外ヘラミガキ・内成形痕
127	〃	高坏	16.8			1/4	内外ヘラミガキ
128	〃	甕	13.6			〃	口縁：櫛波状文，頸：櫛等間隔止簾状文，内ヘラミガキ
129	〃	〃	27.9			〃	口縁・体部上半：櫛波状文，頸：櫛平行線文
130	〃	〃	15.6			1/3	頸：櫛2連止簾状文
131	〃	〃	18.0			1/8	体部上半：櫛縦羽状文
132	〃	〃				ママ	頸：櫛平行線文，体部上半：櫛波状文・縦羽状文
133	〃	〃	23.4	8.7	28.2	3/4	口縁・体部上半：櫛波状文，頸：等間隔止簾状文，内ハケナデ
134	〃	〃	21.8			1/2	〃・〃：〃，〃：〃 2段，〃
135	〃	〃		8.7		2/3	外ヘラミガキ，内ナデ

古墳時代前期土器観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	
			口径	底径	器高						口径	底径	器高			
29S B 1 (32図)							161	土師	台付甕			7.6		ママ	外ハケナデ・ナデ	
136	土師	壺				1/5	29S D 2 (33図)									
137	〃	〃		5.6		3/5	162	土師	埴	11.0				3/5	内外磨耗	
138	〃	甕	13.5	5.0	23.0	〃	163	〃	〃	11.0	3.6	9.7	3/4	〃		
139	〃	壺		5.2		1/4	164	〃	〃			丸	ママ	外ハケナデ・ナデ 内ナデ		
140	〃	器台	9.0			1/2	165	〃	器台	10.1	12.0	7.6	完	内外ヘラミガキ 脚内ハケナデ, 円孔		
141	〃	〃				ママ	166	〃	〃				ママ	内外磨耗		
142	〃	〃		9.6		1/3	167	〃	高坏	14.2	7.6	8.6	3/4	内外ハケナデ・ヘラミガキ 脚内ナデ, 円孔		
143	〃	甕		4.8		〃	168	〃	〃		11.8		1/3	内外ハケナデ・ヘラミガキ 脚内ハケナデ・ナデ, 円孔		
144	〃	〃		7.4		1/2	169	〃	〃		12.2		3/5	内外ヘラミガキ 脚内ナデ		
19S B 1 (32図)							170	〃	器台				1/3	外ヘラミガキ・円孔 脚内ナデ		
145	土師	高坏	18.3	10.1	9.4	完	171	〃	蓋?				1/3	外ヘラミガキ 内ナデ		
146	〃	〃	16.0			4/5	172	〃	甕	16.7	4.8	26.8	3/4	外ハケナデ 内ハケナデ・ナデ		
147	〃	蓋				1/3	173	〃	〃	17.0			3/5	外ハケナデ 内ヘラナデ・ナデ		
148	〃	浅鉢	12.7	5.2	5.7	1/4	174	〃	〃	18.8			〃	外ハケナデ 内ハケナデ・ヘラナデ		
149	〃	高坏		8.4		1/2	175	〃	〃		4.8		1/3	内外磨耗		
150	〃	〃		11.1		ママ	176	〃	〃		5.0		3/5	外ハケナデ 内ナデ		
151	〃	台付甕	11.6			2/3	177	〃	〃	16.4	4.2	18.7	完	外ハケナデ 内ハケナデ・ナデ		
152	〃	甕	8.9			1/3	18S D 15 (33図)									
18S B 2 (32図)							178	土師	甕		5.0		1/3	外ヘラナデ 内ナデ		
153	土師	浅鉢	16.5			1/4	179	〃	台付甕		9.4		1/2	外ヘラナデ 内ナデ		
29S K 3 (32図)							180	〃	蓋				ママ	内外ヘラナデ		
154	土師	埴				1/3	19S D 7 (33図)									
155	〃	器台		12.2		3/4	181	土師	甕		8.2		1/2	外ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ		
5S K 4 (32図)							182	〃	高坏		15.0		ママ	外ヘラミガキ・円孔 内ハケナデ・ナデ		
156	土師	甕	18.6	5.4	23.7	完	183	〃	器台		8.0		〃	外ヘラミガキ・円孔 内ハケナデ・ナデ		
157	〃	埴	14.6	2.8	15.9	4/5	29S D 3 (34図)									
19S K 1 (32図)							184	土師	甕		4.6		1/2	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ・成形痕		
158	土師	甕	16.6			1/4	185	〃	片口鉢	24.4			1/6	内外ヘラミガキ		
19S K 3 (32図)							186	〃	器台		10.8		1/3	外ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ		
159	土師	高坏	16.3			1/4	187	〃	高坏				ママ	内外ヘラミガキ 脚内ナデ		
160	〃	埴		3.5			188	〃	甕		5.5		〃	内外磨耗		

古墳時代前期土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
189	土師	甕	16.2			1/4	外ハケナデ・ヘラナデ	211	土師	器台				ママ	外ヘラミガキ
190	〃	〃	17.6	6.3	20.1	3/4	外ハケナデ 内ナデ	212	〃	甕	21.8			1/4	口縁面取, 内外ナデ
191	〃	〃	15.0			1/3	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ	18 S X 1 (34図)							
19 S D 1 (34図)							213	土師	高坏				3/4	内外ヘラミガキ・円孔	
192	土師	壺	16.2			1/4	内外ナデ	5 S B 2 (35図)							
193	〃	〃	17.4			1/4	口縁有段, 内外ナデ 内ハケナデ	214	土師	甕	22.7	7.8	30.2	1/2	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
194	〃	甕	17.1			2/5	口縁有段, 内外ハケナデ・ナデ	5 検出面 (35図)							
195	〃	甕	21.4	4.4	11.0	1/4	口縁有段・内外ヘラナデ	215	土師	蓋	15.0		4.5	1/3	外ヘラナデ・ 内ハケナデ・ナデ
196	〃	〃		5.7		2/3	内外ナデ	216	〃	器台	10.1	9.4	7.6	3/4	内外ヘラミガキ 脚内ナデ
197	〃	〃		4.1		1/2	内外磨耗	217	〃	高坏				〃	外ヘラミガキ, 円孔 内ナデ
198	〃	高坏				3/4	外ヘラミガキ・円孔	218	〃	壺	18.4			1/4	口縁有段, 内外磨耗
199	〃	〃				ママ	〃・〃	219	〃	甕	19.6			〃	口縁面取, 外ハケナデ 内ヘラナデ・ナデ
200	〃	甕	9.5			1/2	口縁有段・内外ナデ	220	〃	〃	24.4			3/4	口縁有段, 外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
201	〃	器台		4.1		〃	内外磨耗	221	〃	〃	17.3			1/3	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
202	〃	高坏				ママ	〃・円孔	222	〃	鉢				ママ	ミニチュア・手捏
203	〃	器台	10.5			〃	内外ハケナデ・ナデ・円孔	223	〃	台付甕		7.2		〃	外ハケナデ・ヘラナデ
204	〃	〃		7.5		〃	内外磨耗	224	〃	甕		9.4		〃	内外ヘラナデ
205	〃	〃		16.0		1/4	外ハケナデ・ヘラミガキ 内ナデ, 円孔	18検出面 (35図)							
206	〃	高坏				ママ	外ヘラミガキ・円孔	225	土師	壺	21.6			1/6	口唇: 篋刻み文, 口縁有段 内外ヘラミガキ
207	〃	台付甕	9.3			1/2	脚内ハケナデ・ナデ	226	〃	台付甕		7.5		ママ	脚内ハケナデ
208	〃	〃	9.3			ママ	内外磨耗	227	〃	〃		5.5		〃	外ヘラナデ・内ナデ
209	〃	台付甕	3.2			2/3	ミニチュア, ナデ	228	〃	〃		7.8		〃	〃・〃
19 S D 2 (34図)							229	〃	〃		7.4			〃	外ハケナデ・内ナデ
210	土師	台付甕		9.7		ママ	内外磨耗	230	〃	高坏				〃	外ヘラミガキ・〃
29小穴33 (34図)							231	〃	甕		7.3			3/4	外ヘラナデ・〃

古墳時代中期土器観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
19 S D 1 (36図)							235	土師	小型丸底	7.6		8.6	3/4	外ヘラミガキ・ヘラケズリ 内ナデ	
232	土師	鉢	11.0	丸	7.5	1/3	外ハケナデ・ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ	236	〃	鉢	10.3			1/2	器面磨耗
233	〃	小型丸底	8.6	〃		〃	〃	237	〃	小型丸底	9.6	丸		〃	〃
234	〃	〃	9.1	〃	8.7	〃	器面磨耗	238	〃	〃	8.6	〃		〃	外ヘラミガキ・内ナデ

古墳時代中期土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
239	土師	小型丸底		丸		ママ	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ	265	土師	甕	17.0			1/4	内外ハケナデ・ヘラナデ
240	〃	甕	11.0			2/3	外ハケナデ・ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ	266	〃	〃		6.0		〃	内外ヘラナデ
241	〃	〃		3.0		1/3	〃	267	〃	〃	16.6			〃	内外ハケナデ・ヘラナデ
242	〃	壺	8.0	3.3	13.6	完	〃	268	〃	〃		11.6		ママ	〃
243	〃	高坏	19.5			1/3	内外ヘラミガキ	5 S K 2 (37図)							
244	〃	〃		13.6		ママ	外ヘラミガキ 内ナデ・成形痕	269	土師	高坏				ママ	外ヘラミガキ・内ナデ
245	〃	〃		13.6		〃	〃	19 S K 4 (37図)							
246	〃	〃				〃	〃	270	土師	高坏		15.4		1/4	外ヘラミガキ 内ナデ・成形痕
247	〃	〃				〃	〃	271	〃	〃		14.2		1/8	〃
248	〃	〃		17.1		1/3	外ハケナデ・ヘラミガキ 内ナデ	272	〃	〃	23.4			1/4	内外ハケナデ・ヘラミガキ
249	〃	甕	13.0			〃	外ヘラナデ・内ナデ	273	〃	〃	19.7			2/3	内外ヘラミガキ
250	〃	〃		8.3		〃	外ヘラナデ 内ハケナデ・ナデ	18 S D 4 (37図)							
251	〃	甕		7.6		〃	外ヘラナデ・内ナデ	274	土師	高坏	12.6			1/4	内外磨耗
252	〃	甕		6.8		ママ	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ	275	〃	〃		14.6		1/3	外ヘラミガキ・内ナデ
2 検出面 (36図)							18 S D 16 (37図)								
253	土師	小型丸底	8.8	丸	8.9	1/3	器面磨耗	276	土師	小型丸底		丸		1/2	外ヘラナデ・内ナデ
254	〃	〃				〃	〃	277	〃	台付甕		5.0		1/3	手捏
255	〃	高坏	13.8			1/2	内外ヘラミガキ 脚内ナデ・成形痕	278	〃	〃		8.0		〃	外ヘラナデ 内ハケナデ
256	〃	〃	19.4	14.0	14.1	3/4	〃	5 S D 13 (37図)							
257	〃	〃				ママ	〃	279	土師	坏	8.3	丸	3.8	1/3	内外磨耗
19 検出面 (36図)							19 S D 8 (37図)								
258	土師	小型丸底		丸		ママ	外ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ	280	土師	高坏				ママ	外ヘラミガキ 内ナデ・成形痕
259	〃	高坏				〃	外ヘラミガキ	19 検出面 (37図)							
260	〃	〃				〃	〃	281	土師	高坏				ママ	外磨耗・内ナデ・成形痕
261	〃	〃				〃	〃	5 検出面 (37図)							
2 S B 1 (37図)							282	土師	鉢	12.5	4.2	12.5	1/3	内外ヘラナデ・ナデ	
262	土師	高坏	24.4			2/5	内外ヘラミガキ	283	〃	甕		9.2			内外ハケナデ・ヘラナデ
263	〃	〃		13.8		1/2	外ヘラミガキ 内ナデ・成形痕	284	〃	〃		8.6			〃
264	〃	蓋	12.3		7.0	2/5	内外ヘラナデ・ナデ	285	〃	〃		9.0			〃

奈良時代土器観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	
			口径	底径	器高						口径	底径	器高			
5 S B 1 (38図)							18 S D 1 (38図)									
286	須恵	坏	13.2	7.6	3.2	1/3	底：ヘラケズリ, ロクロ		289	須恵	蓋	13.3		3.1	1/3	ロクロ
287	土師	ク		6.0		1/6	ク：回転ヘラケズリ, ロクロ		290	ク	坏		7.2		ク	底：ヘラケズリ, ロクロ
288	ク	甕		6.0		1/3	内外磨耗		29 S D 4 (38図)							
									291	須恵	坏		丸	ママ	底：回転ヘラケズリ, ロクロ	

石・土・ガラス製品観察表 (39図)

番号	種別	器種	遺構	法量等 (cm)	特記事項	番号	種別	器種	遺構	法量等 (cm)	特記事項
292	石	石鏃	2 検	長4.0・幅1.5, 5 g	安山岩・両面研磨	302	土	円板	5 小穴32	径4.6	土器甕・波状文・円孔
293	ク	ク	5 S D 1	長2.9・幅1.2, 2 g	硬砂岩・有茎	303	土		29 S D 2	径5.0	3 刺突孔・裏円孔
294	ク	ク	5 S B 1	長3.3・幅1.5, 2 g	安山岩・有茎	304	石	石包丁	29 S D 3	幅3.9	粘板岩・背打痕
295	ク	ク	19 S D 8	長2.5・幅1.4, 2 g	チャート・無茎	305	ク	石斧	19 検	長7.2・幅3.6	頁岩・刃部磨耗
296	ク	管玉	ク	長2.1・径0.2	鉄石英	306	ク	ク	5 検	残存長11.8	蛇紋岩・先端磨耗
297	ガラス	小玉	19 検	長0.5・径0.5	ライトブルー	307	ク	凹石	29 S D 2	長6.0~8.8	安山岩
298	土	管玉	29 S D 2	長2.2・径1.1		308	ク	ク	18 検	径13.2	ク
299	ク	円板	18 S B 1	径3.6, 17 g	土器甕・円孔	309	ク	叩打器	18 S D 13	長20.0・幅6.0	硬砂岩・両端打痕
300	ク	ク	18 検	径3.3, 9 g	ク	310	ク	砥石	29 S K 2	長20.4	凝灰岩・4 面使用
301	ク	ク	18 S D 2	径4.9	ク・円孔						



Ⅲ-17 2区 (西より)



Ⅲ-18 5区 (南より)



Ⅲ-19 7区 (南より)



Ⅲ-20 8区 (西より)



Ⅲ-21 8区 (東より)



Ⅲ-22 12区 (東より)

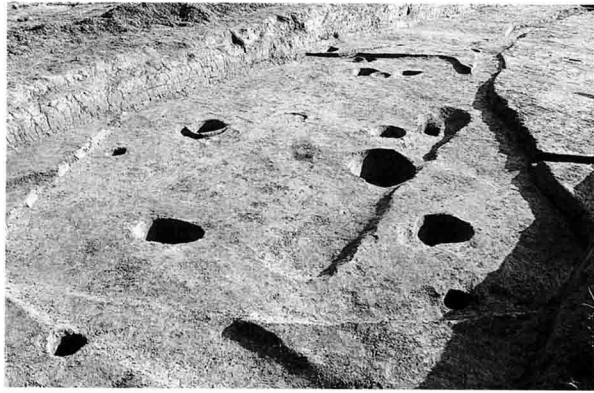


Ⅲ-23 18区 (北より)

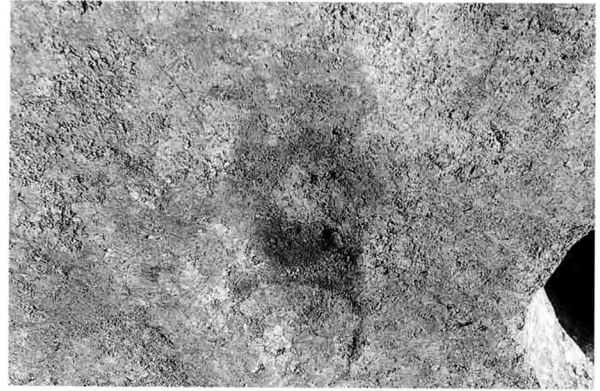


Ⅲ-24 5SB1 (南より)

PL4 槌爪遺跡調査区・住居址



Ⅲ-25 5SB1 (北より)



Ⅲ-26 5SB1 炉



Ⅲ-27 5SB2



Ⅲ-28 29SB1



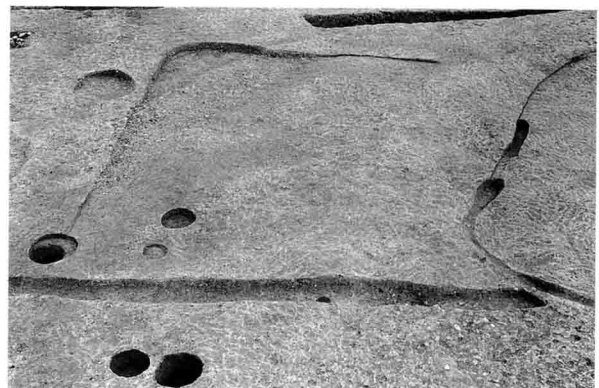
Ⅲ-29 18SB1



Ⅲ-30 18SB2

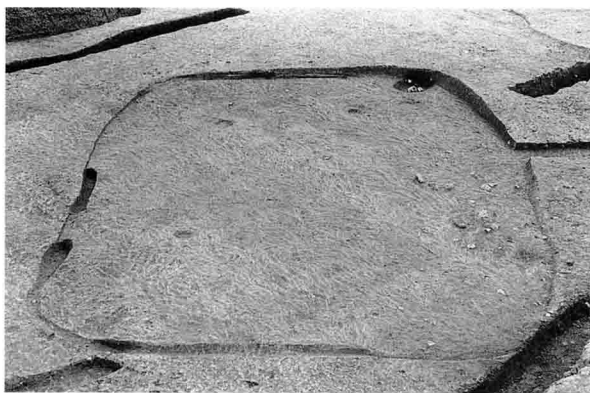


Ⅲ-31 19SB1



Ⅲ-32 19SB2

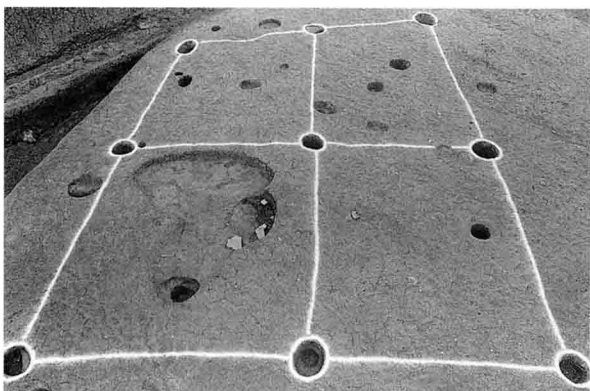
PL 5 樋爪遺跡住居址



Ⅲ-33 19S B 3



Ⅲ-34 19S B 3 土坑



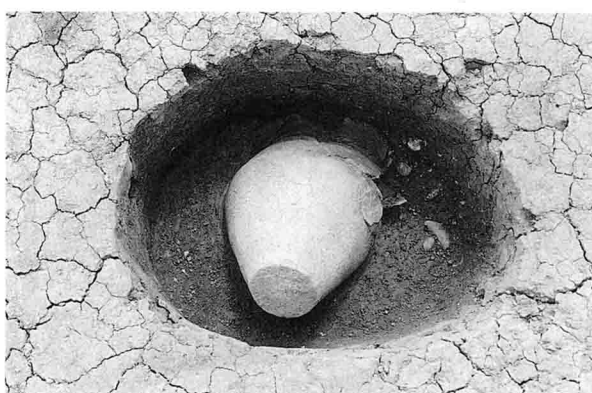
Ⅲ-35 19S T 1



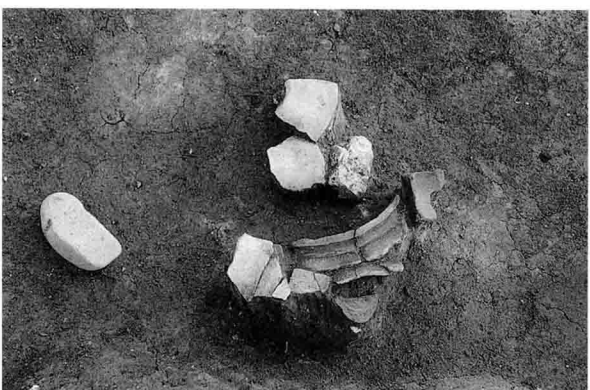
Ⅲ-36 5S K 4



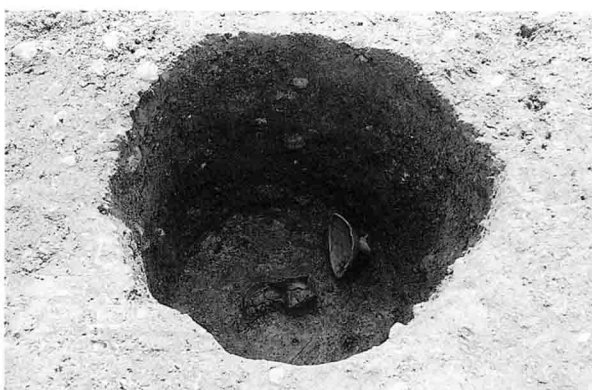
Ⅲ-37 29S K 2



Ⅲ-38 18小穴 1

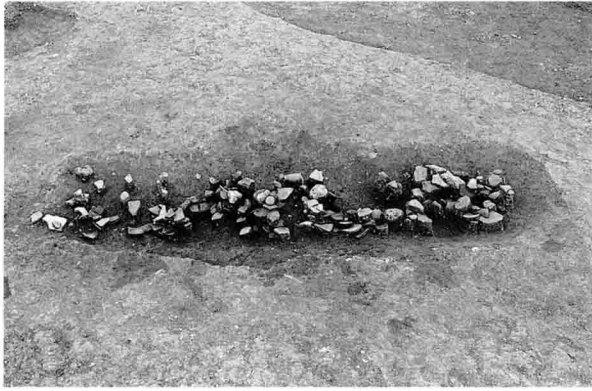


Ⅲ-39 19S K 1



Ⅲ-40 19S K 3

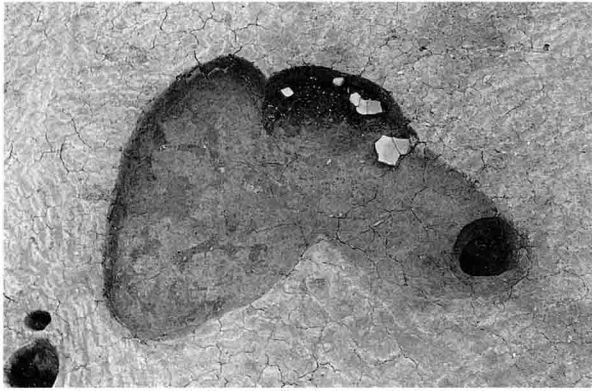
P L 6 槌爪遺跡住居址・掘立柱建物址・土坑・小穴



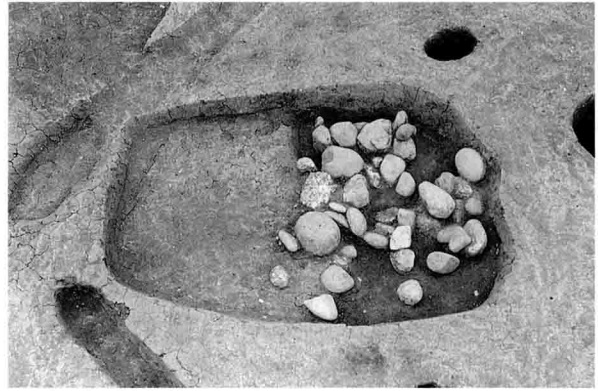
Ⅲ-41 19SK4



Ⅲ-42 19SK4



Ⅲ-43 19SK7



Ⅲ-44 19SJ1



Ⅲ-45 29SD2~4



Ⅲ-46 S9SD2~4



Ⅲ-47 18SD13

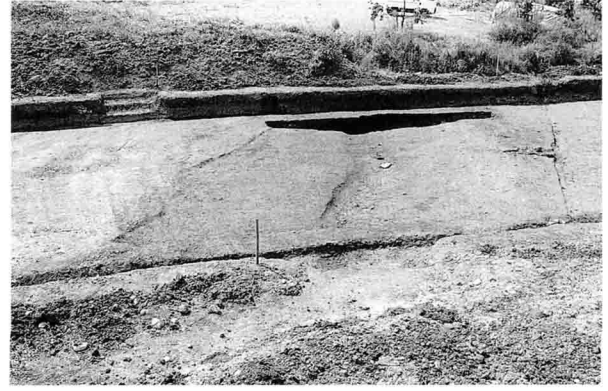


Ⅲ-48 18SD15

PL 7 樋爪遺跡土坑・溝址



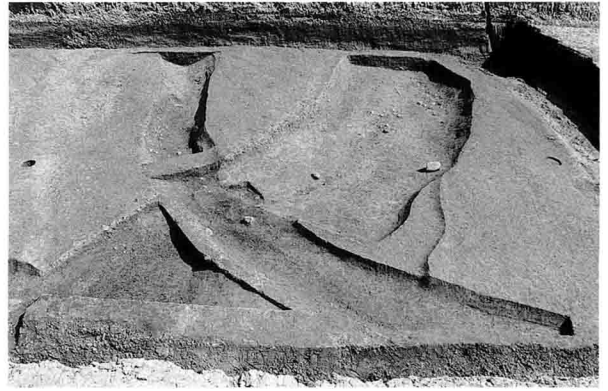
Ⅲ-49 19SD 5



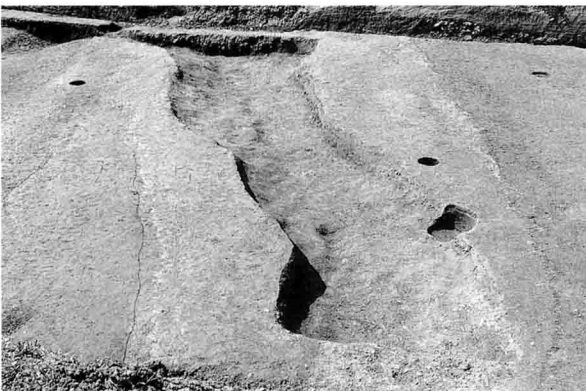
Ⅲ-50 19SD 1 (1次)



Ⅲ-51 19SD 1 (2次)



Ⅲ-52 19-2SD 1・2



Ⅲ-53 19-2SD 3



Ⅲ-54 19-2SD 8・10



Ⅲ-55 19-2SD 5~7



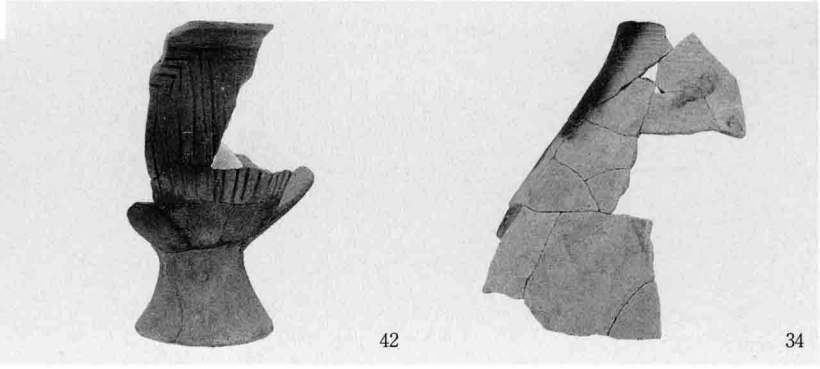
Ⅲ-56 19-2SD 10

PL 8 樋爪遺跡溝址

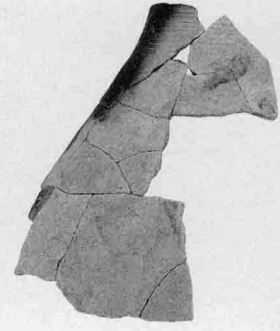
18S B 1



39



42

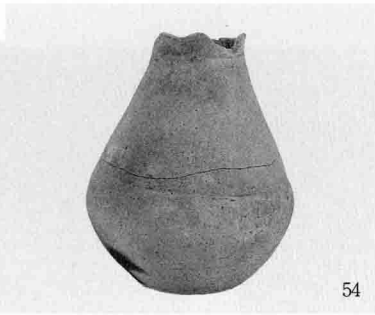


34

19S B 3

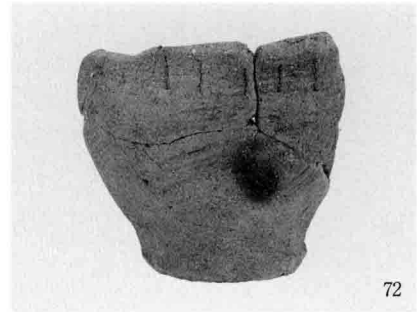


55



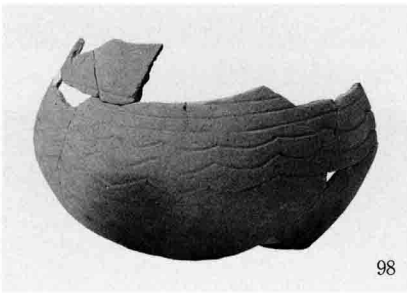
54

19S D 5



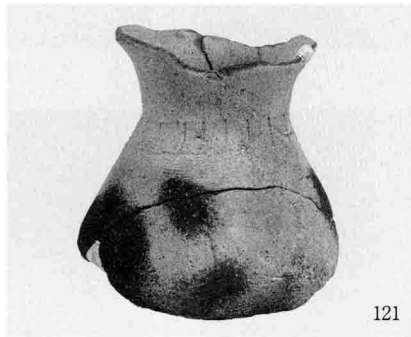
72

18検出面



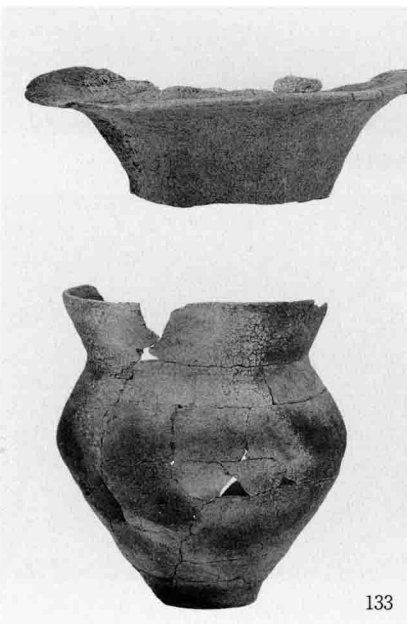
98

19検出面

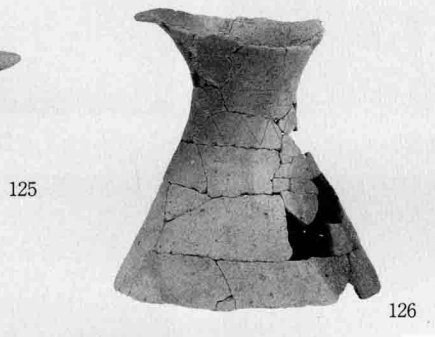


121

5 検出面



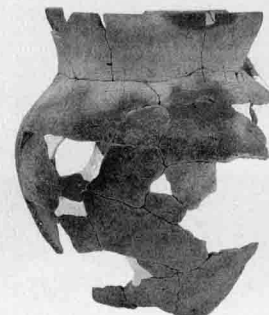
133



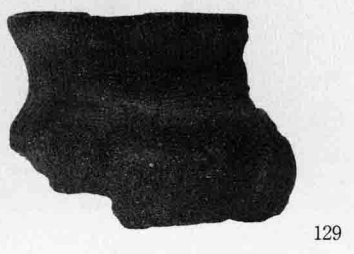
125



126



134



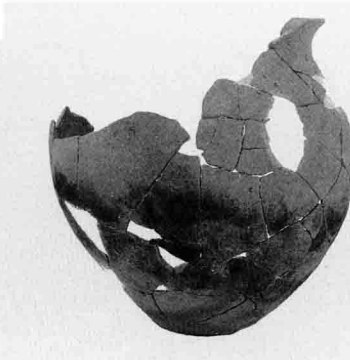
129

PL 9

29S B 1



141



138



139

19S B 1



148



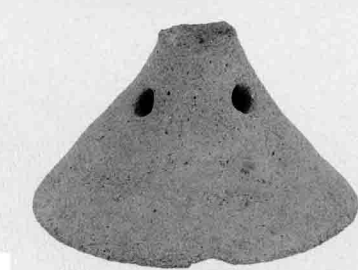
145



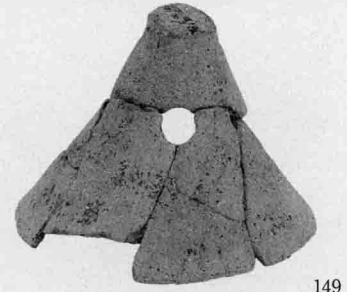
147



146



150



149



151

5 S K 4



156

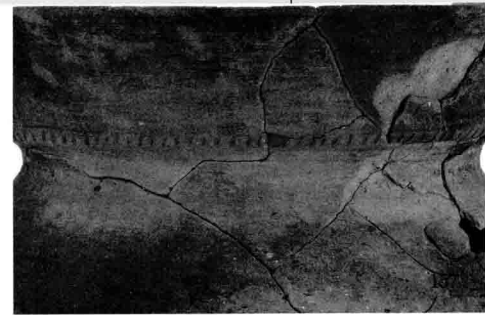


157

29S K 3

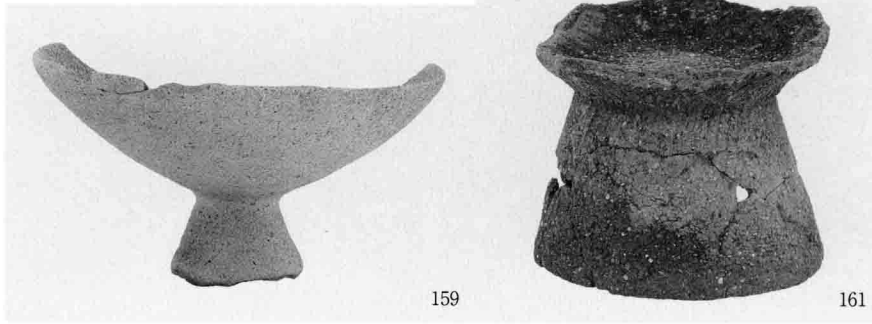


155

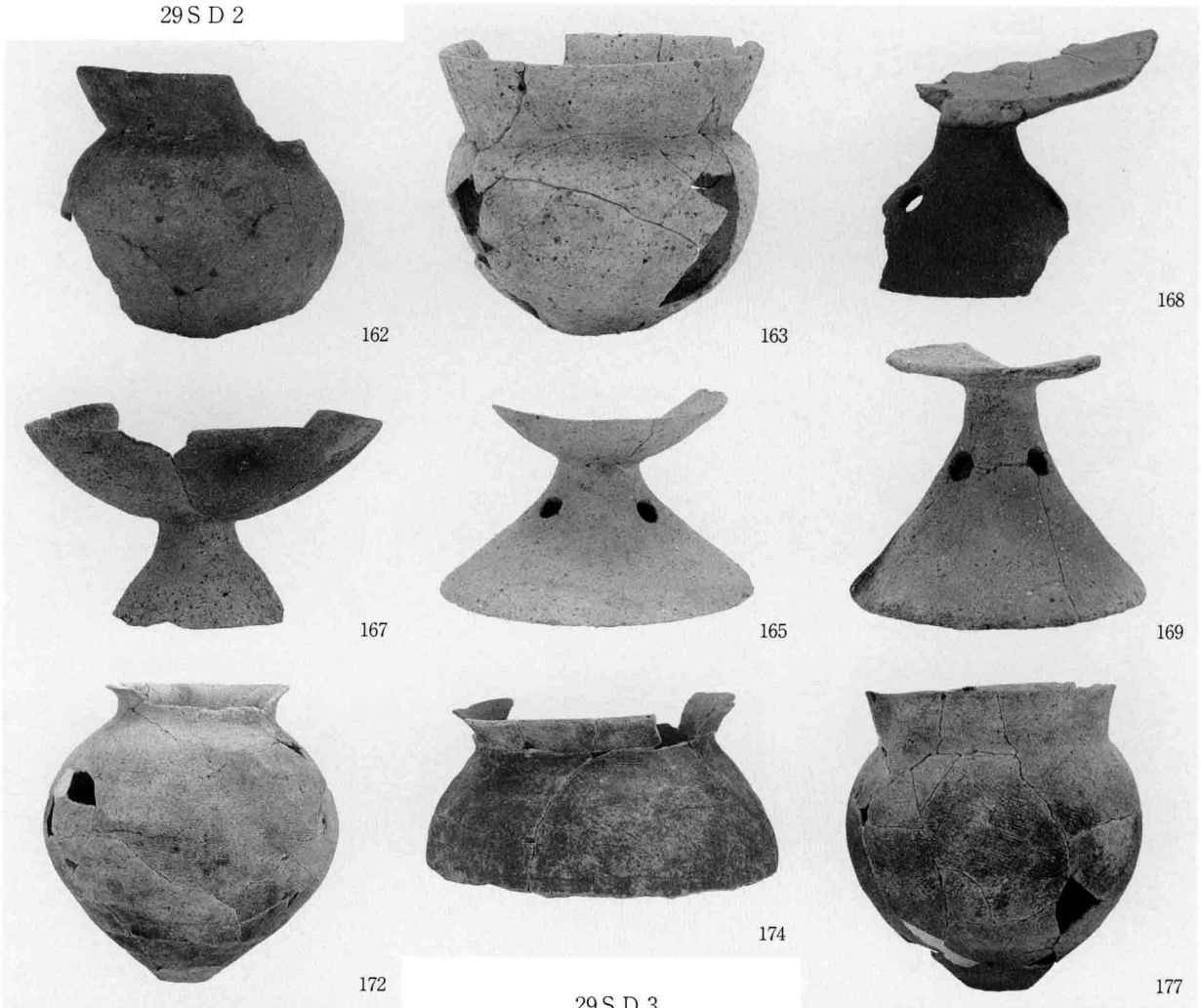


P L 10

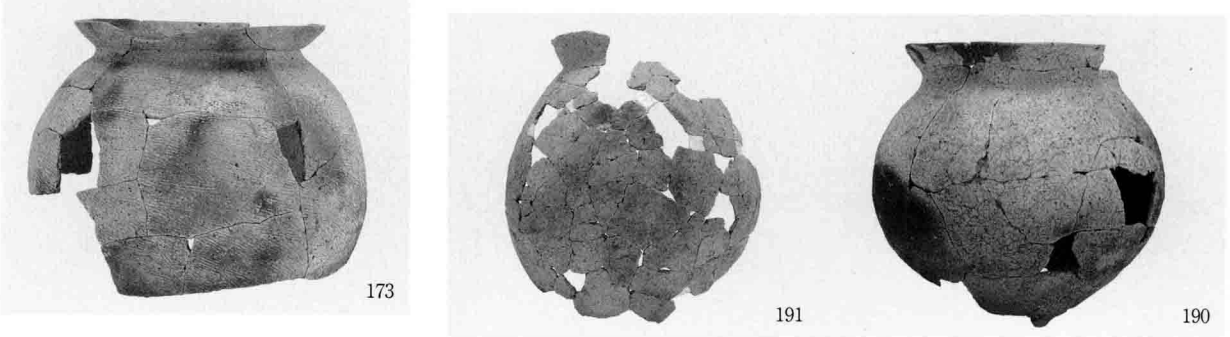
19S K 3



29S D 2

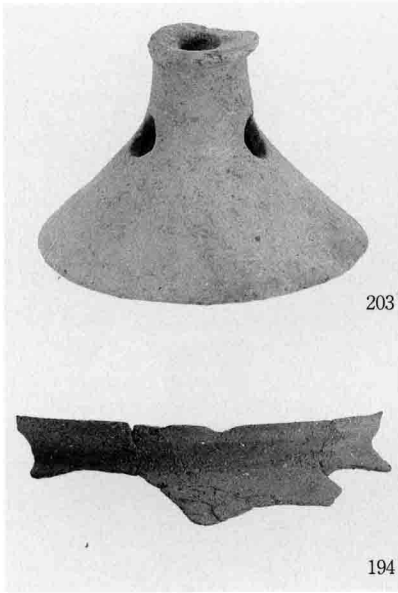


29S D 3



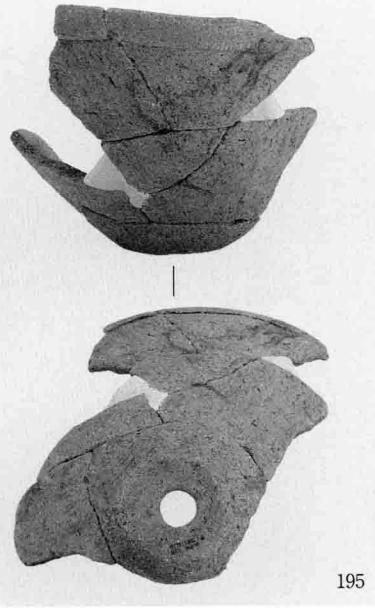
P L 11

19S D 1



203

194



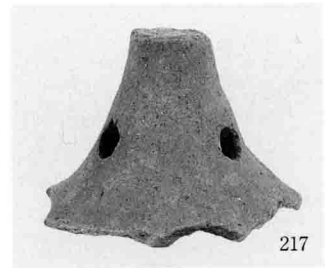
195

5 S B 2



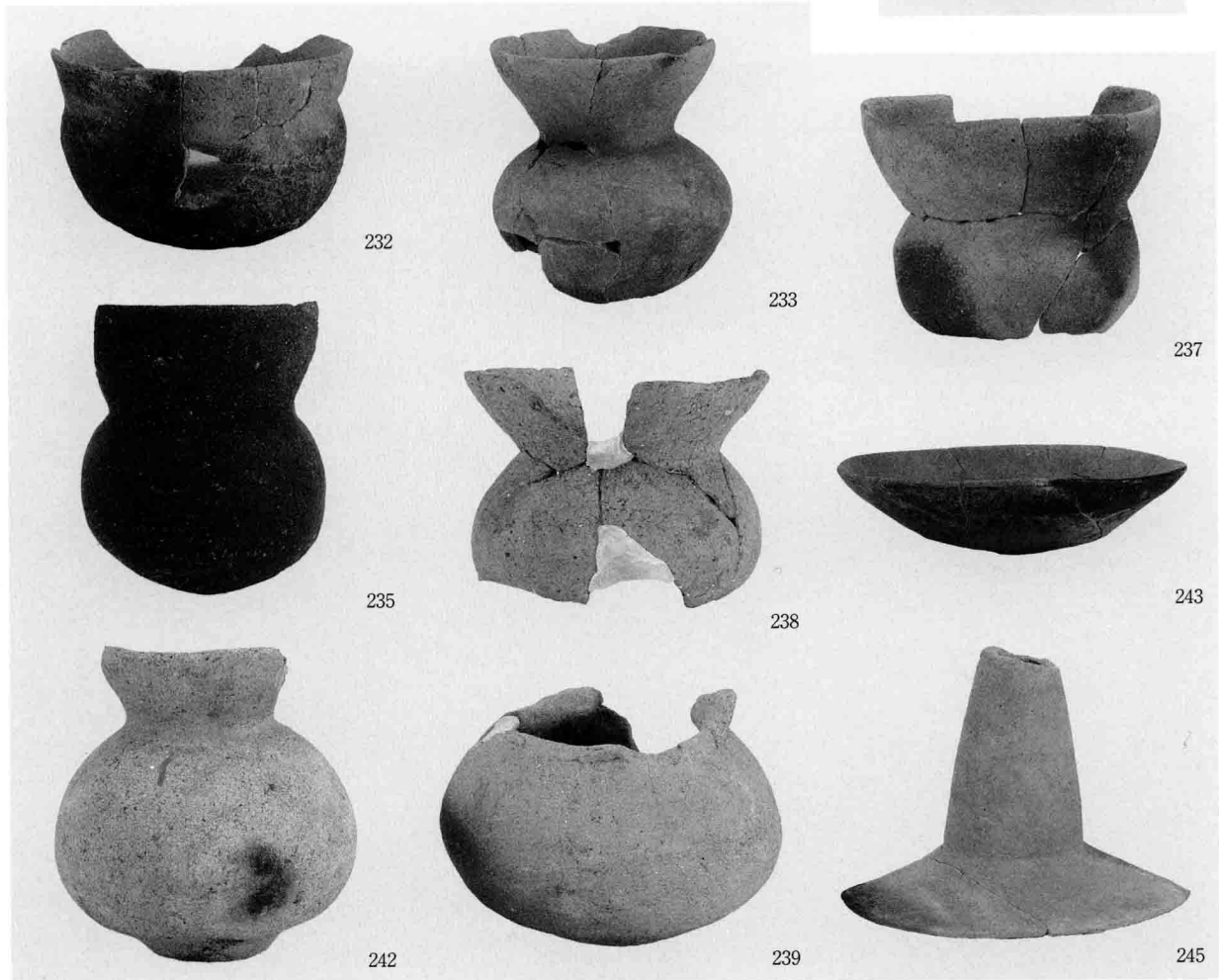
21

5 検出面



217

19S D 1 (1)



232

233

235

238

237

243

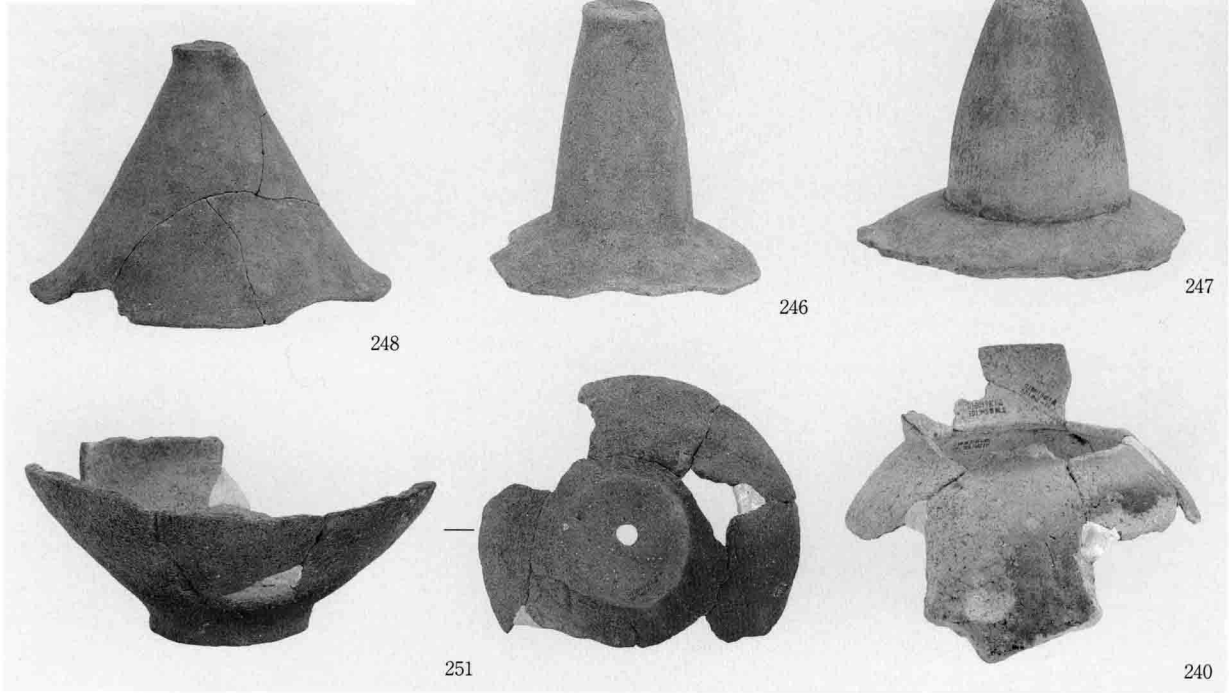
242

239

245

P L 12

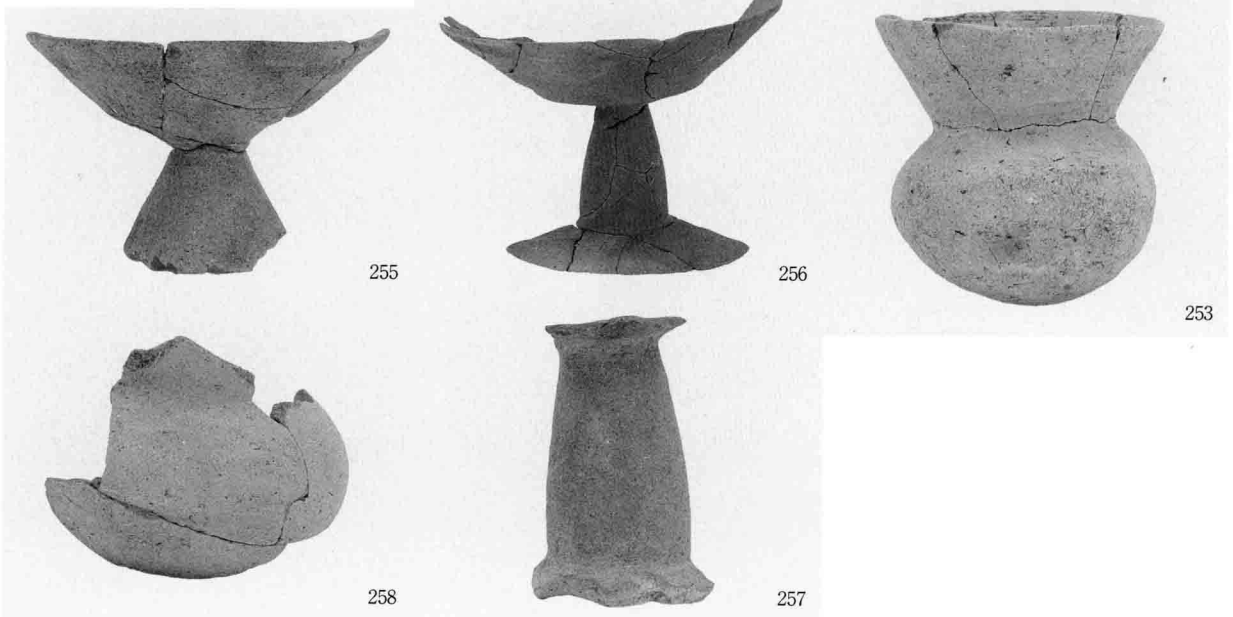
19SD 1(2)



2SB 1

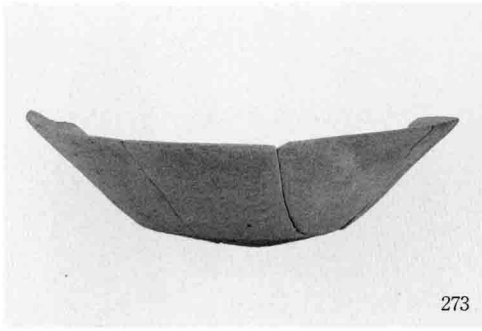


2検出面



P L 13

19 S K 4



273



271

5 検出面



282

2 検出面



292

5 S D 1

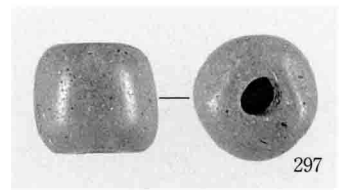


293

19 S D 8

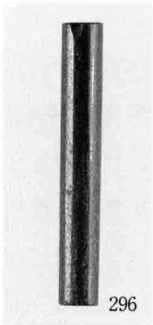


295



297

19 S D 8



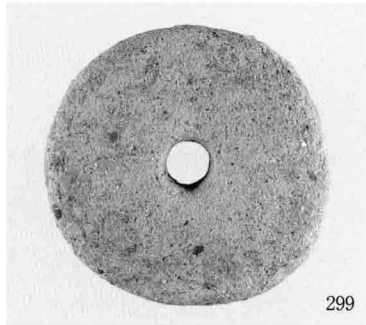
296

29 S D 2



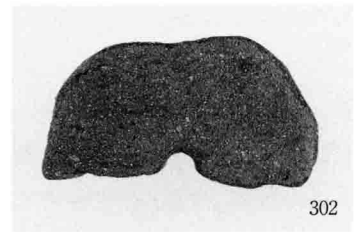
298

18 S B 1



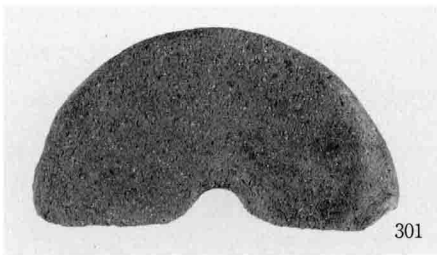
299

5 小穴22



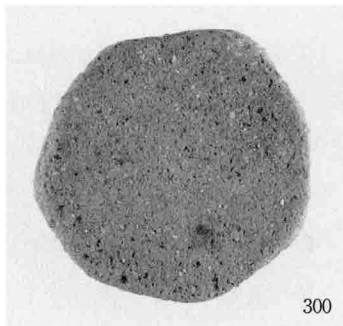
302

18 S D 2



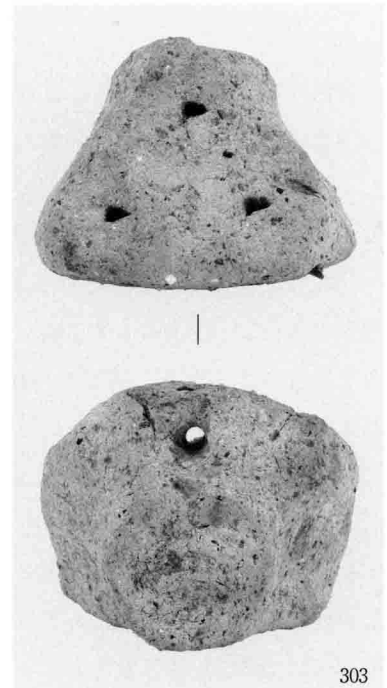
301

18 検出面



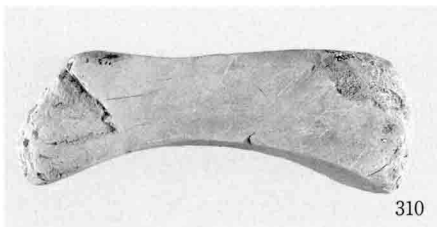
300

29 S D 2



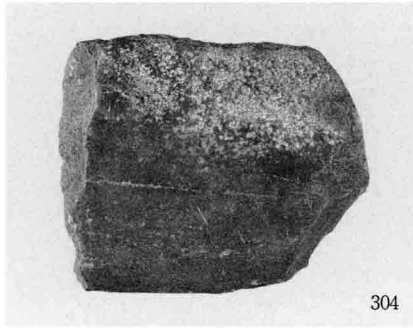
303

29 S K 2



310

29 S D 3



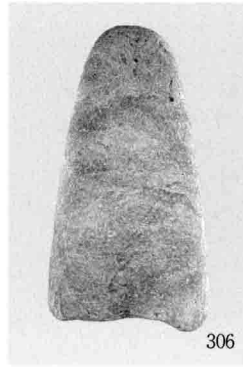
304

19検出面



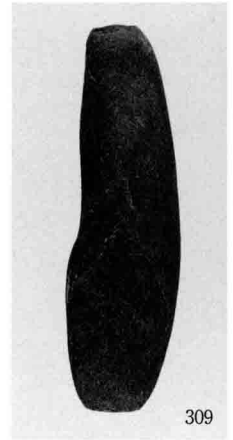
305

5 検出面



306

18 S D 13



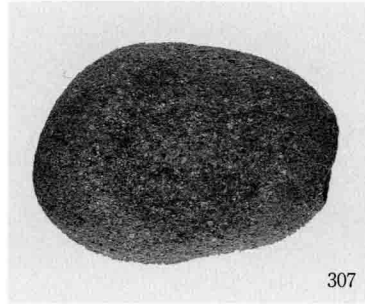
309

18検出面



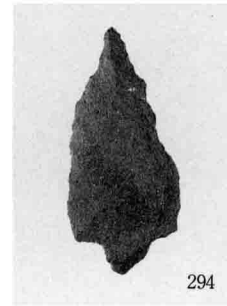
308

29 S D 2



307

5 S B 1



294

P L 15

4 権現堂遺跡の遺構と遺物

稲田南土地区画整理事業地の東側に展開する遺跡で、調査区は1・3・6・9～11・14・16・20・24～28・30～34区である(40～45図)。

北は稲田徳間土地区画整理事業地の二ツ宮遺跡と接続する。住居址は北側の24・33・34区と浅川寄りの6・14区に二分され、中間の15・31・32区には無遺構空間が存在する(40図)。厳密には遺跡を二つに分離しなければならないが、土地区画事業地内ということと混乱を避けるため同一呼称名遺跡で扱う。ちなみに北の住居址は古墳時代中期を主体とする二ツ宮遺跡の範疇に入るものと思われる。他の調査地は溝址や小穴群等が検出されているものの遺構の性格・時期比定が判明するものは少ない。弥生時代中期の遺物は3区のみに限定され、後期では3・6・11区から出土している。住居址からは6SB2の出土品(57図319～326)があるが、主体時期は古墳時代後期の所産である。この遺跡には弥生時代集落の形成がなかったものとみてよいだろう。

古墳時代前期—34SB1(48図)・24SB2(48図)、24SK6・8・9・20(53図)、3SD2・5・8(55図)がある。住居址は隅丸方形を呈するが、床面は軟弱で柱穴・地床炉等の内部施設は確認されない。これらの遺構からは器台・高坏・浅鉢等の小型祭祀土器を主体に出土している。なお、6SB1からも該期の土器片(58図329～335)が出土しているが、当遺構は後期に比定される。土坑は24区に集中して認められ、該期の中心遺構展開地とみてよい。溝址は3区にみられるが、遺構の性格は不明である。後続の中期に属する遺構・遺物がこの遺跡には存在しない。

古墳時代後期—6SB1・2・3(46図)、14SB2(47図)、3SD11(55図)、25SD15(56図)がある。住居址は南西部の隅付近くに集中するようであるが、実態は不明である。検出した遺構の形態は隅丸方形から長方形と不揃いであるが、6SB1や14SB2は該期の典型的形態を示している。一辺が5m台の規模で、隅丸方形を呈す。北壁中央に両袖形のカマドを構築する。6SB1は火床焼土と支脚埋め込み小穴を残し、14SB2では煙道と煙出し穴が残存する。ただし、14SB2では支柱穴がみあたらない。土器における坏・鉢類は黒色処理が施されるものが増え、甕の長胴化が進み古墳時代後期末葉に位置づけられよう。

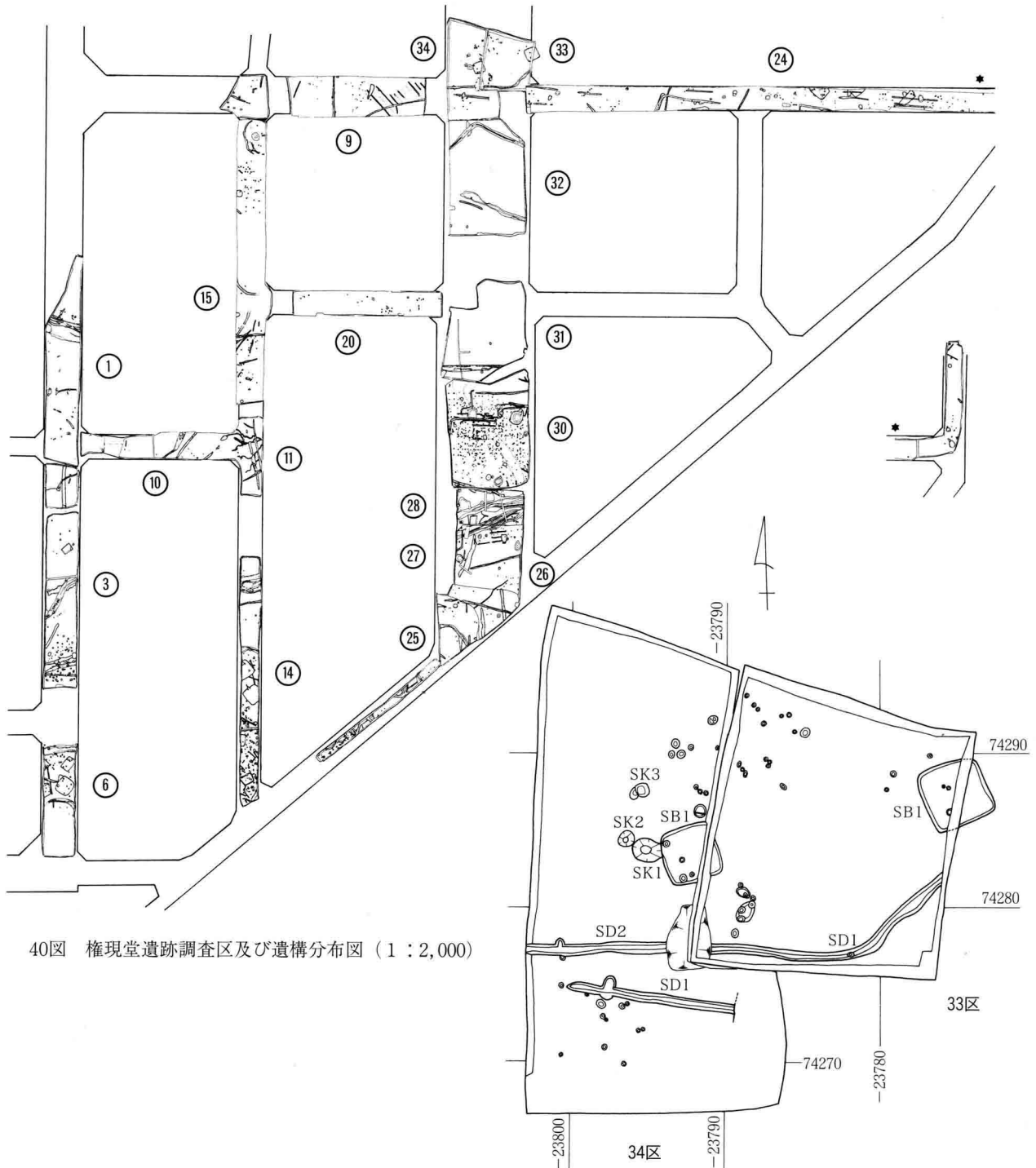
奈良時代—14SB4(47図)、1SD1(55図)がある。住居址は14区南端に位置し、一辺3～4m台の台形を呈する遺構である。北壁を除き各壁下に周溝が巡らされているが、カマドや柱穴等の内部施設は確認されない。遺物では須恵器が目立つようになり、坏底部には糸切り痕はみられない。

平安時代—25SD11(56図)、27SE1(51図)がある。土坑からは灰釉陶器皿・須恵器甕片(65図475・476)が、井戸址からは須恵器甕片(479)が出土しているにすぎない。出土量は少なく混入の可能性はある。

中世—30SE4(49図)、24SK14(53図)、24小穴群、25小穴群、28SD1、28SX1がある。これらの遺構は遺物の出土している遺構で、土器皿(カワラケ)・珠洲焼播鉢・木器椀・青磁碗・白磁碗(64図)等の器種がある。24区を別遺跡として分離すると、28区と30区に集中する。即ち25区から31区にかけての遺構は中世の所産と考えてもよいのではないだろうか。この推測が正しければ、特に30区の小穴群と鍵状に屈折する溝状遺構(50図)は重要な意味を持つてくる。鍵状溝址は居住施設等の境界を意図して掘られ、小穴は居住施設等の柱穴であり、1号・2号堅穴状遺構(54図)は半地下施設と考えられる。小穴の中には柱根を残すものもあり、小穴の多さは頻りに建て替えられたことを意味する(54図)。井戸址の基数の多いのも建物件数と人口の集中を意味しているように思える。27・28区に展開する大溝は排水兼防御用に掘られた可能性を想定する。27SE1(51図)は土坑状遺構で、馬骨が埋納されており、何らかの祭祀行為があったことを窺わせる。なお、石積み井戸址30SE1(50

図)の底面には水溜め・水漉し用の浄水施設としての曲物が据え置かれていた。曲物(PL29)は直径51.5cm・高さ32cm・厚さ0.6cmの規模で、3段の籠^{たが}がかけられる。籠の幅は7cm・最下段5cmを測る。両端の綴りは山桜皮によっている。樹種は檜科アスナロ属である。

権現堂遺跡の内北側は二ツ宮遺跡の範疇にあることは前述したとおりであり、24区のライン付近が遺跡の南限であることが判明した。また、樋爪遺跡同様この遺跡も浅川左岸の各期の小規模集落が展開するようである。本遺跡の最大の特徴は中世の所産と考えられる遺構が展開することにあるが、遺物の出土量があまりにも少なく時期や性格を考察するうえで推定の域を脱しきれない。今後の調査例の増加を待ちたい。



40図 権現堂遺跡調査区及び遺構分布図 (1:2,000)

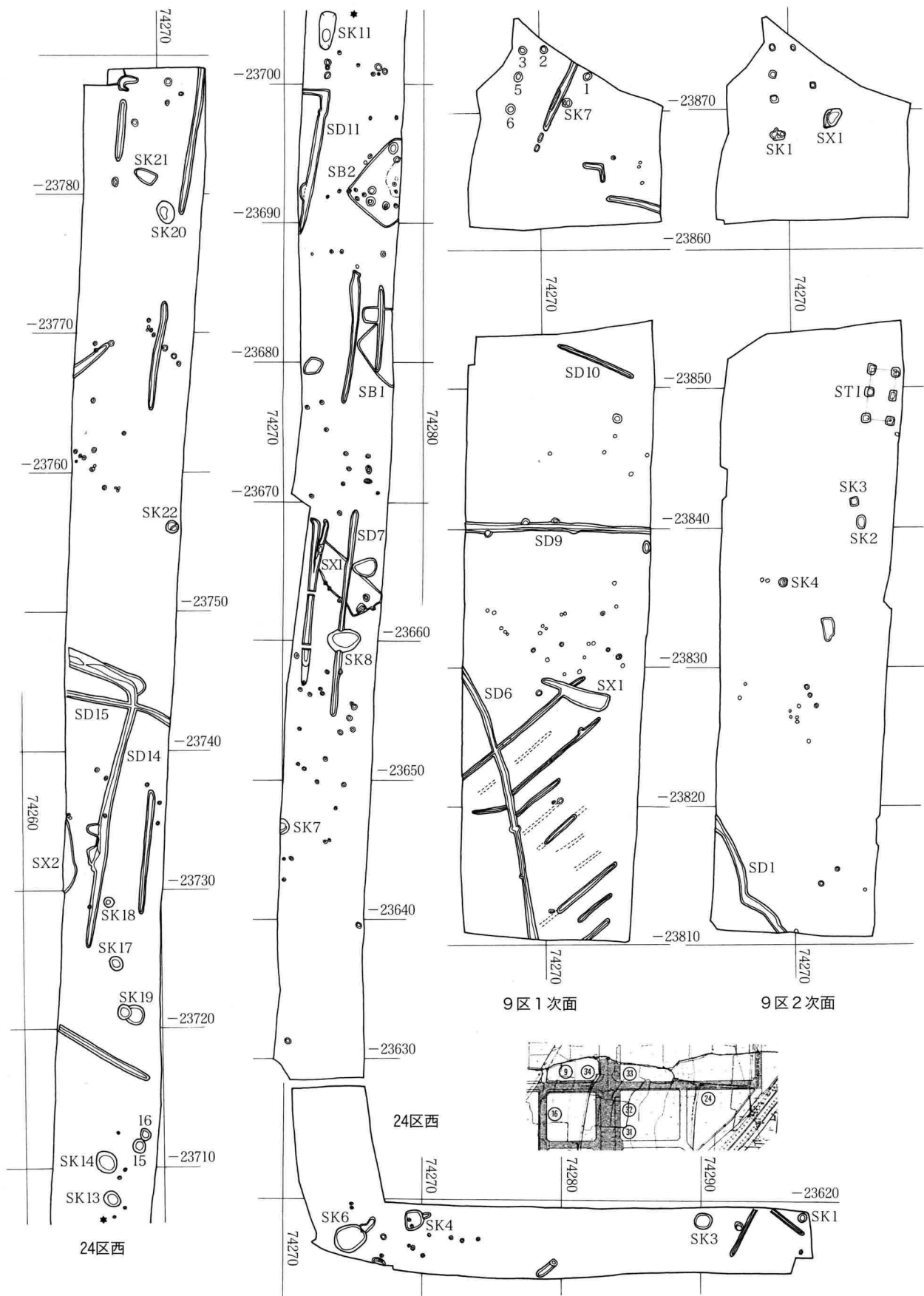
41図 33・34区遺構分布図 (1:400)



42图 3·6·10·11·20区遺構分布図(1:400)



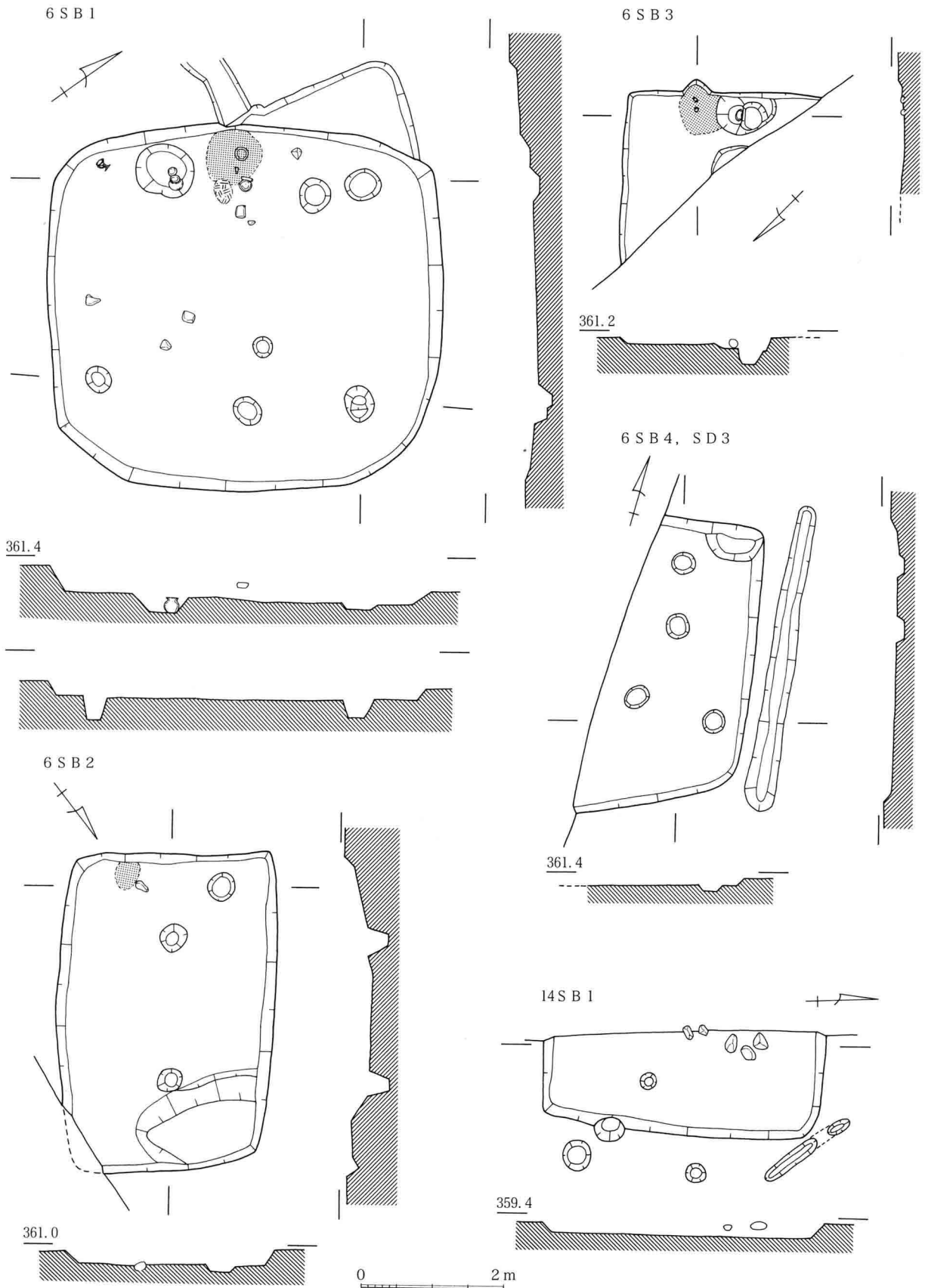
43图 1·14·16·25西区遺構分布図(1:400)



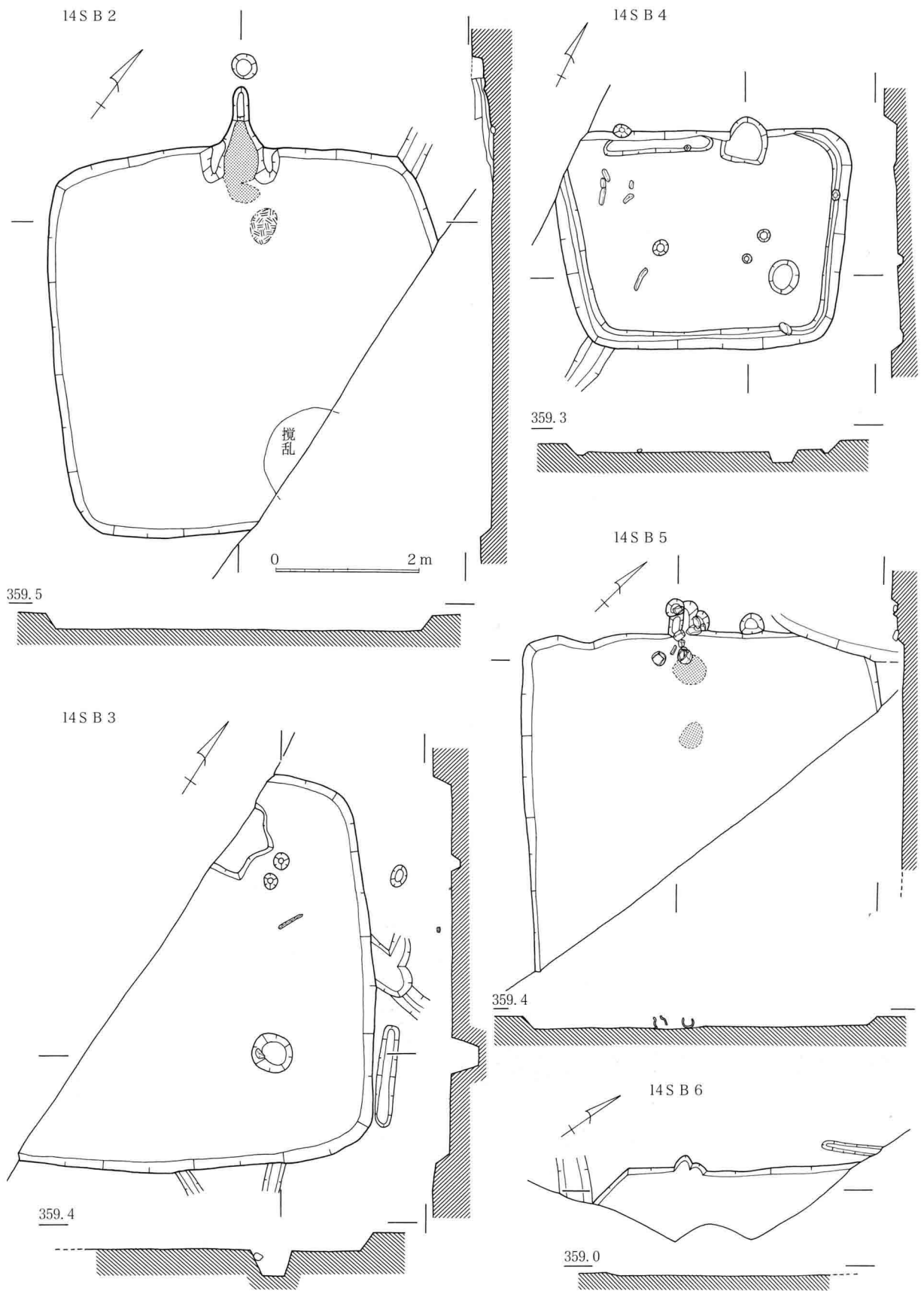
44图 9・24区遺構分布図(1:400)



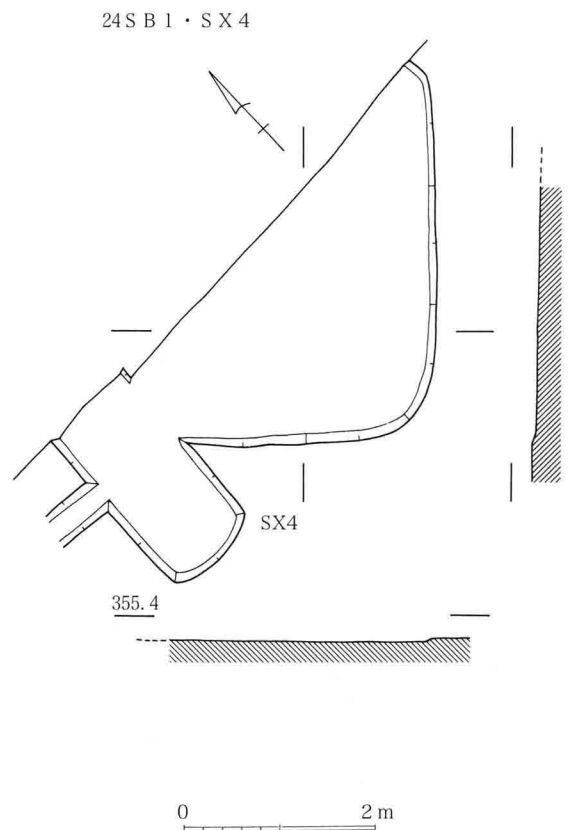
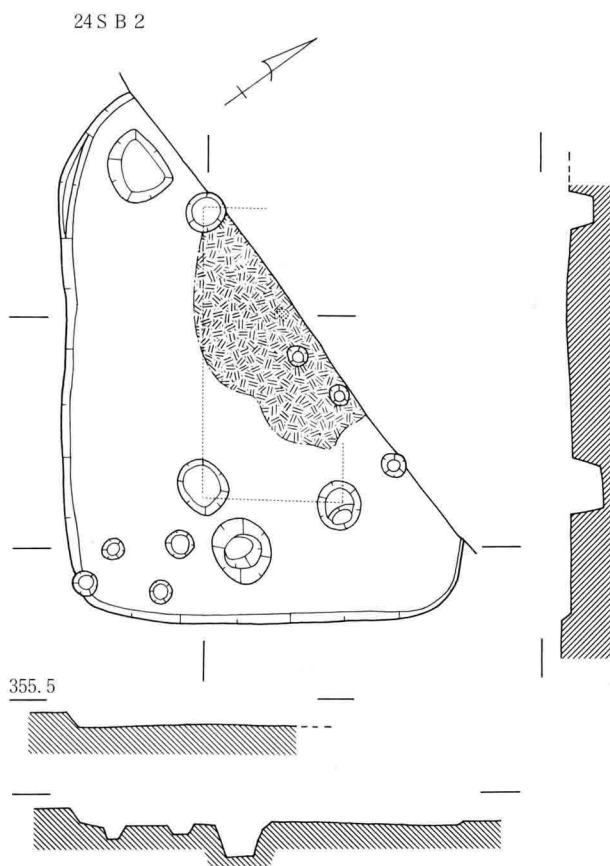
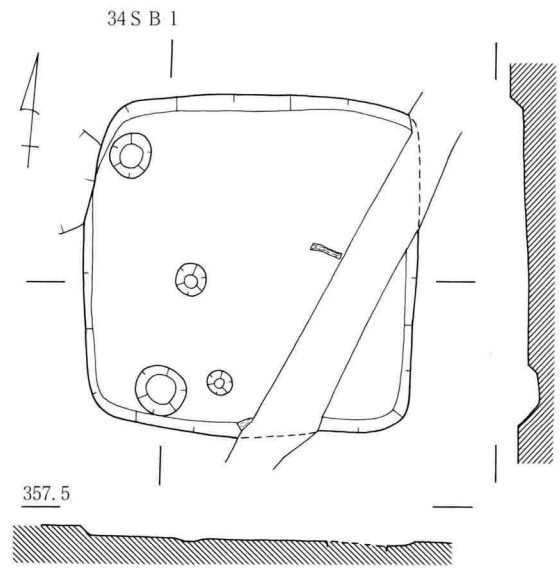
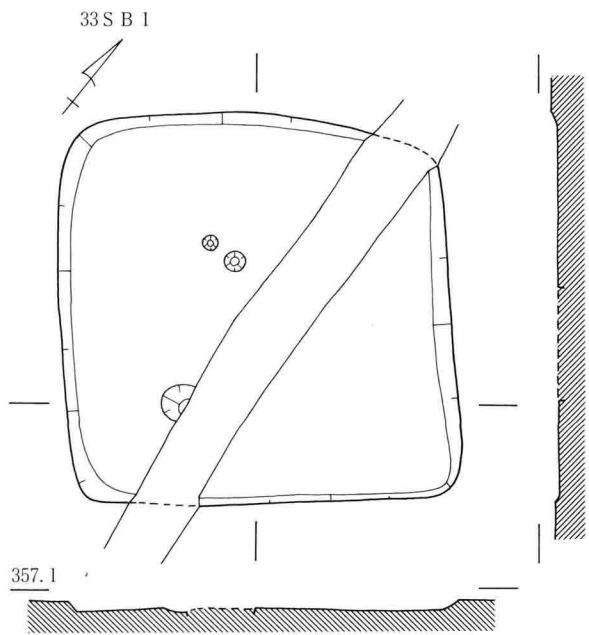
45图 25~28·30~32区遺構分布図 (1:400)



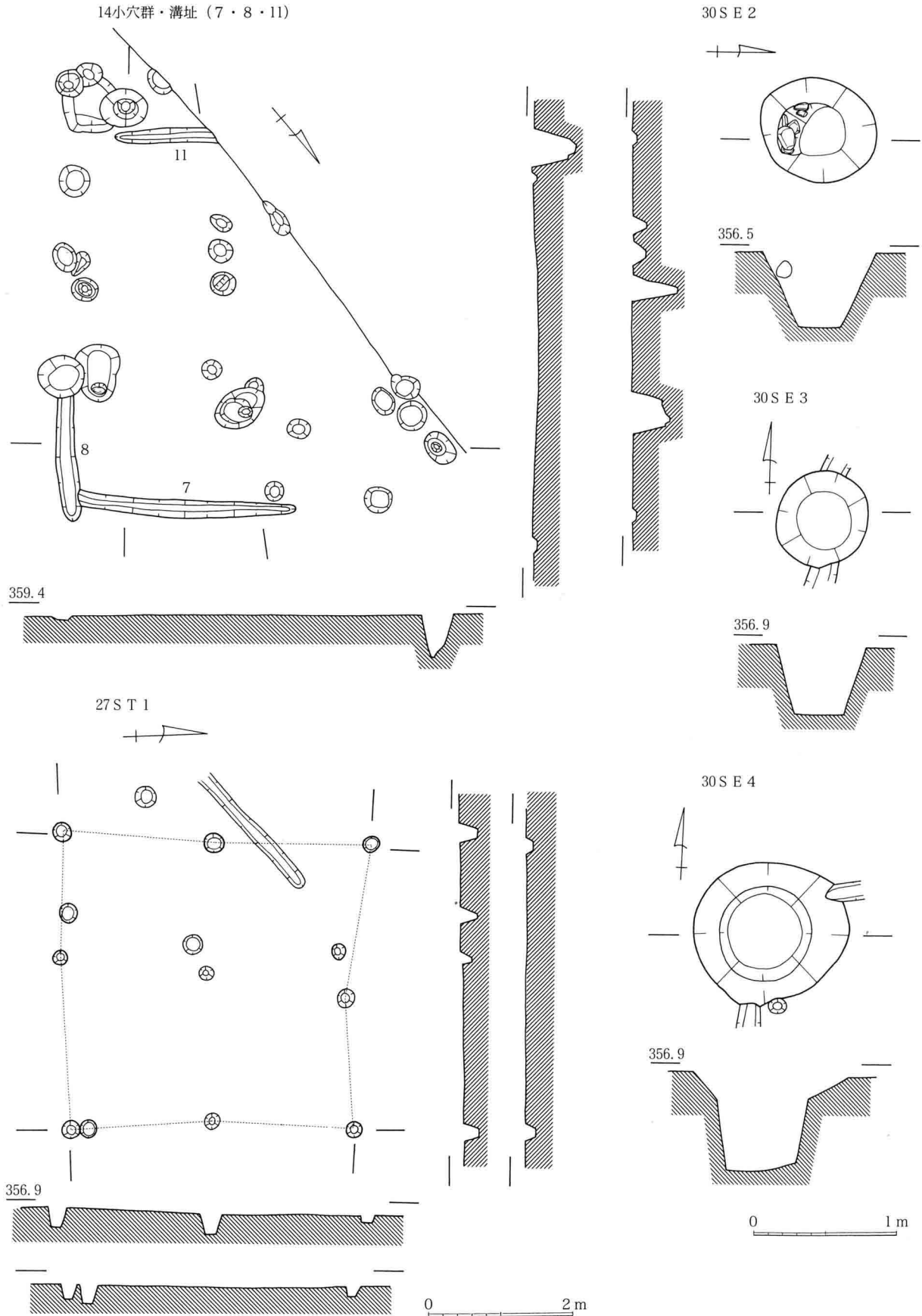
46図 権現堂遺跡住居址実測図 (1:80)



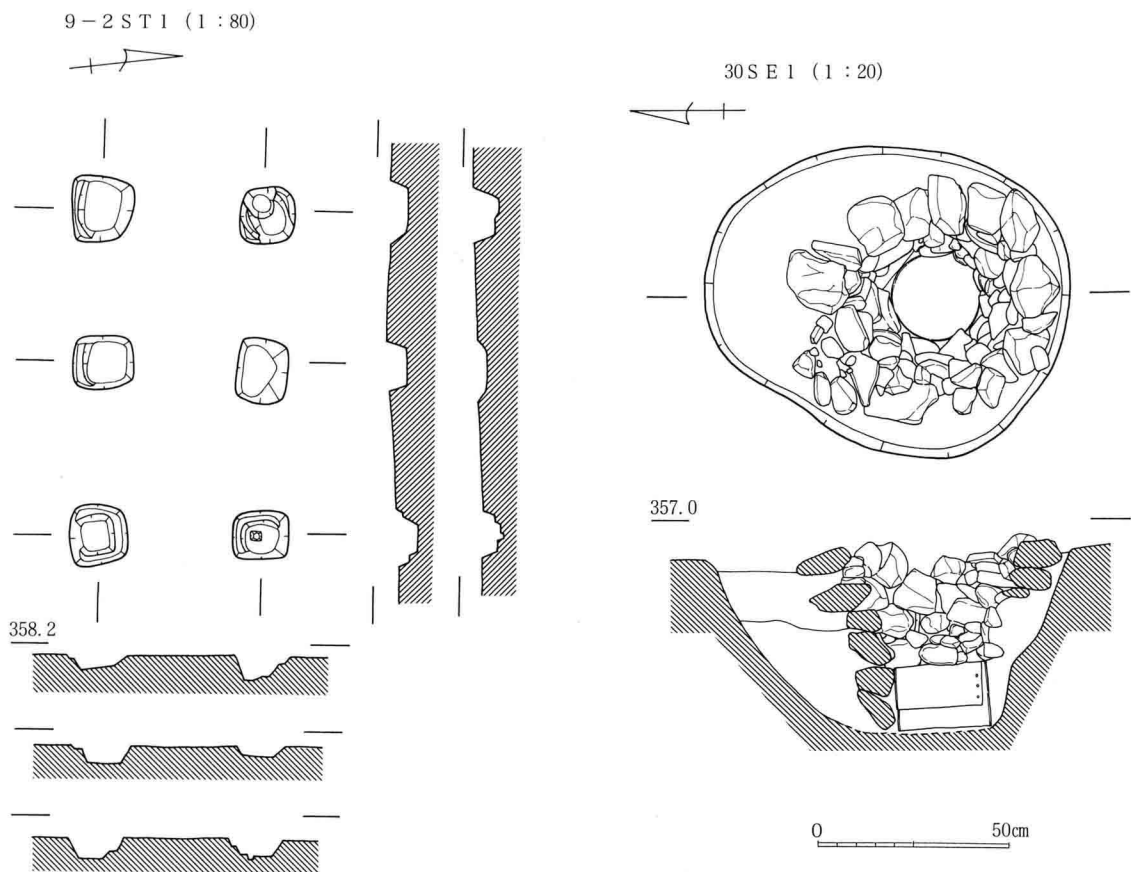
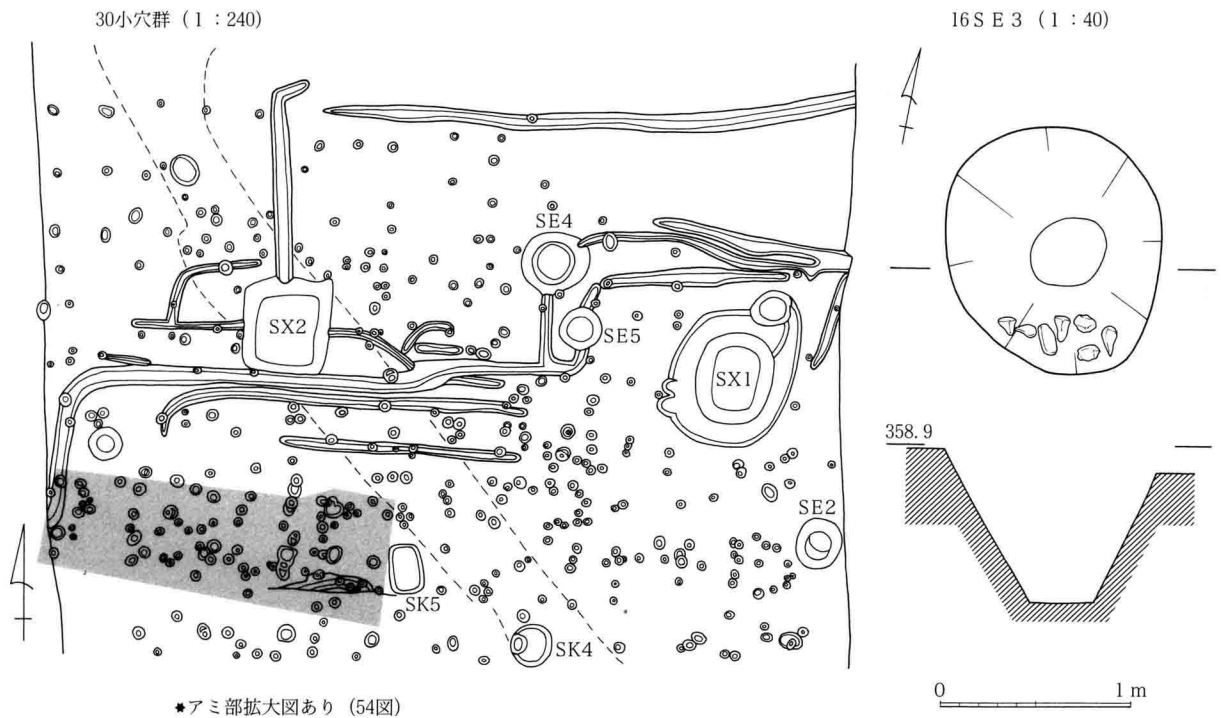
47図 権現堂遺跡住居址実測図 (1:80)



48図 権現堂遺跡住居址実測図 (1 : 80)

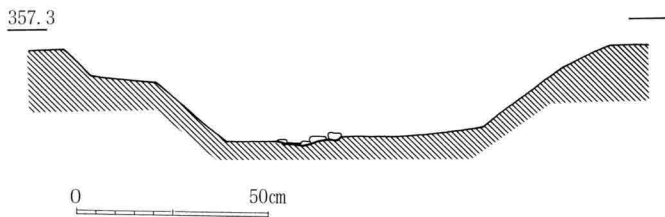
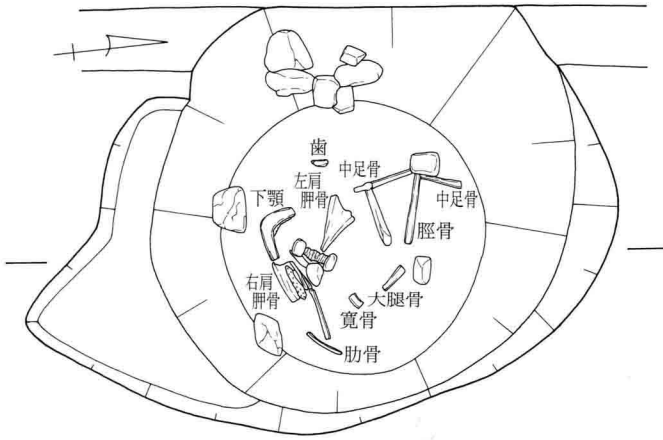


49図 権現堂遺跡小穴群・溝址・掘立柱建物址・井戸址実測図 (1:80、井戸址は1:40)

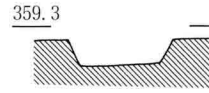
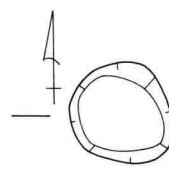


50図 権現堂遺跡小穴群 (1 : 240)・掘立柱建物址 (1 : 80)・井戸址 (16 S E 3は1 : 40、30 S E 1は1 : 20) 実測図

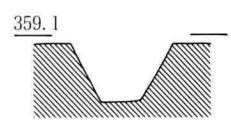
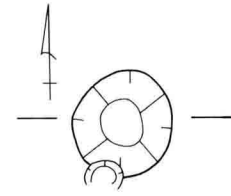
27 S E 1 (1 : 20)



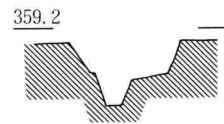
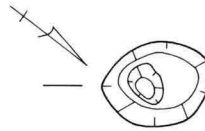
14 S K 14



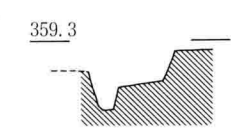
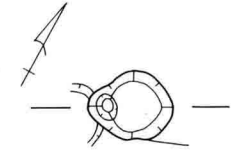
14 S K 16



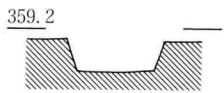
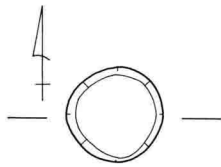
14 S K 19



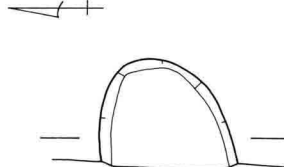
14 S K 24



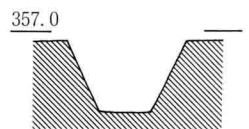
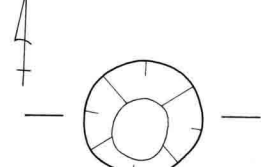
16 S K 1



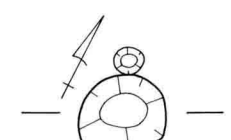
16 S K 3



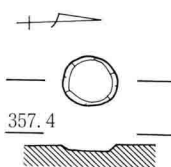
26 S K 1



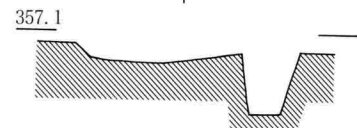
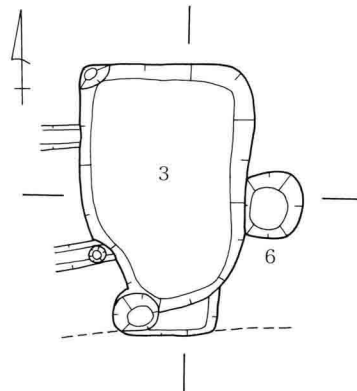
20 S K 3



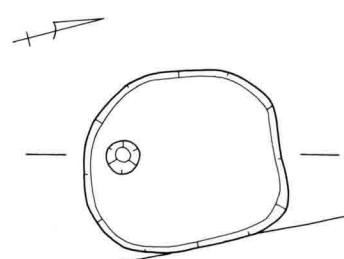
25-1 S K 2



27 S K 3 · 6

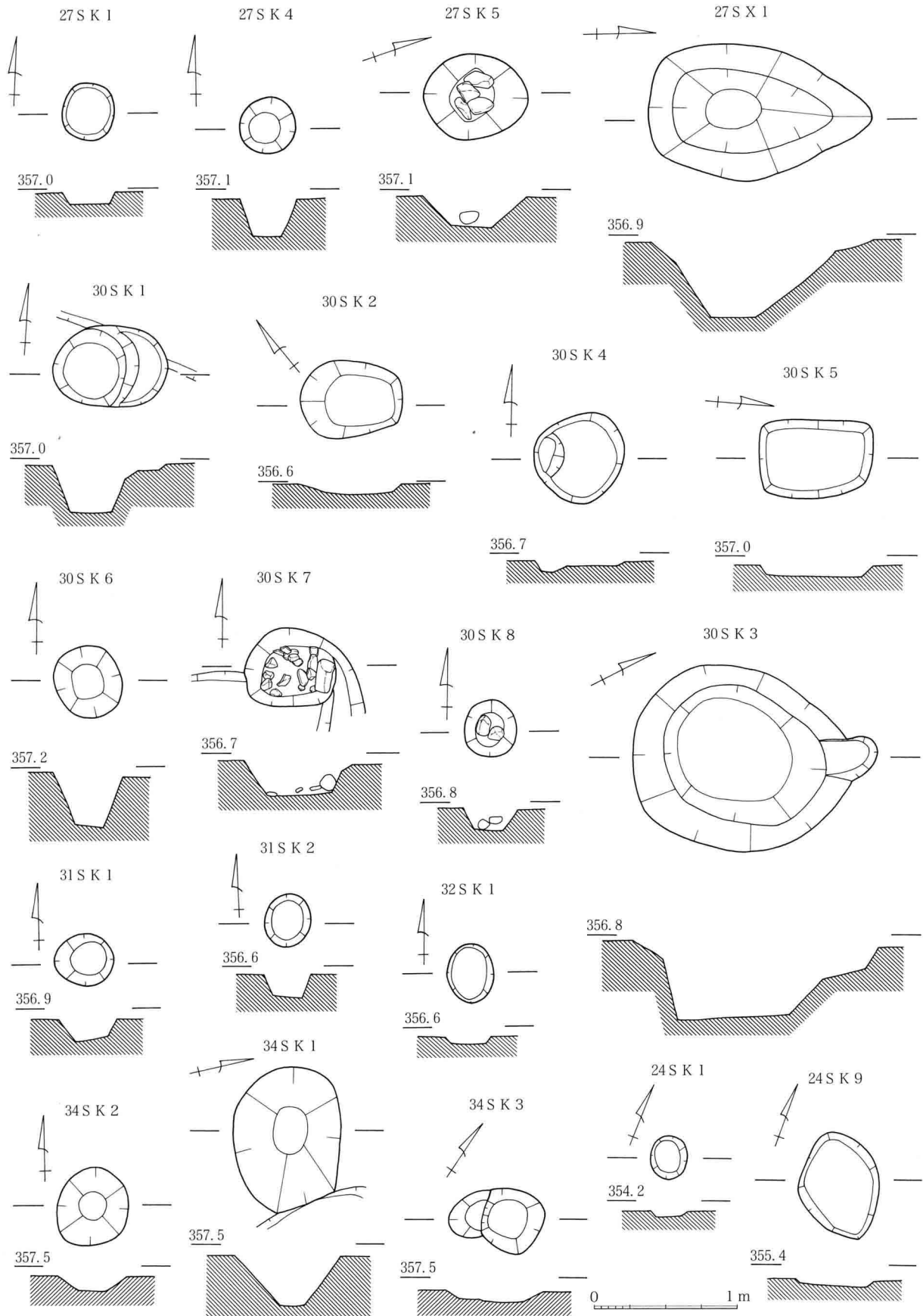


16 S K 4

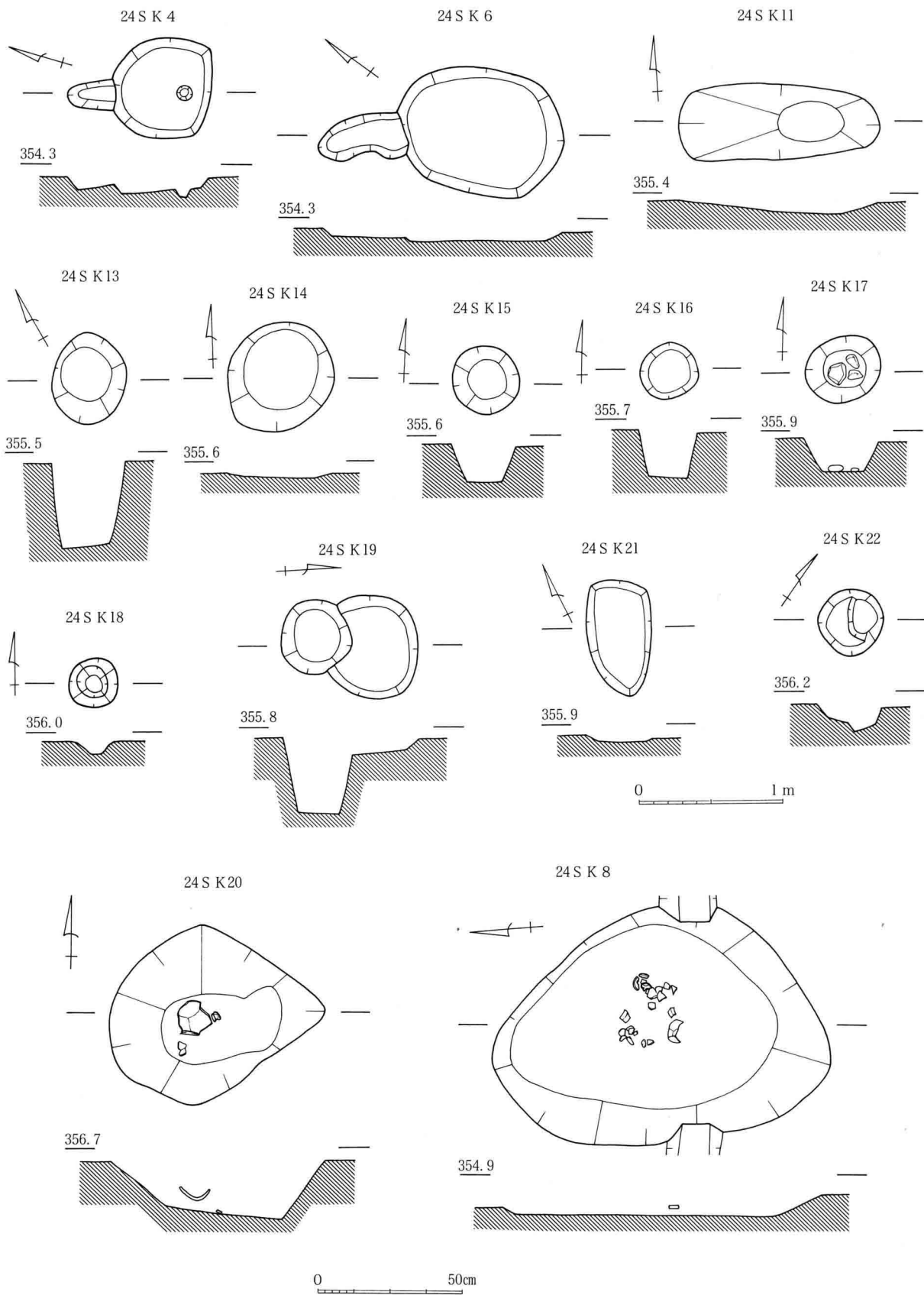


0 1 m

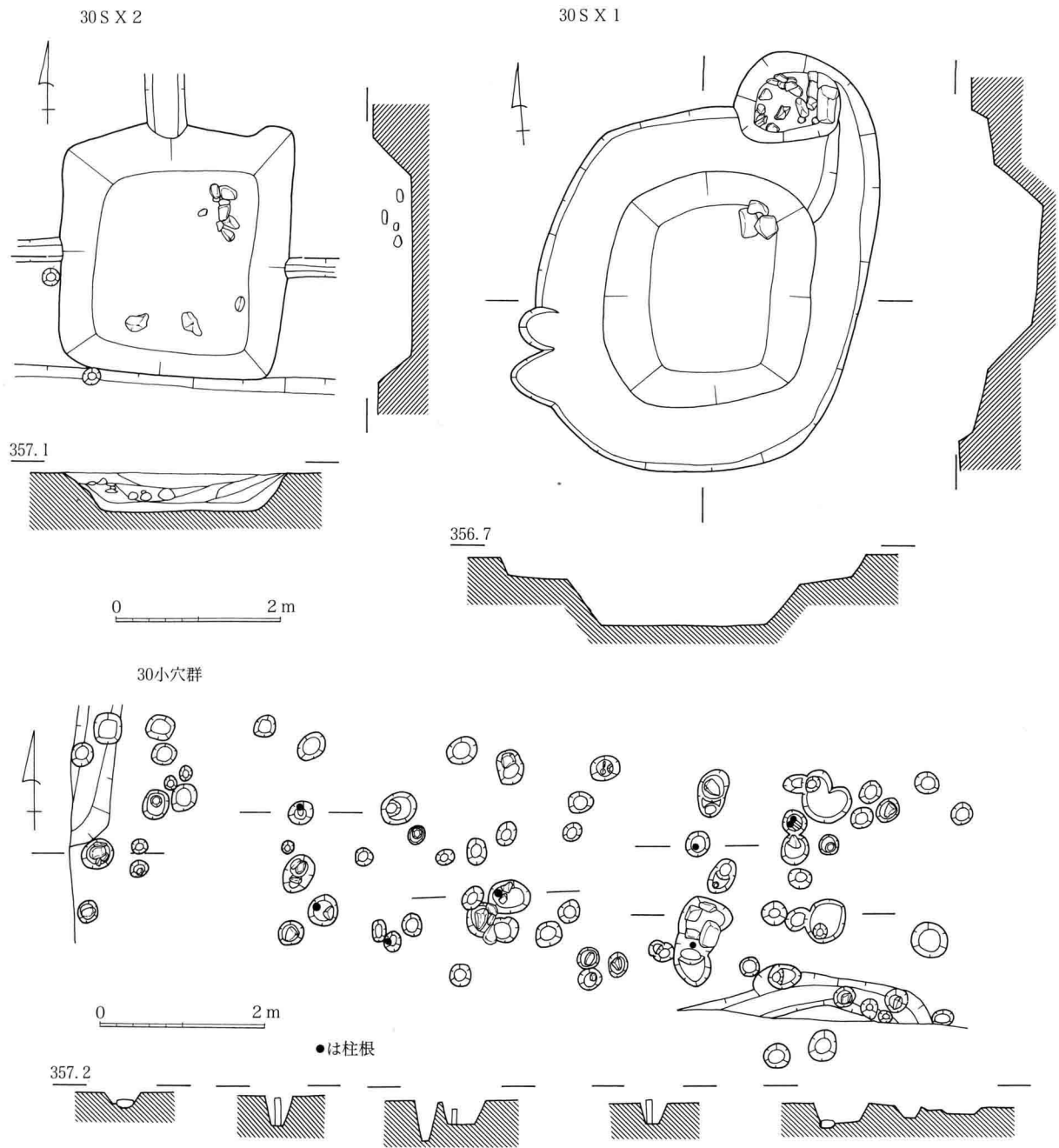
51図 権現堂遺跡土坑実測図 (1 : 40、27 S E 1 は 1 : 20)



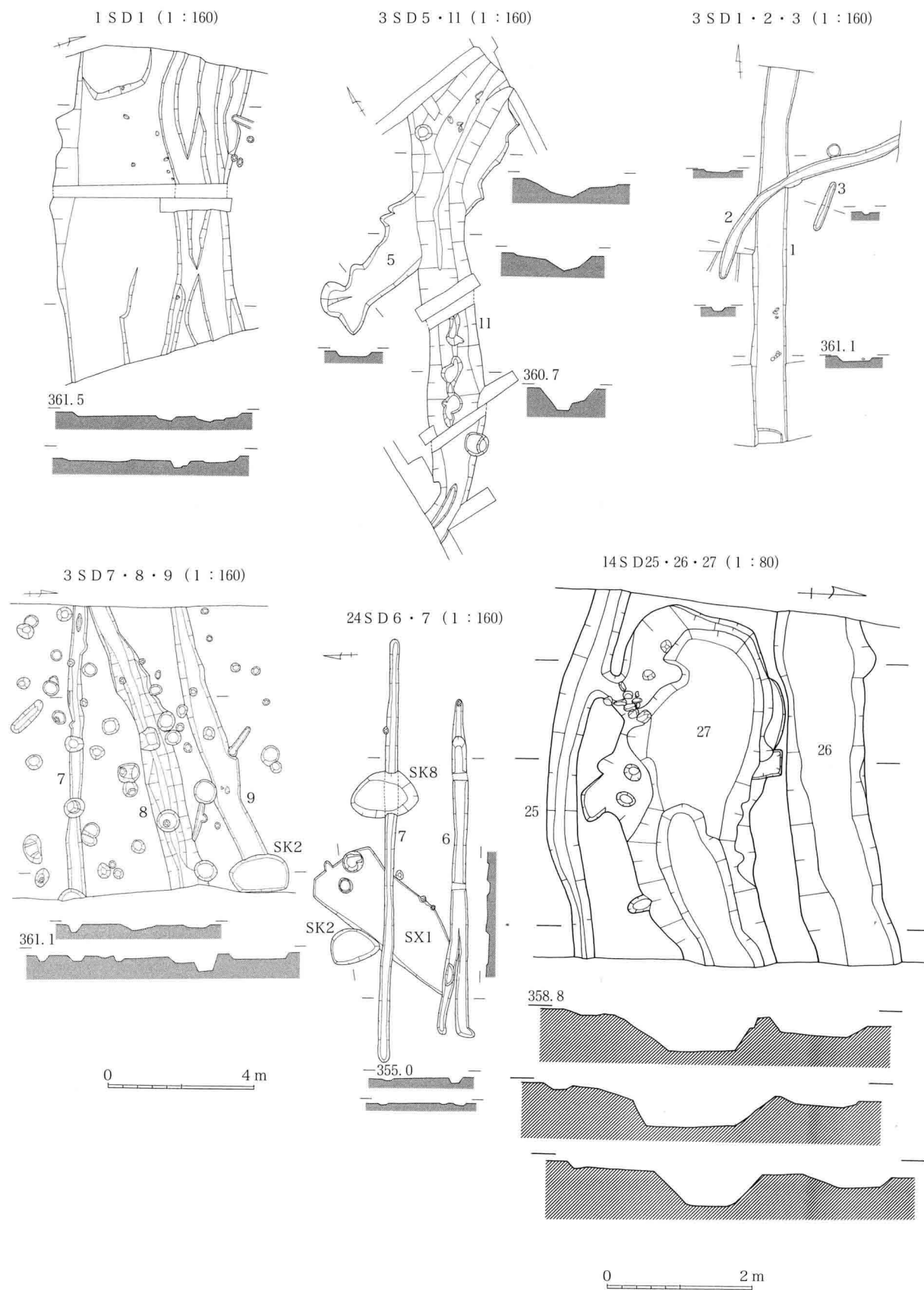
52図 権現堂遺跡土坑実測図 (1:40)



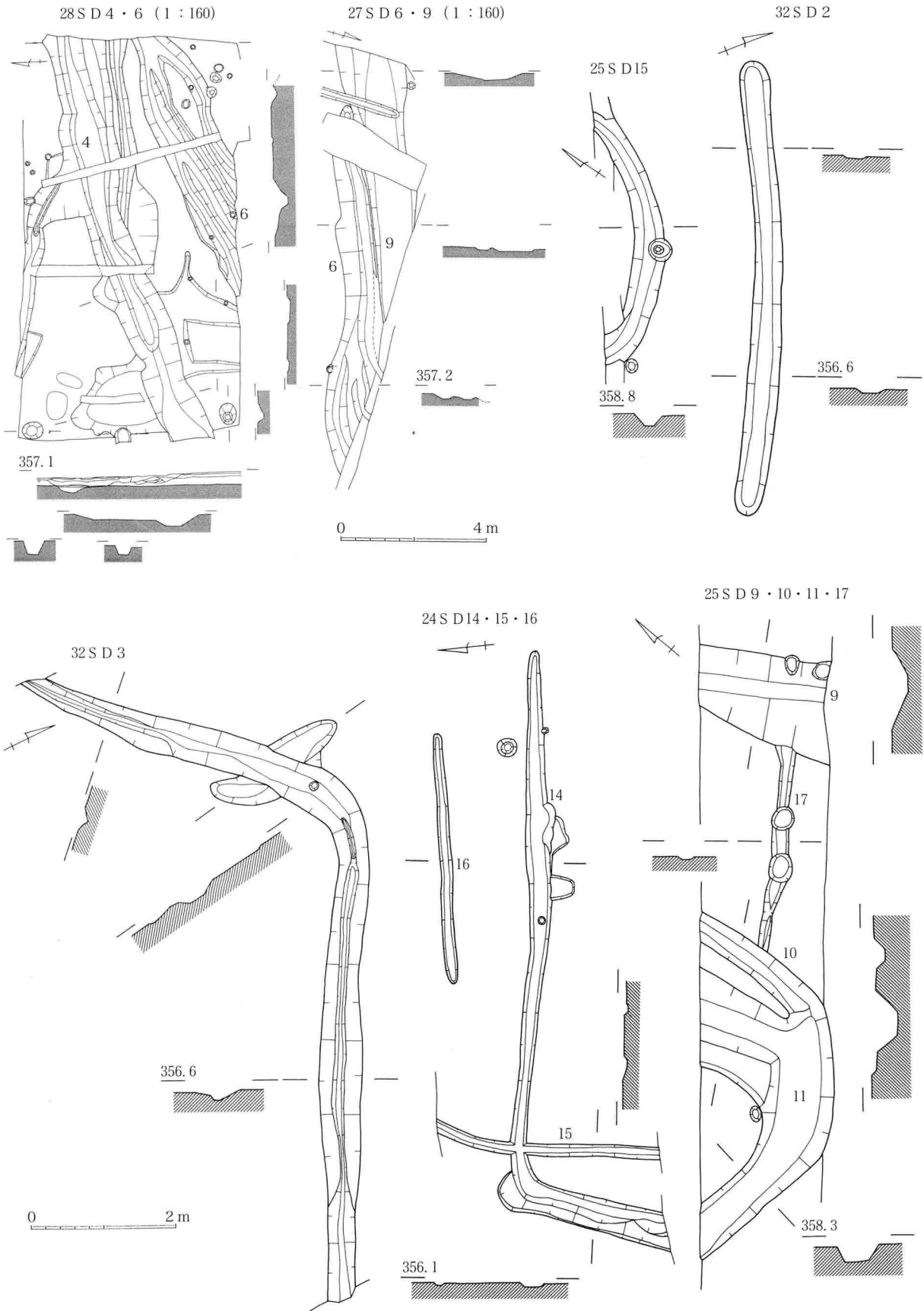
53図 権現堂遺跡土坑実測図（1：40、24 S K 20・S K 8は1：20）



54図 権現堂遺跡竪穴状遺構・小穴群（一部抜粋）実測図（1：80）



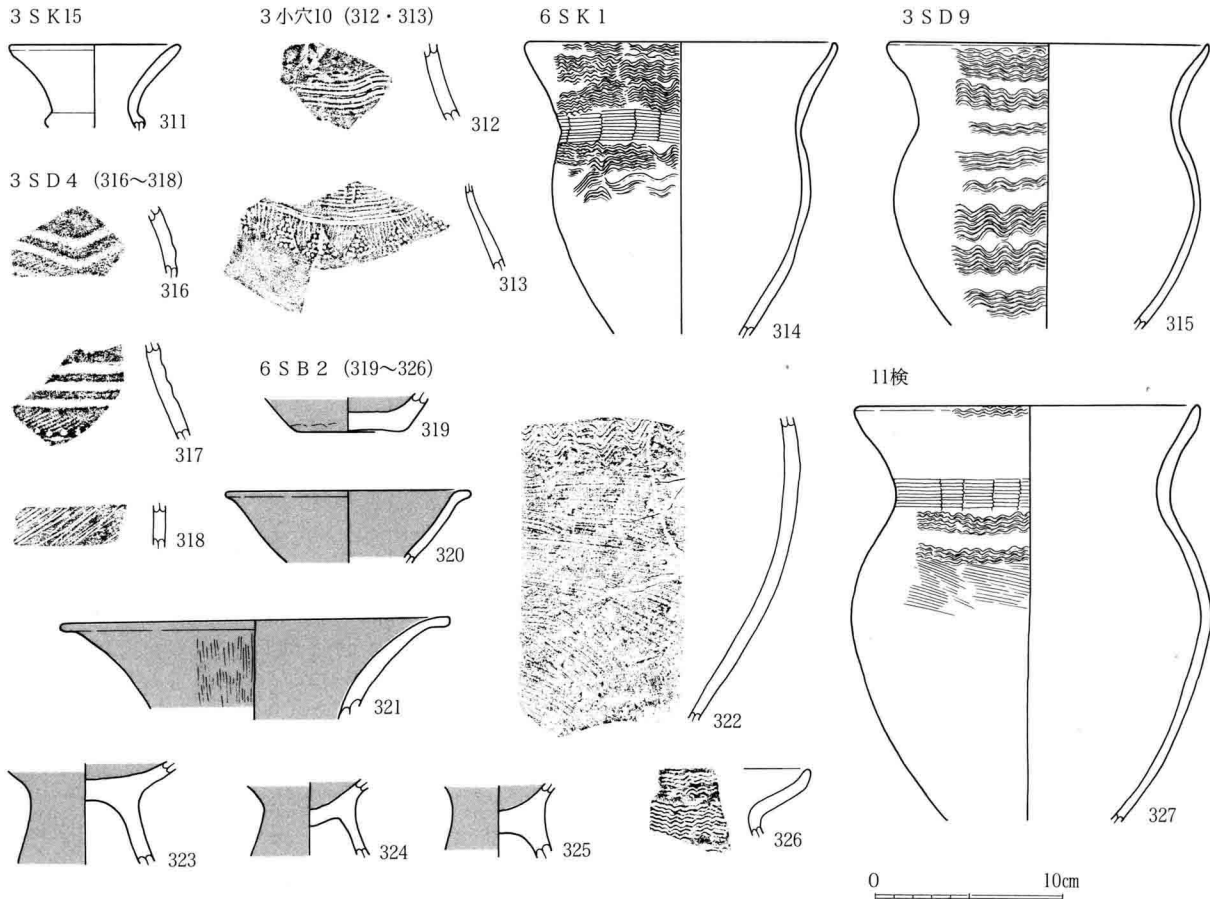
55図 権現堂遺跡溝址実測図 (1 : 80、1 : 160)



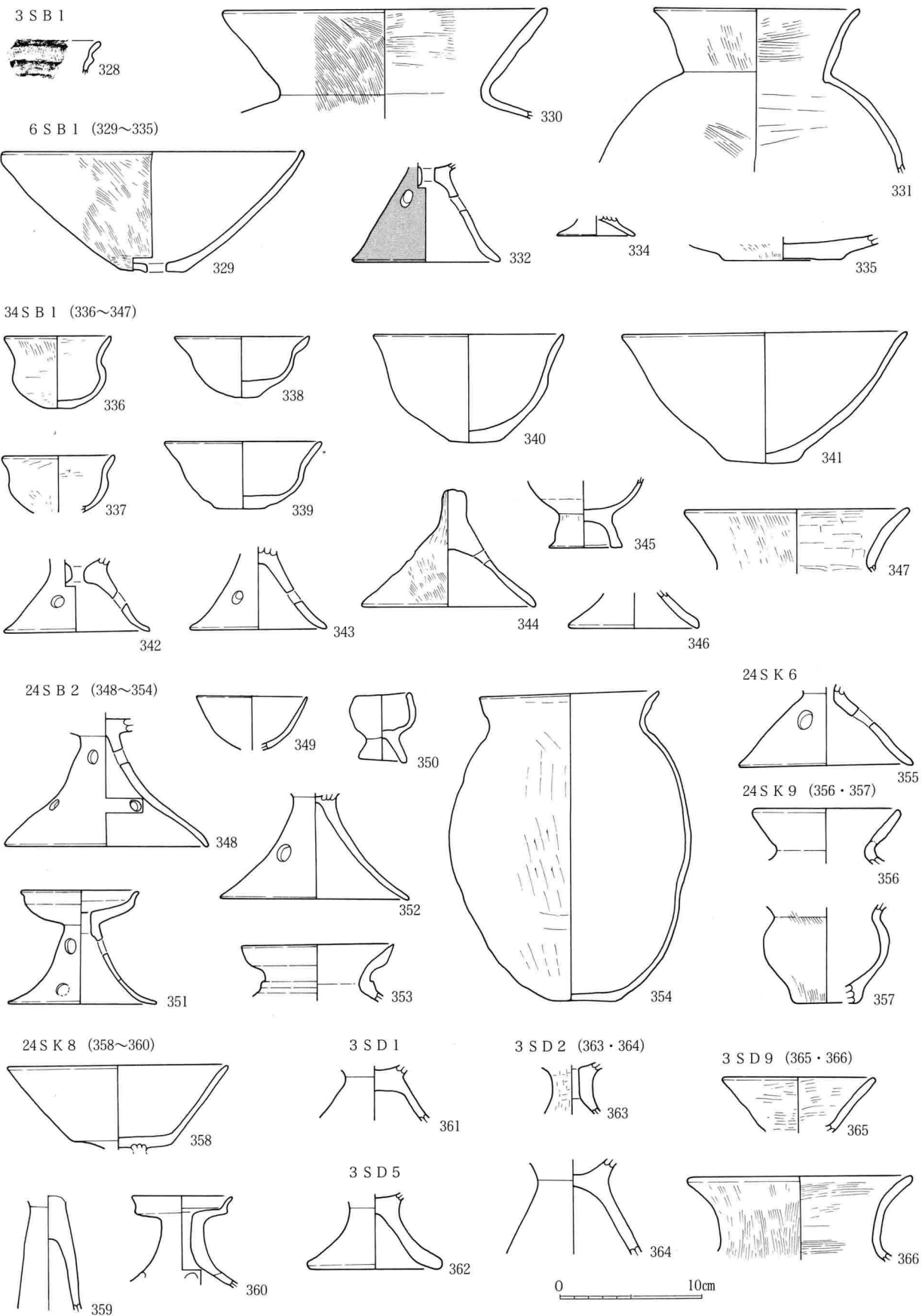
56図 権現堂遺跡溝址実測図 (1:80、1:160)

住居址観察表

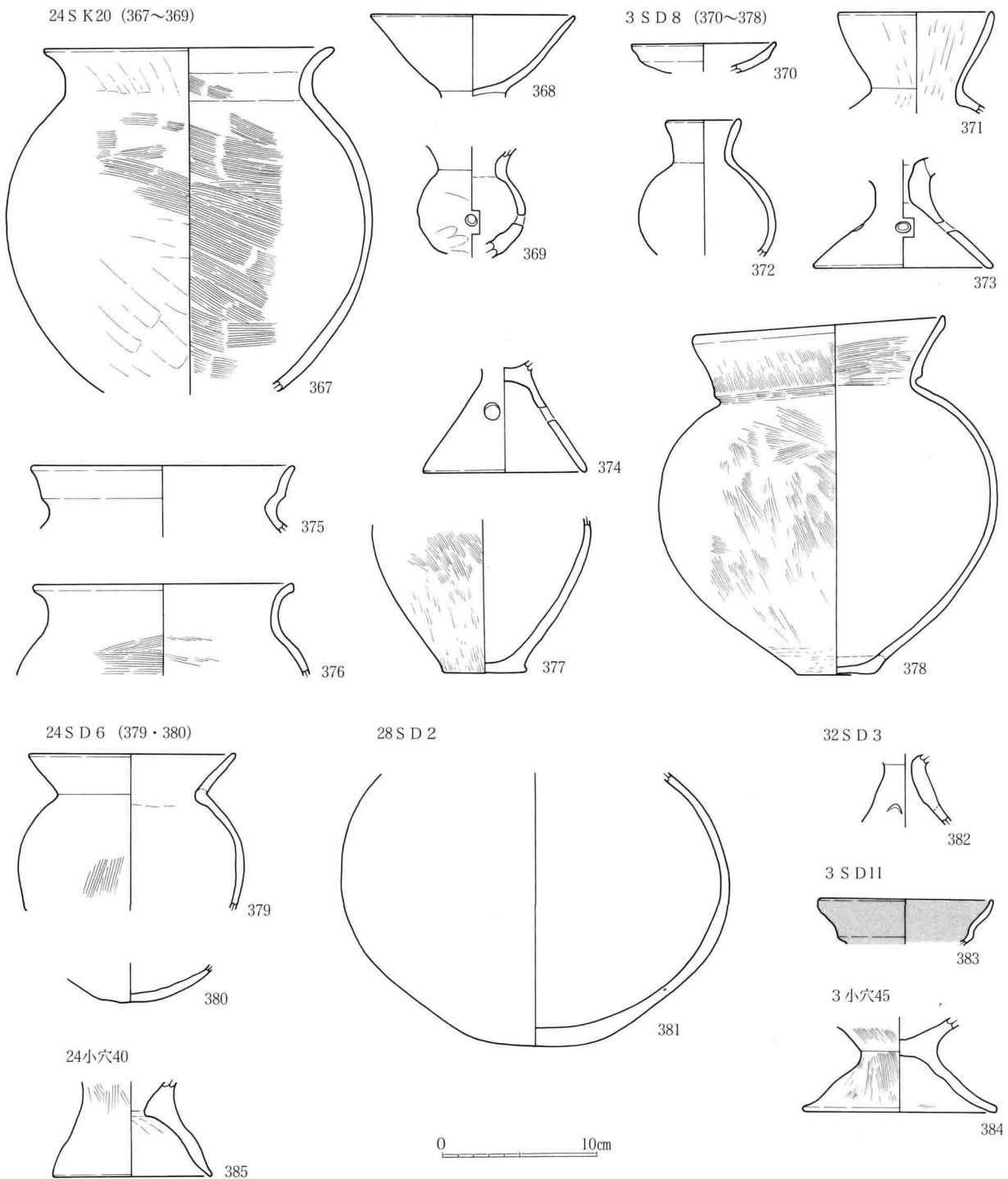
遺構名	図番号	形態	規模(m)	主軸方向	内部施設等	遺物	図番号
6SB1	46	隅丸方形	5.1・5.6	N56°W	北壁中央カマド・柱穴・小穴	古墳前・後期	58・60
6SB2	〃	長方形	4.5・3.1	N143°E	南壁西カマド・小穴	弥生中期・古墳後期	57・61
6SB3	〃	方形?		N138°E	東壁北カマド・貯蔵穴	古墳後期	62
6SB4	〃	不整形	4.0・	南北	小穴		
14SB1	〃	方形	4.0・	〃	小穴・磔		
14SB2	47	隅丸方形	5.4・5.6	N37°W	北壁中央カマド・床堅緻	古墳後期	61
14SB3	〃	〃	5.5・	N36°W	柱穴・小穴・床堅緻	〃	62
14SB4	〃	隅丸台形	4.1・3.1	N30°W	周溝・小穴・磔	奈良	65
14SB5	〃	長方形	・5.1	N47°W	北壁中央カマド		
14SB6	〃						
24SB1	48	隅丸方形	(4.0)・	N42°E			
24SB2	〃	隅丸長方形	(5.5)・4.2	N54°W	柱穴長方形配列・小穴・炭化物	古墳前期	58
33SB1	〃	方形	4.1・4.2	N20°W	小穴		
34SB1	〃	方形	3.7・3.5	N10°W	小穴・炭化材	古墳前期	58
14方形溝址 (SD7・8・11)	49	方形	5.4・	N37°E	小穴多数		



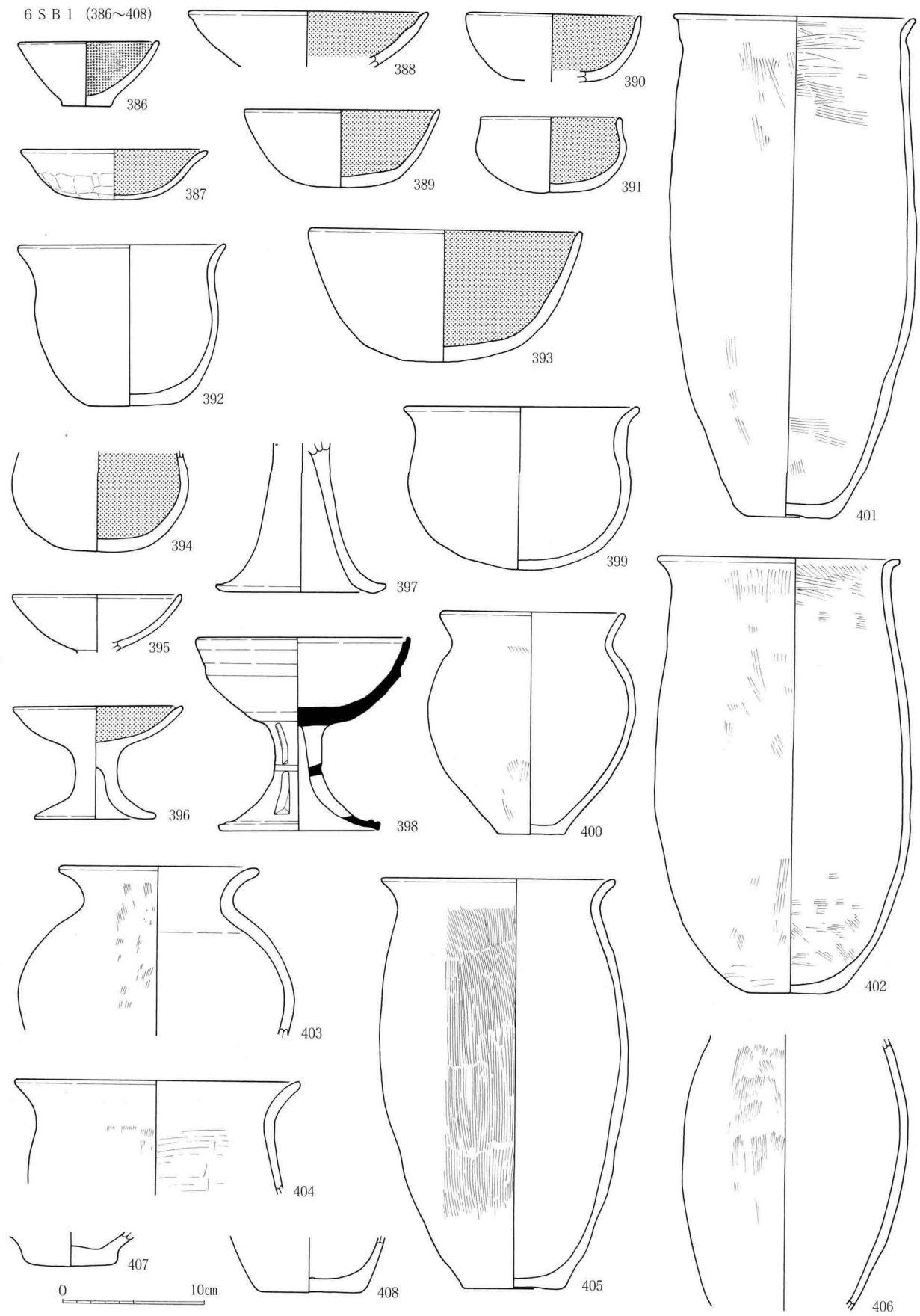
57図 権現堂遺跡出土弥生時代土器実測図(1:4)



58図 権現堂遺跡住居址・土坑・溝址出土古墳時代前期土器実測図(1:4)

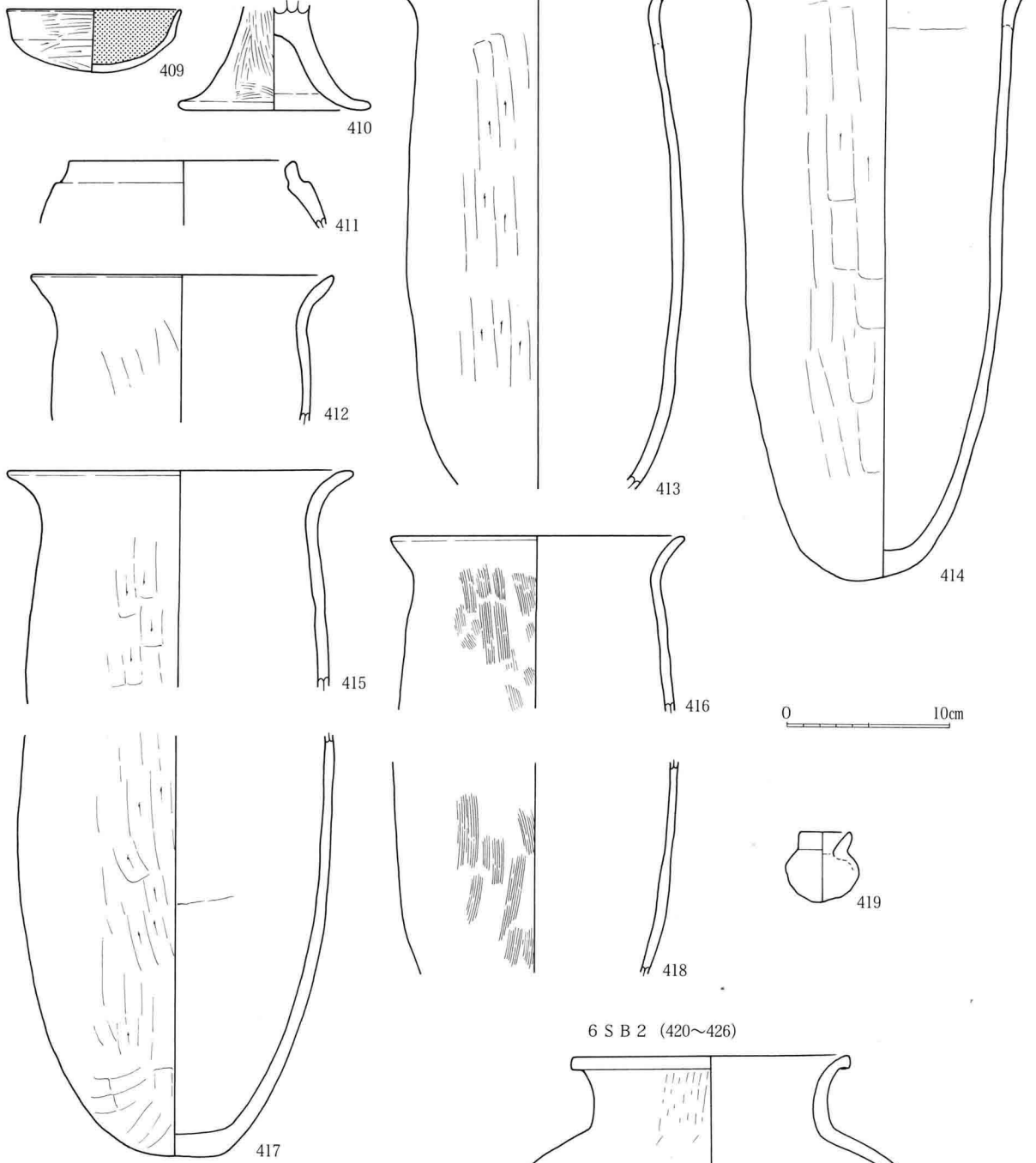


59図 権現堂遺跡土坑・溝址・小穴出土古墳時代前期土器実測図（1：4）

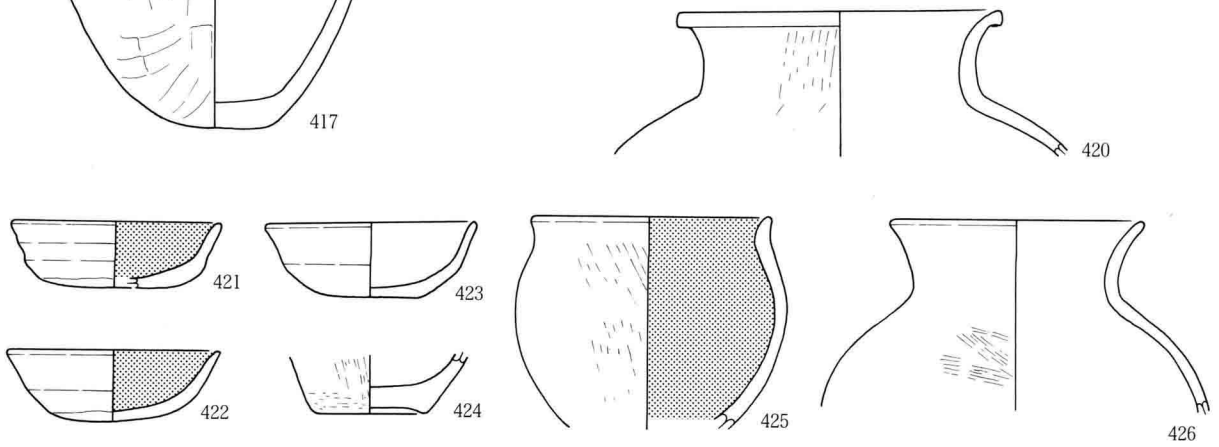


60図 権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図 (1 : 4)

14 S B 2 (409~419)

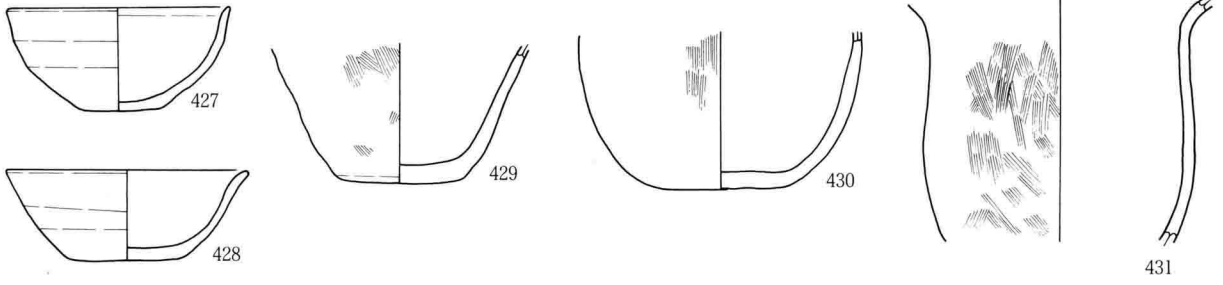


6 S B 2 (420~426)

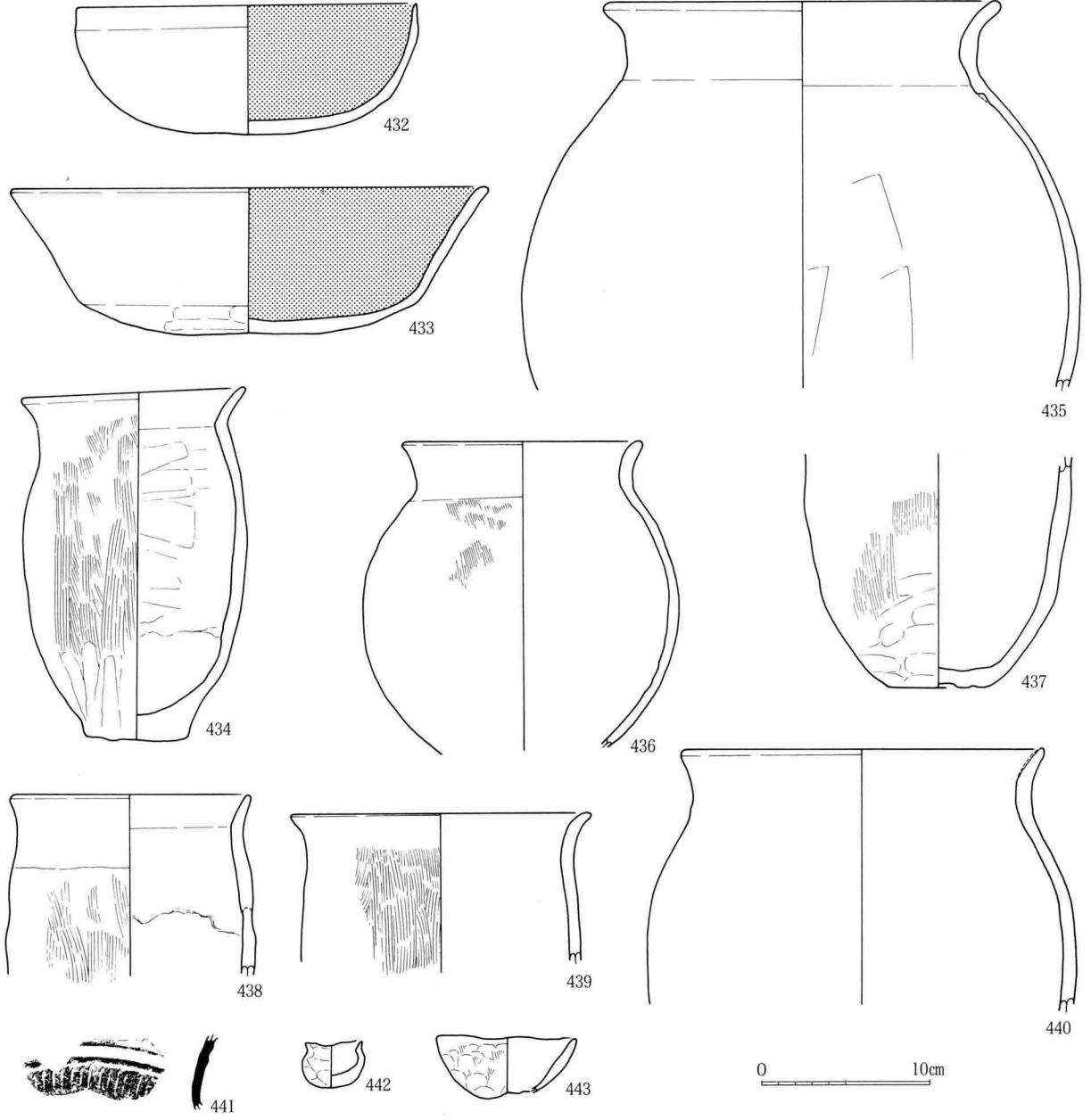


61図 権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図(1:4)

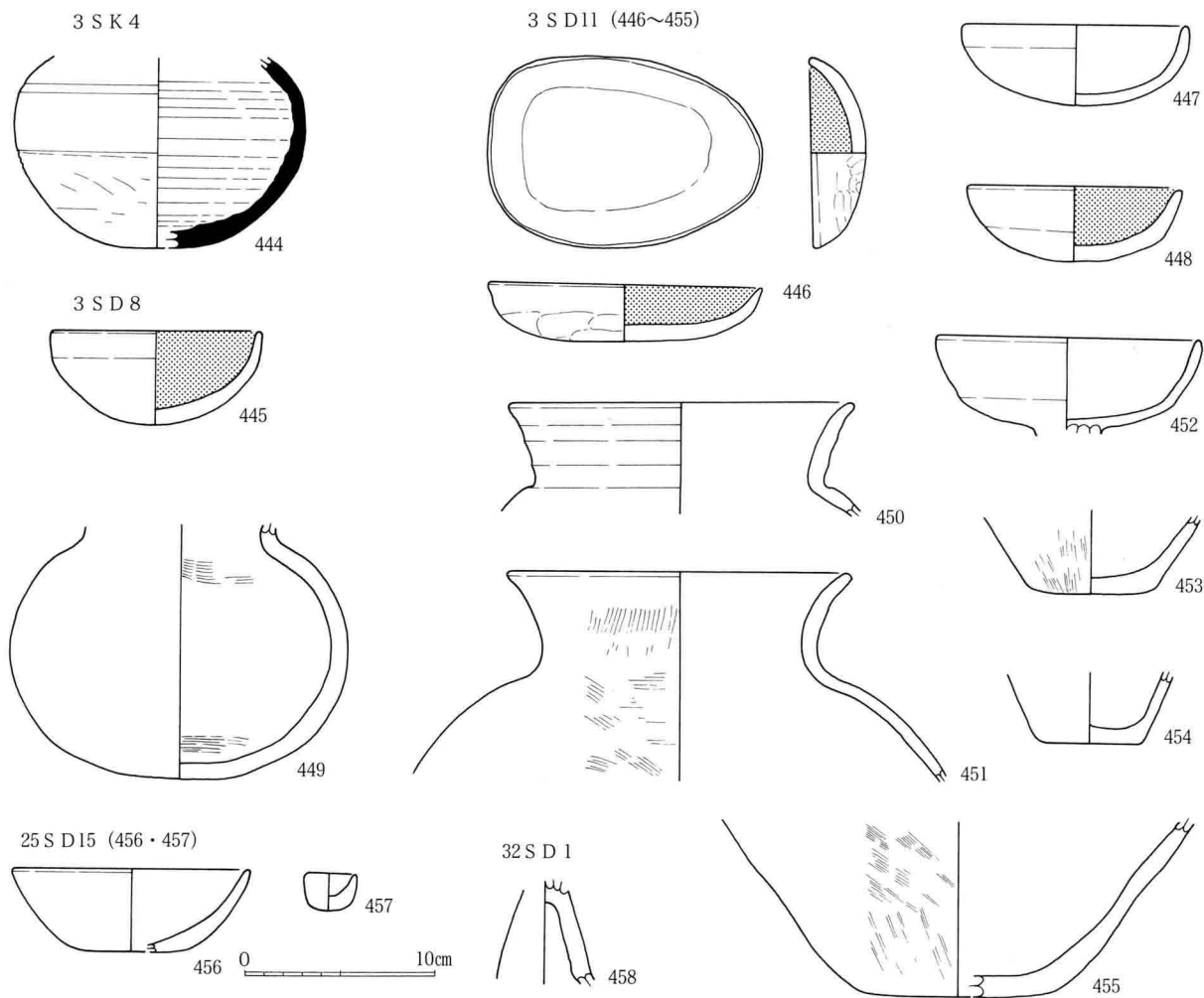
6 S B 3 (427~431)



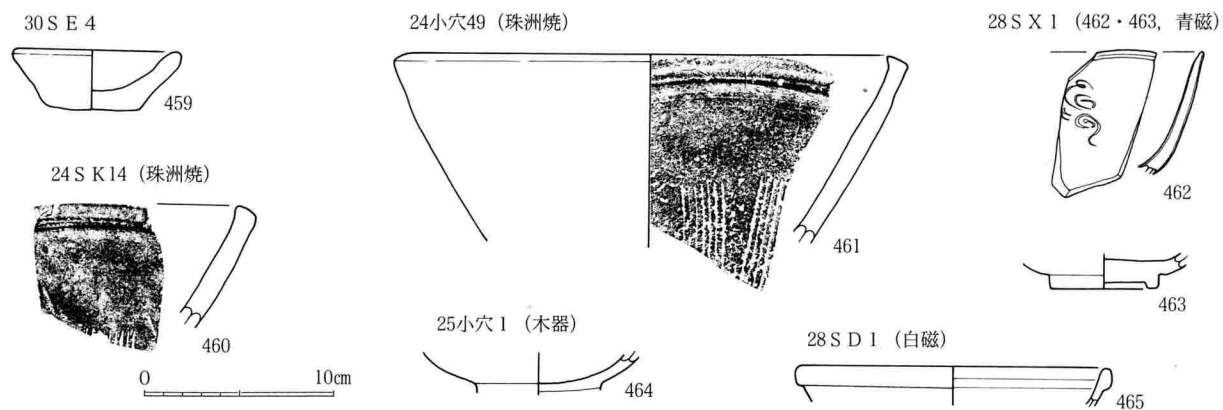
14 S B 3 (432~443)



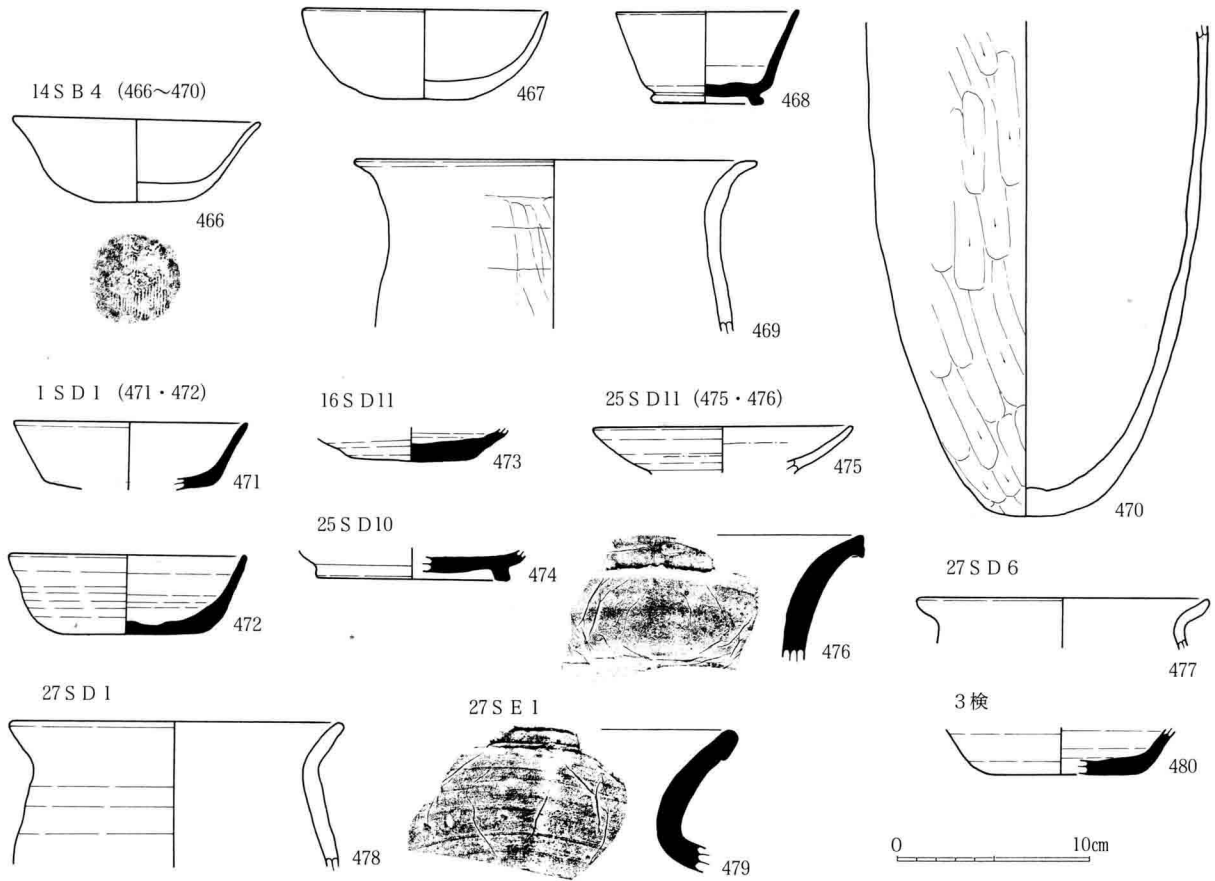
62図 権現堂遺跡住居址出土古墳時代後期土器実測図 (1:4)



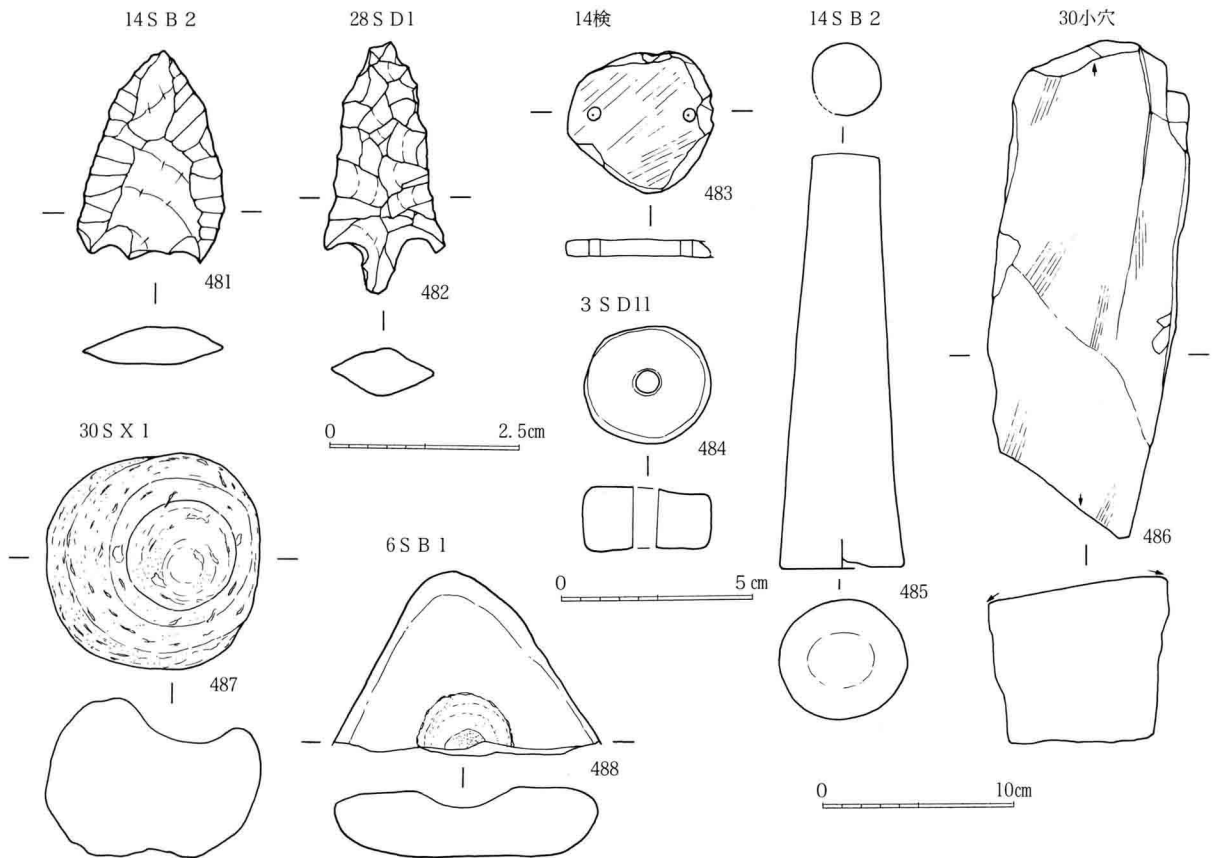
63図 権現堂遺跡土坑・溝址出土古墳時代後期土器実測図(1:4)



64図 権現堂遺跡井戸址・土坑・小穴・竪穴状遺構出土中世遺物実測図(1:4)



65図 権現堂遺跡住居址・溝址・井戸址・検出面出土奈良平安時代土器実測図（1：4）



66図 権現堂遺跡出土石・土製品実測図（481～483は1：1、484は1：2、485～488は1：4）

掘立柱建物址・小穴群観察表

遺構名	図番号	形態	規模(芯々m)	柱間(芯々cm)	長軸方向	説明
27ST1	49	2間×2間(不整)	東列3.9・西列4.3 北列4.0・南列4.1	東2.0・1.9, 西2.1・2.2 北2.1・1.9, 西1.8・2.3	南北	径20~24 深12~30
9ST1	50	2間×1間(長方形)	北列3.5・南列3.5	南北1.8, 東西1.8	N82°W	

井戸址観察表

遺構名	図番号	土 坑		石 組		底面	説明	遺 物	図番号
		形態	規 模 (m)	形態	規模(m)				
16SE3	50	楕円形	上11.4~1.3・深0.9			平坦	U字形素掘り・集石		
30SE1	〃	〃	上1.6~1.95・深1.0	円形	上0.9・深1.0	〃	河原石積み	曲物	PL29
30SE2	49	〃	上0.85~0.7・深0.52			〃	集石		
30SE3	〃	円形	上0.7・深0.45			〃			
30SE4	〃	〃	上1.1・深0.7			鍋底		土器皿	64

土坑・竪穴状遺構観察表

遺構名	図番号	形 態	規模(cm)	説 明	遺 物 図	遺構名	図番号	形 態	規模(cm)	説 明	遺 物 図
			長軸×短軸×深						長軸×短軸×深		
27SE1	51	楕円形	・220・22	馬骨埋納		30SK8	52	円形	39・―・15	集石	
14SK14	〃	〃	57・52・13			31SK1	〃	〃	40・―・13		
14SK16	〃	〃	55・52・30			31SK2	〃	楕円形	37・32・17		
14SK19	〃	〃	56・44・19	小穴		32SK1	〃	〃	41・31・5		
14SK24	〃	円形	36・―・17			34SK1	〃	〃	103・76・36		
16SK1	〃	〃	50・―・16	桶		34SK2	〃	円形	56・―・10		
16SK3	〃	楕円形	・62・4			34SK3	〃	隅丸方形	45・―・9		
16SK4	〃	隅丸方形	105・96・5	小穴		24SK1	〃	楕円形	30・25・5		
20SK3	〃	不整円形	50・―・5			24SK4	53	不整形	70・68・12	小穴	
25SK2	〃	円形	24・―・3			24SK6	〃	楕円形	110・85・6	古墳前期	58
25SK8	〃	楕円形	37・28・20	小穴		24SK8	〃	三角形	117・83・12	〃	〃
26SK1	〃	円形	60・―・35			24SK9	52	楕円形	76・57・9	〃	〃
27SK1	52	〃	39・―・7			24SK11	53	〃	140・52・12		
27SK3	51	不整長方形	130・90・10			24SK13	〃	〃	63・50・57		
27SK4	52	円形	40・―・25			24SK14	〃	円形	80・―・5	珠洲焼	64
27SK5	〃	楕円形	72・60・20	集石		24SK15	〃	〃	46・―・26		
27SK6	51	隅丸方形	35・30・32			24SK16	〃	〃	39・―・32		
27SX1	52	楕円形	154・92・53			24SK17	〃	〃	53・―・23	集石	
30SK1	〃	円形	52・―・32			24SK18	〃	〃	33・―・10		
30SK2	〃	楕円形	72・53・8			24SK19	〃		48・―・47		
30SK3	〃	〃	154・126・55			24SK20	〃	不整形	75・65・21	古墳前期	59
30SK4	〃	円形	62・―・4	小穴		24SK21	〃	〃	80・45・5		
30SK5	〃	長方形	79・54・8			24SK22	〃	円形	46・―・17		
30SK6	〃	円形	50・―・37			30SX1	54	楕円形	220・198・44	二重土坑	
30SK7	〃	楕円形	64・52・25	集石		30SX2	〃	長方形	152・140・22	集石	

溝址観察表

遺構名	図番号	規模 (cm)	方向	説明	遺物	図番号
1SD1	55	幅480・深8~26	東西	複合溝, 他区に接合溝なし	奈良	65
3SD1	〃	幅80~95・深5~8	南北	SD2と交差, 直線的	古墳後期	58
3SD2	〃	幅20~35・深6~10	東西	西端弯曲して終結	古墳前期	〃
3SD5	〃	幅90~170・深16	〃	西端終結, SD11により接断	〃	〃
3SD7	〃	幅30~40・深10~14	〃	SD8と交差		
3SD8	〃	幅50~90・深8~42	〃	東から西に深い	古墳前期・後期	58・63
3SD9	〃	幅40~80・深6	〃	SD8と並行, 西端SK2と重複	弥生後期 古墳前期	57 58
3SD11	〃	幅120~150・深50~60	南北	14・28区溝に接続か?	古墳後期	63
14SD25	〃	幅38~95・深10~12	東西	SD27の南に並行, 東で1部接合		
14SD26	〃	幅55~70・深10~20	〃	SD27の北に並行		
14SD27	〃	幅60~75・深35	〃	東端竪穴状遺構化し終結		
24SD14	56	幅20~30・深16~20	〃	東端終結, 西端南北に屈曲		
24SD15	〃	幅16~20・深12~16	南北	SD14と直交		
25SD9	〃	幅90~120・深22	東西	SD17と直交		
25SD10	〃	幅40~45・深20	南北	SD11と接合し終結	平安	65
25SD11	〃	幅60~95・深24~36	東西	南北に屈曲	〃	
25SD15	〃	幅34~45・深20	〃	曲線的	古墳後期	63
27SD6	〃	幅55~110・深6~8	〃	東端終結, 西端分岐		
27SD9	〃	幅120~170・深8~20	〃	SD6と並行		
28SD4	〃	幅120~160・深20~30	南北	複合溝, 14・3区溝に接続か?		
28SD6	〃	幅90~170・深25~30	〃	複合溝・東端で集約, SD4と接続		
32SD2	〃	幅18~22・深8~10	東西	SD1と並行, 両端終結	古墳前期	59
32SD3	〃	幅18~30・深10~15	〃	南北に屈曲		

弥生時代土器観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
3SK15 (57図)							
311	弥生	壺	9.0			1/6	頸: 擬突帯, 内外磨耗
3小穴10 (57図)							
312	弥生	壺				ママ	頸: 櫛平行線文
313	〃	〃				〃	頸: 櫛2連止簾状文・甕先鋸歯文・斜行線文・刺突文
6SK1 (57図)							
314	弥生	甕	16.4			1/4	口縁・体部上半: 櫛波状文, 頸: 櫛簾状文, 内外磨耗
3SD9 (57図)							
315	弥生	甕	17.0			1/4	口縁~体部: 櫛波状文, 内外磨耗
3SD4 (57図)							
316	弥生	壺				ママ	体部中位: 甕重山形文
317	〃	〃				〃	体部上半: 甕平行沈線文・LR縄文・刺突列点文

弥生時代土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高		
318	弥生	甕				ママ	体部上半：櫛斜行線文
6 S B 2 (57図)							
319	弥生	浅鉢		5.8		3/4	内外ヘラミガキ・赤彩
320	〃	高坏	13.0			1/4	〃・〃
321	〃	壺	20.6			1/5	〃・〃
322	〃	甕				ママ	体部上半：櫛波状文，体部下半：櫛斜行線文
323	〃	高坏				〃	内外ヘラミガキ・赤彩，脚内ナデ
324	〃	〃				〃	〃・〃，〃
325	〃	〃				〃	〃・〃，〃
326	〃	甕				〃	口縁：櫛波状文
11検出面 (57図)							
327	弥生	甕				3/5	口唇・体部上半：櫛波状文，頸：櫛簾状文

古墳時代前期土器観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
3 S B 1 (58図)							345	〃	台付甕		5.2		1/2	内外磨耗	
328	土師	甕				ママ	S字状口縁	346	〃	〃		9.2	〃	〃	
6 S B 1 (58図)							347	〃	甕	15.8			3/4	内外ハケナデ・ナデ	
329	土師	甕	21.3	4.6	8.5	3/5	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ	24 S B 2 (58図)							
330	〃	甕	20.4			3/4	内外ハケナデ・ナデ	348	土師	器台	14.3			ママ	内外ヘラミガキ 脚内ナデ，円孔
331	〃	壺	14.4			5/6	内外ハケナデ・ヘラミガキ	349	〃	高坏	7.8			1/2	内外磨耗
332	〃	器台		10.4		〃	内外ヘラミガキ・赤彩 脚内ナデ，円孔	350	〃	〃	3.8	3.2	6.7	完	ミニチュア，手握
334	〃	〃		5.4		ママ	内外ヘラナデ	351	〃	器台	8.3	10.5	8.0	4/5	内外磨耗，円孔
335	〃	壺		8.2		〃	外ハケナデ・ヘラミガキ	352	〃	高坏		13.3		1/3	〃，〃
34 S B 1 (58図)							353	〃	壺	10.7			ママ	内外ヘラミガキ	
336	土師	鉢	7.6	1.7	5.1	3/5	内外ハケナデ・ナデ	354	〃	甕	12.6	5.0	21.5	完	外ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
337	〃	〃	8.0			1/4	〃・〃	24 S K 6 (58図)							
338	〃	〃	9.6	1.7	4.3	完	内外磨耗	355	土師	器台		12.2		ママ	内外磨耗，円孔
339	〃	〃	11.2	3.6	4.7	〃	〃	24 S K 9 (58図)							
340	〃	〃	13.4	3.8	7.6	〃	〃	356	土師	壺		10.4		1/3	内外磨耗
341	〃	〃	20.0	5.2	9.2	〃	内外ヘラナデ・ナデ	357	土師	鉢		4.8		1/4	外ハケナデ・ナデ 内ナデ
342	〃	器台		9.6		ママ	内外磨耗，円孔	24 S K 8 (58図)							
343	〃	高坏		10.4		3/5	〃	358	土師	高坏	15.6			1/3	内外磨耗
344	〃	蓋	12.2		8.2	3/4	外ハケナデ・ナデ 内ナデ，円孔	359	〃	〃				ママ	〃

古墳時代前期土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
360	土師	器台	7.0			4/5	内外ヘラミガキ	373	々	器台	11.8			1/3	外ヘラミガキ・脚内ナデ・円孔
3 S D 1 (58図)							374	々	高坏		10.6			3/4	々・々・々
361	土師	高坏				3/5	内外ヘラミガキ 脚内ナデ	375	々	甕	16.8			1/5	内外磨耗
3 S D 5 (58図)							376	々	々	17.0			々	内外ハケナデ・ヘラナデ	
362	土師	台付甕		9.4		ママ	外ヘラナデ・脚内ナデ	377	々	々		5.4		1/3	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
3 S D 2 (58図)							378	々	々	16.4	5.2	22.5	3/5	外ハケナデ・ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ	
363	土師	器台				3/4	外ヘラミガキ	24 S D 6 (59図)							
364	々	高坏					内外ヘラミガキ 脚内ナデ	379	土師	甕	13.2			1/4	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
3 S D 9 (58図)							380	々	々		丸				内外磨耗
365	土師	埴	10.8			1/2	内外ヘラミガキ	28 S D 2 (59図)							
366	々	甕	15.8			3/5	内外ハケナデ・ヘラナデ	381	土師	壺		丸		3/5	内外磨耗
24 S K 20 (59図)							32 S D 3 (59図)								
367	土師	甕	18.6			1/4	内外ハケナデ・ヘラナデ	382	土師	器台				1/2	内外磨耗, 円孔
368	々	高坏	13.2			1/4	内外ヘラミガキ	3 S D 11 (59図)							
369	々	小型丸底		丸		1/2	外ヘラナデ・ナデ, 円孔	383	土師	高坏	11.2			3/5	内外ヘラミガキ・赤彩
3 S D 8 (59図)							3 小穴45 (59図)								
370	土師	器台	9.4			ママ	内外ヘラミガキ	384	土師	台付甕		12.6			外ハケナデ・ヘラナデ
371	々	埴	10.2			1/3	々	24小穴40 (59図)							
372	々	壺	4.9			1/2	内外磨耗	385	土師	器台	10.2				外ハケナデ・ヘラナデ 脚内ナデ

古墳時代後期土器観察表(1)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
6 S B 1 (60図)							395	土師	高坏	12.0			ママ	内外ヘラミガキ	
386	黒色	鉢	10.1	3.6	4.6	完	内外ヘラミガキ・内黒	396	黒色	々	12.0	8.6	8.0	3/4	々・内黒
387	々	坏	13.3	丸	3.6	3/4	外ヘラケズリ・ヘラミガキ 内ヘラミガキ・内黒	397	土師	々		12.1		ママ	外ヘラミガキ・脚内ナデ
388	々	々	17.0	々		1/7	内外ヘラミガキ・内黒	398	須恵	々	15.3	11.4	13.7	3/4	ロクロ, 脚2段透し
389	々	々	13.8	々	5.5	1/6	々・々	399	土師	鉢	16.6	丸	11.5	完	内外ヘラミガキ
390	々	々	12.4			々	々・々	400	々	甕	13.1	5.0	15.7	3/4	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
391	々	々	10.0	丸	5.4	完	々・々	401	々	々	17.2	6.2	35.5	完	外ハケナデ・ヘラナデ 内ハケナデ・ヘラナデ
392	土師	鉢	14.8	7.0	11.4	3/4	内外磨耗	402	々	々	17.1	6.8	30.0	3/4	々
393	黒色	々	19.4	丸	9.3	1/4	内外ヘラミガキ・内黒	403	々	壺	14.2			ママ	々
394	々	々		丸		々	々・々	404	々	甕	20.4			3/4	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ

古墳時代後期土器観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
405	土師	甕	16.6	7.2	29.1	3/5	外ハケナデ・内ナデ	433	黒色	鉢	28.2	20.0	8.7	1/2	内外ヘラミガキ・内黒
406	〃	〃				ママ	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ	434	土師	甕	17.2	6.1	20.6	完	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
407	〃	〃		7.2		3/4	内外磨耗	435	〃	〃	23.4			1/3	外ヘラミガキ 内ヘラナデ・ナデ
408	〃	〃		7.6		3/5	〃	436	〃	〃	14.0			1/2	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
14 S B 2 (61図)							437	土師	甕			6.0		1/2	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ・ナデ
409	黒色	坏	10.7	丸	3.9	完	内外ヘラミガキ・内黒	438	〃	〃	14.0			1/3	外ハケナデ 内ナデ・成形痕
410	土師	高坏		11.8		ママ	外ヘラナデ・脚内ナデ	439	〃	〃	17.6			1/5	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
411	〃	鉢	14.0			1/6	内外ヘラナデ	440	〃	〃	21.4			1/4	外ヘラミガキ 内ヘラナデ・ナデ
412	土師	甕	18.6			4/5	外ヘラケズリ・内ナデ	441	須恵	甕				ママ	ロクロ、波状文
413	〃	〃	19.3			2/3	〃・〃	442	土師	鉢	3.4	丸	2.8	完	ミニチュア・手捏
414	〃	〃	18.5	丸	37.1	1/2	〃・〃	443	〃	〃	8.2		3.4	ママ	〃・〃
415	〃	〃	21.3			1/5	〃・〃	3 S K 4 (63図)							
416	〃	〃	18.1			1/4	外ハケナデ・内ナデ	444	須恵	壺				3/5	ロクロ、体部下半:回転ヘ ラケズリ
417	〃	〃				〃	外ヘラケズリ・〃	3 S D 8 (63図)							
418	〃	〃				〃	外ハケナデ・〃	445	黒色	坏	11.0	丸	4.9	3/5	内外ヘラミガキ・内黒
419	〃	鉢	3.2	丸	4.3	完	ミニチュア・手捏	3 S D 11 (63図)							
6 S B 2 (61図)							446	黒色	皿	14.5	13.4	3.0	完	楕円形、内外ナデ・内黒	
420	土師	壺	17.2			1/2	内外ヘラミガキ	447	土師	坏	12.2	丸	4.3	〃	内外ヘラミガキ
421	黒色	坏	11.0	丸		1/5	〃・内黒	448	黒色	坏	11.6	丸	4.0	完	内外ヘラミガキ・内黒
422	〃	〃	11.2	6.3	3.8	1/3	〃・〃	449	土師	埴		〃		1/2	外ヘラミガキ 内ハケナデ・ナデ
423	土師	〃	11.2	5.8	3.9	3/4	内外ナデ	450	〃	甕	18.4			1/4	内外ナデ
424	〃	甕		5.8			外ヘラナデ・内ナデ	451	〃	壺	18.4			1/5	外ハケナデ・ペラナデ 内ナデ
425	黒色	鉢	12.7			3/5	内外ヘラナデ・内黒	452	〃	高坏	14.2			1/2	内外ヘラミガキ
426	土師	壺	13.6			1/3	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ	453	〃	甕		6.6		〃	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
6 S B 3 (62図)							454	〃	〃		5.6			3/4	外ヘラナデ・内ナデ
427	土師	坏	12.0	4.6	5.5	1/3	内外ヘラミガキ	455	〃	〃		10.4		1/4	外ハケナデ・ヘラナデ 内ナデ
428	〃	〃	12.9	6.0	4.8	〃	〃	25 S D 15 (63図)							
429	〃	甕		7.0		ママ	外ハケナデ・ヘラナデ 内ヘラナデ	456	土師	坏	12.6	4.8	4.4	1/2	外ナデ・内ヘラミガキ
430	〃	〃		6.0		1/2	〃	457	〃	鉢	2.6	丸	2.0	3/5	ミニチュア・手捏
431	〃	〃				〃	〃	32 S D 1 (63図)							
14 S B 3 (62図)							458	土師	高坏					ママ	外ヘラミガキ・内ナデ
432	黒色	鉢	20.1	13.7	7.6	2/3	外ヘラナデ 内ヘラミガキ・内黒								

奈良・平安時代土器観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	
			口径	底径	器高						口径	底径	器高			
14 S B 4 (65図)							25 S D 11 (65図)									
466	土師	坏	13.1	4.3	4.4	完	ロクロ	底：静止糸切り	475	灰釉	皿	13.8		1/8	ロクロ	
467	〃	坏	12.8	5.3	4.7	〃	外ヘラナデ・内ヘラミガキ		476	須恵	甕			ママ	〃	
468	須恵	高台坏	9.4	5.7	4.8	〃	ロクロ		27 S D 6 (65図)							
469	土師	甕	21.2			1/3	外ヘラケズリ・内ナデ		477	土師	甕	15.4		1/8	内外ナデ	
470	〃	〃		3.7		1/3	〃		27 S D 1 (65図)							
1 S D 1 (65図)							478 土師 甕 17.8									
471	須恵	坏	12.4	9.2		1/3	ロクロ		27 S E 1 (65図)							
472	〃	〃	12.7	8.3	4.2	3/4	〃	底：ヘラケズリ	479	須恵	甕			ママ	ロクロ	
16 S D 11 (65図)							3 検出面 (65図)									
473	須坏	坏		7.0		3/4	ロクロ	底：ヘラケズリ	480	須恵	坏		8.6	1/4	ロクロ	底：ヘラケズリ
25 S D 10 (65図)																
474	須恵	高台坏		10.2		1/4	ロクロ									

中世遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
30 S E 4 (64図)							28 S X 1 (64図)								
459	土師	坏	8.9	5.0	3.2	完	灯明皿, ロクロ	462	青磁	碗			ママ	陰刻文, オリーブ灰色	
24 S K 14 (64図)							463 〃 〃 5.6								
460	珠洲	播鉢				ママ	播目9本	28 S D 1 (64図)							
24小穴49 (64図)							465 白磁 椀 16.2								
461	珠洲	播鉢	27.2			1/6	播目7本								
25小穴1 (64図)															
464	木	椀				ママ	ニレ科ケヤキ属ケヤキ								

石・土製品観察表 (66図)

番号	種別	器種	遺構	法量等 (cm)	特記事項	番号	種別	器種	遺構	法量等 (cm)	特記事項
481	石	石鏃	14 S B 2	長2.8・幅1.9, 2g	チャート, 無茎	485	土	支脚	14 S B 2	長22.0・上径3.6・下径6.9	カマド出土
482	〃	〃	28 S D 1	長3.3・幅1.6, 3g	〃, 有茎	486	石	砥石	30小穴	長26.3・幅9.5	凝灰岩・1面使用
483	〃	有孔円板	14検	径1.9・厚0.2	滑石, 2孔	487	〃	凹石	30 S X 1	径11.5	安山岩
484	土	紡錘車	3 S D 11	径3.5・厚1.7, 9g	有孔 (径0.7cm)	488	〃	〃	6 S B 1	幅14.2	砂岩



Ⅲ-57 3区 (南より)



Ⅲ-58 6区 (北より)



Ⅲ-59 9-1区 (東より)



Ⅲ-60 9-2区 (西より)



Ⅲ-61 10-2区 (東より)



Ⅲ-62 16区 (北より)



Ⅲ-63 14区 (南より)



Ⅲ-64 20区 (東より)

P L 16 権現堂遺跡調査区